

四日市農林事務所管内

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	四日市市
番号	区分	事業名	
1	基本	児童発達支援センターあけぼの学園移転整備事業	
事業費	64,119,000 円(うち交付金	29,831,570 円	うち基金活用 28,719,530 円)

1. 事業の目的	児童発達支援センターあけぼの学園移転整備において、三重県材を活用した机や椅子等の備品を導入することにより、施設を利用する児童や保護者に、森林や木材について学び、ふれあう機会を提供し、森と県民との関係を深めることを目的とする。
2. 事業実績概要	<p>【事業内容】 児童発達支援センターあけぼの学園移転整備において、三重県材を活用した机や椅子等の備品を導入した。</p> <p>【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 四日市市</p> <p>【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない。</p> <p>【箇所数】 児童発達支援センターあけぼの学園</p> <p>【事業量】 別紙「事業量」参照</p> <p>【事業実施期間】 平成30年5月18日～平成31年3月31日</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 利用者30,000人／年を想定</p>
3. 有効性	<p>【実施箇所の選定理由】 三重県産材を使用した木製備品を導入することにより、来園者に木と触れ合う機会を提供することができる。また、木製備品の特徴である木の匂いや温かみのある空間を提供することで県産材に対する愛着と森林を育む意識を高めることができるため。</p> <p>【実施した効果】 木製備品が持つ木の温かみが感じられる施設となった。</p> <p>【実施箇所の今後の管理体制】 市の備品として日常管理を行う。</p> <p>【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 「みえ森と緑の県民税」を財源として、県産材を使用している木製備品であることを広く来園者にPRすることで、木材を利用する意義を周知する。</p> <p>【実施内容に対する住民等の反応】 来園者からは「木の温かみが感じられる」、「木目が美しい」などの意見があり好評である。</p>

対策区分	3. 森を育む人づくり		市町名	四日市市
番号	区分	事業名		
1	基本	児童発達支援センターあけぼの学園移転整備事業		
事業費	64,119,000 円(うち交付金	29,831,570 円	うち基金活用	28,719,530 円)
4. 効率性				
【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 市による備品購入				
【実施方法の選定理由】 市有施設の備品であるため。				
【契約方法と落札率または補助率等】 指名競争入札(落札率91.3%)				
【契約相手方の選定理由】 指名競争入札				
【事業費の積算根拠】 見積書の聴取				
5. 公益性（波及度）				
【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 利用者30,000人／年を想定				
【管理責任者（森林所有者）への対応】 個人が所有する森林等の整備でなく、該当しない。				
【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 市の備品であるため、転用又は目的外使用はない。				
6. 周知実績と今後の周知				
【実施前の実績】 住民や自治会長にみえ森と緑の県民税を活用して実施することを説明した。				
【実施中の実績】 物品を購入する事業であり、「実施中」に該当する期間がないため、実施前後に周知した。				
【実施後の実績】 各備品にロゴマークのプレートを貼付して周知を図った。また、竣工式の際に、みえ森と緑の県民税を活用して実施したことを説明した。				
【今後の見込】 利用者に加えて視察・見学等の来園者に「みえ森と緑の県民税」を活用して三重県材を導入した旨をPRする。				
7. 写真				
別紙のとおり				
8. その他特記事項				

対策区分 3. 森を育む人づくり

市町名 四日市市

事業名 児童発達支援センターあけぼの学園移転整備事業

7. 写真



写真1

木製スタッキングチェア



写真2

木製キューブ型椅子

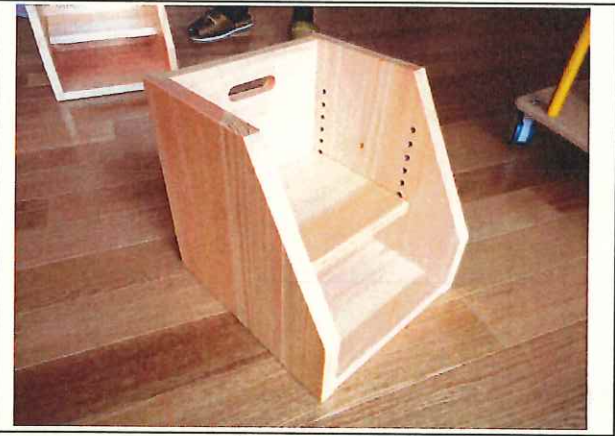


写真3

木製キューブ型椅子(高さ調整有)小



写真4

昇降式カットアウトテーブル



写真5

木製園児イス 4歳用



写真6

木製階段②③④

対策区分 3. 森を育む人づくり

市町名 四日市市

事業名 児童発達支援センターあけぼの学園移転整備事業

7. 写真



写真7
木製絵本棚



写真8
木製整理棚



写真9
木製4段スライド式腰掛台



写真10
木製画用紙整理箱



写真11
丸テーブル(4本脚)



写真12
ロゴマーク貼付見本
※すべての木製備品に貼付

【事業量】

	名 称	数量
1	木製会議テーブル（幕板有）	33
2	木製会議テーブル（幕板無）	2
3	木製スタッキングチェア	105
4	木製キューブ型椅子	17
5	木製キューブ型椅子（高さ調整有）	54
6	木製園児用机	70
7	木製座卓（保育室用）	13
8	木製園児イス	121
9	昇降式椅子（肘付）	12
10	木製座卓	1
11	木製階段①	1
12	木製階段②	1
13	木製階段③	1
14	木製階段④	1
15	木製絵本棚	15
16	木製ままごとテーブル	13
17	木製座卓（ビーンズ型）	2
18	木製ベンチ（背付）	3
19	木製ベンチ（背無）	6
20	昇降式カットアウトテーブル	4
21	木製絵本棚（天端Rタイプ）	1
22	木製整理棚	4
23	木製パンフレットスタンド	5
24	木製背板付棚	26
25	木製4段スライド式腰掛台	2
26	木製フックスタンド	5
27	木製パーティションA	5
28	木製パーティションB	5
29	木製画用紙整理箱	14
30	木製箱車	5
31	木製サークルテーブル	4
32	片アールテーブル（2本脚）	2
33	ベンチ（背無し）	4
34	キッズコーナー（ベンチ収納付き）	4
35	キッズコーナー（ベンチ棚なし）	3
36	キッズコーナー（コーナーベンチ）	4
37	丸テーブル（4本脚）	2
38	チェア	6

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	四日市市
------	-----------------	-----	------

番号	区分	事業名
2	基本	里山・竹林環境保全支援事業
事業費	1,254,000 円(うち交付金	1,245,000 円 うち基金活用 449,000 円)

1. 事業の目的

市内の里山保全活動団体等が地域住民の憩いの場としての利用や安全性の確保を目的として、自主的に里山や竹林を整備する取組みを支援して、持続的な活動に資することを目的とする。

2. 事業実績概要

【事業内容】
市内の里山保全活動団体等が自主的に取り組む里山や竹林の整備活動に対して事業費の一部を支援する。

【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】
自治会等の団体

【補助率等】
対象経費の3/4以内

【箇所数】
3箇所3団体

【事業量】
【桜町南自治会】事業費:671,134円うち補助金500,000円、活動面積:0.4ha
【山一里地・里山クラブ】事業費:327,313円うち補助金245,000円、活動面積:0.35ha
【小山町自治会】事業費:865,600円うち補助金500,000円、活動面積:0.35ha

【事業実施期間】
平成30年5月18日～平成31年3月31日

【受益者、参加者、利用者数等】
受益者:生活環境が向上する3地区300戸
事業参加者:【桜町南自治会】延べ71人 【山一里地・里山クラブ】延べ33人 【小山町自治会】延べ100人

3. 有効性

【実施箇所の選定理由】
荒廃した里山や竹林が再生され、憩いの場や安全性が確保されるとともに、生物多様性の保全に資することが期待できる。

【実施した効果】
適切に里山や竹林が保全される意義を広く周知することによって、自主的な保全活動の拡大を推進した。

【実施箇所の今後の管理体制】
各土地所有者又は土地管理者が管理を行う。

【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】
自治会の回覧板等を通じて「みえ森と緑の県民税」の活用実績を周知して、税の趣旨や必要性を身近に感じてもらう。

【実施内容に対する住民等の反応】
地元住民からは、通行時の見通しが良好となり地域の安全性が上がるだけではなく、獣害被害の防止にも資することとなり、また生物多様性の保全に貢献できたと好評である。

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	四日市市
------	-----------------	-----	------

番号	区分	事業名
2	基本	里山・竹林環境保全支援事業
事業費	1,254,000 円(うち交付金	1,245,000 円 うち基金活用 449,000 円)

4. 効率性	<p>【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 補助</p> <p>【実施方法の選定理由】 公募による実施</p> <p>【契約方法と落札率または補助率等】 補助対象経費の3/4</p> <p>【契約相手方の選定理由】 —</p> <p>【事業費の積算根拠】 当該団体から市へ提出された実績報告書</p>
5. 公益性（波及度）	<p>【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 受益者:3地区300戸 事業参加者:【桜町南自治会】延べ71人 【山一里地・里山クラブ】延べ33人 【小山町自治会】延べ100人</p> <p>【管理責任者（森林所有者）への対応】 事前に土地所有者から当該活動に関して承諾を得ている。</p> <p>【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 当該地の転用規制等は困難であるが、適正利用について確認済みである。</p>
6. 周知実績と今後の周知	<p>【実施前の実績】 事業募集時に「みえ森と緑の県民税」を活用することを周知した。</p> <p>【実施中の実績】 各事業代表者から事業参加者に対してチラシ等配布し、「みえ森と緑の県民税」を活用していることを周知した。</p> <p>【実施後の実績】 市ホームページに実施事例を掲載するなどして周知を図った。</p> <p>【今後の見込】 自治会の回覧板等を通じて「みえ森と緑の県民税」の活用実績を周知して、税の趣旨や必要性を身近に感じてもらう。</p>
7. 写真	別紙のとおり
8. その他特記事項	

対策区分

3. 森を育む人づくり

市町名

四日市市

事業名

里山・竹林環境保全支援事業

7. 写真



写真1

整備した里山の施行範囲の図面

写真2

A地点の整備後の様子



写真3

B地点の整備後の様子

写真4

活動団体による下刈りの様子

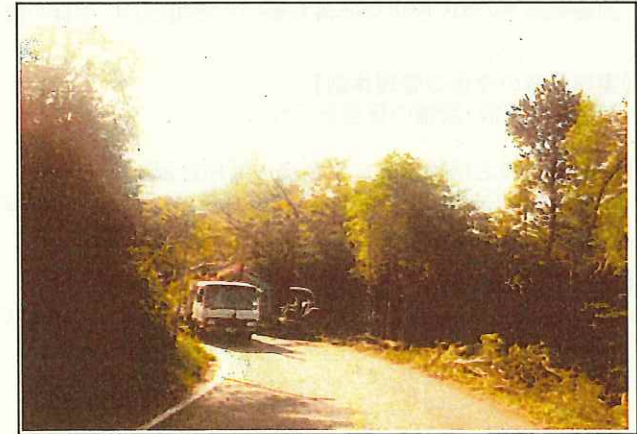


写真5

活動団体による植栽作業の様子

写真6

委託作業による道路沿いの伐採作業の様子

対策区分	3. 森を育む人づくり		市町名	四日市市
番号	区分	事業名		
3	基本	中学校備品整備事業		
事業費	1,632,960 円(うち交付金	1,632,960 円	うち基金活用	円)

1. 事業の目的	<p>三重県材を活用した図書室の椅子を導入することにより、図書室を木のぬくもりのある空間にし、読書活動を推進するとともに、利用する生徒が、森林環境について関心を高めることを目的とする。</p>
2. 事業実績概要	<p>【事業内容】 四日市市立富洲原中学校の図書室において、三重県産材を活用した椅子を導入した。</p> <p>【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 四日市市</p> <p>【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない。</p> <p>【箇所数】 四日市市立富洲原中学校 図書室</p> <p>【事業量】 椅子40脚</p> <p>【事業実施期間】 平成31年1月23日～平成31年3月31日</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 富洲原中学校全生徒数:約200人</p>
3. 有効性	<p>【実施箇所の選定理由】 三重県材を活用した図書室の椅子を導入することにより、図書室を木のぬくもりのある空間にし、読書活動を推進するため。また、利用する生徒が、森林環境について関心を高める効果が期待できるため。</p> <p>【実施した効果】 図書室が木のぬくもりのある落ち着いた空間となり、生徒の読書環境が整った。</p> <p>【実施箇所の今後の管理体制】 学校長が施設・設備の管理を行う。</p> <p>【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 三重県材を活用した椅子を配置する図書室にポスター等を掲示することにより、「みえ森と緑の県民税」を身近に感じてもらい周知を図る。</p> <p>【実施内容に対する住民等の反応】 職員、生徒からは、木の香りが漂うくつろいだ部屋で読書ができる、と好評である。</p>

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	四日市市
番号	区分	事業名	
3	基本	中学校備品整備事業	
事業費	1,632,960 円(うち交付金	1,632,960 円	うち基金活用 円)
4. 効率性			
【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 市による備品購入			
【実施方法の選定理由】 市有施設の備品であるため。			
【契約方法と落札率または補助率等】 指名競争入札(落札率94.9%)			
【契約相手方の選定理由】 指名競争入札			
【事業費の積算根拠】 見積書の聴取			
5. 公益性（波及度）			
【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 富洲原中学校全生徒数:約200人			
【管理責任者（森林所有者）への対応】 非該当			
【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 市の備品であるため、転用又は目的外使用はない。			
6. 周知実績と今後の周知			
【実施前の実績】 教職員に対して、県産材を使用した図書室用椅子の導入について説明した。			
【実施中の実績】 物品を購入する事業であり「実施中」に該当する期間がないため、実施前後に周知した。			
【実施後の実績】 県産材を使用した製品であることがわかるシールを貼付した。また、学校だより、ホームページ等で紹介した。			
【今後の見込】 森林環境に関する図書を整備するなどして、生徒への理解を深める。			
7. 写真			
別紙のとおり			
8. その他特記事項			

対策区分 3. 森を育む人づくり

市町名 四日市市

事業名 中学校備品整備事業

7. 写真



写真1

椅子

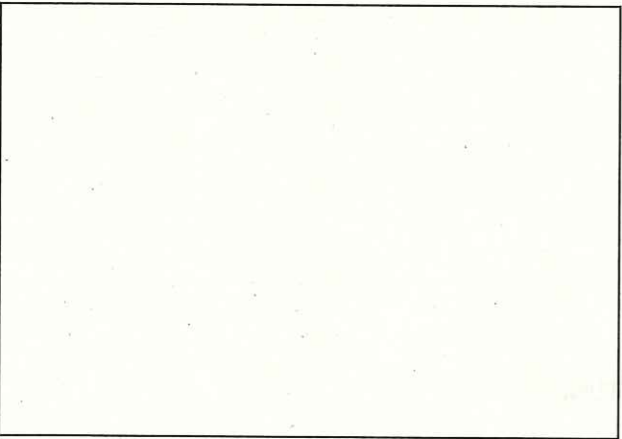


写真3

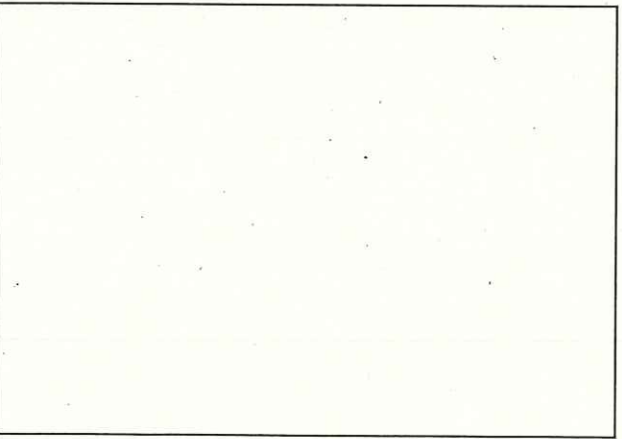


写真5



写真2

全景

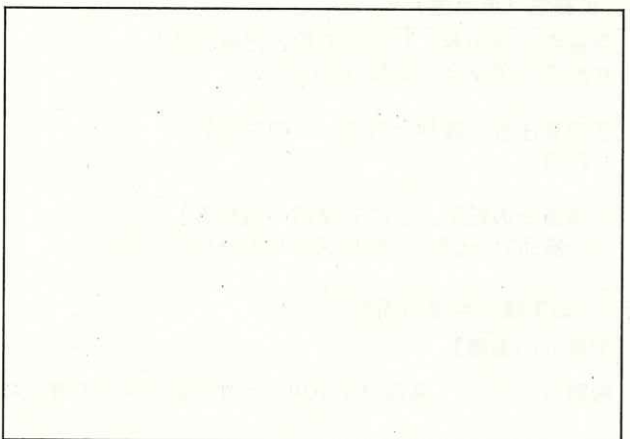


写真4

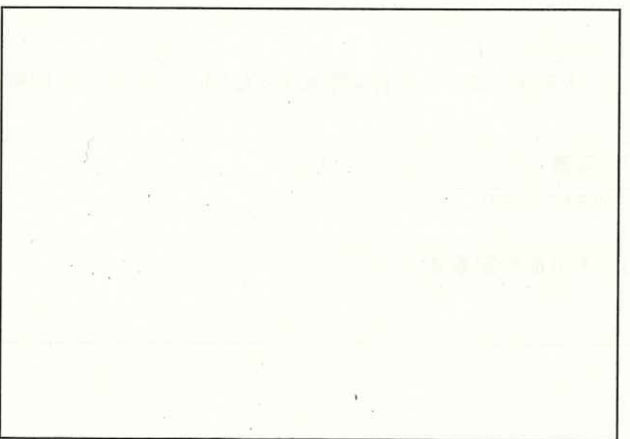


写真6

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	桑名市
番号	区分	事業名	
1	基本	播磨2号緑地里山整備事業	
事業費	2,338,348 円(うち交付金	2,338,348 円	うち基金活用 円)

1. 事業の目的	<p>荒廃した山を里山として山道などを整備し、緑の自然と身近にふれあう場を提供し、自然学習の場、地域活性の場、健康づくりの場として利活用する。</p>
2. 事業計画概要	<p>【事業内容】 枯木・危険木の除去、樹木の間引き、樹木剪定、剪定枝等をチップ化した木チップを利用した散策路の整備、湧水(水路)の整備をするための貸し出し備品の購入</p> <p>【実施主体(補助事業は補助事業実施主体)】 桑名市</p> <p>【補助率等】 補助事業でなく該当しない</p> <p>【箇所数】 1箇所(播磨2号緑地内)</p> <p>【事業量】 肩掛式草刈機5台、チェーンソー3台、チップパーシュレッダー1台、高枝ばさみ等一式</p> <p>【事業実施期間】 平成30年4月～平成31年3月</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 幼児、小学生等緑地利用者 延べ5,000人</p>
3. 有効性	<p>【実施箇所の選定理由】 播磨2号緑地は住宅街に隣接し、受益者も多いが、里山としては荒廃しており、整備を行うことが望まれていたため</p> <p>【実施した効果】 ・蒸散作用のある樹木の整理や沢の整備による土砂流出の防止 ・危険な樹木を除去し、公園利用者の安全確保や近隣住民の生活環境の保護</p> <p>【実施箇所の今後の管理体制】 利活用に関する協定を締結しているホテルとなかまの会で、引き続き里山整備を行う。</p> <p>【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 市内の小学校やボランティア団体による森林環境教育等に関する利用 里山散策路の開放</p> <p>【実施内容に対する住民等の反応】 込み入った雑木や枯れ木撤去等により、風通しがよくなり、獣等の侵入も少なくなったとの声をいただいた。</p>

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり		市町名	桑名市
番号	区分	事業名		
1	基本	播磨2号緑地里山整備事業		
事業費	2,338,348 円(うち交付金		2,338,348 円 うち基金活用 円)	
4. 効率性				
【実施方法(委託(請負)、補助、その他)】 業務委託、備品購入				
【実施方法の選定理由】 市と播磨2号緑地の利活用に関する協定を締結している非営利団体を選定し一括購入				
【契約方法と落札率または補助率等】 一者随契、100%				
【契約相手方の選定理由】 非営利団体であり、市と播磨2号緑地の利活用に関する協定を締結している。				
【事業費の積算根拠】 見積もり書による。				
5. 公益性(波及度)				
【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 小学生等約5000人(事業主体による把握)				
【管理責任者(森林所有者)への対応】 市が管理する緑地であり、該当しない。				
【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 市が管理する緑地であり、該当しない。				
6. 周知実績と今後の周知				
【実施前の実績】 利用者に県民税を活用することを説明した				
【実施中の実績】 現地に看板を設置				
【実施後の実績】 現地に看板を設置				
【今後の見込】 今後も里山整備を継続する中で、現地の看板によりみえ森と緑の県民税を活用して実施したことの周知を図る。				
7. 写真				
別紙のとおり				
8. その他特記事項				

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり
------	-----------------

市町名	桑名市
-----	-----

事業名	播磨2号緑地里山整備事業
-----	--------------

7. 写真



写真1
実施前1



写真2
実施後1



写真3
実施前2



写真4
実施後2



写真5
実施中掲示看板及び説明



写真6
チップーシュレッダー施工状況

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	桑名市
番号	区分	事業名	
2	基本	保育施設備品等購入事業	
事業費	2,813,513 円(うち交付金	2,813,513 円 うち基金活用	49,332 円)

1. 事業の目的	<p>県産材を使用した玩具、施設備品等の設置を通して森林環境、木育への関心を高める。</p>
2. 事業計画概要	<p>【事業内容】 保育所、子育て支援センターへの玩具・机・棚などの設置</p> <p>【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 桑名市</p> <p>【補助率等】 補助事業でないため該当しない。</p> <p>【箇所数】 保育所8か所 子育て支援センター4か所</p> <p>【事業量】 保育所・子育て支援センター用玩具・家具一式</p> <p>【事業実施期間】 平成30年4月2日～平成31年3月30日</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 保育所児 延べ801人、子育て支援センター利用者 延べ80,083人（H30年度キラキラ・ぼかぼか・にこにこ・長島支援センター延べ利用者人数）</p>
3. 有効性	<p>【実施箇所の選定理由】 保育所や子育て親子等が利用する子育て支援センターで実施することで乳幼児及び保護者に木育に関心を持ってもらえる</p> <p>【実施した効果】 木のぬくもりを活かした玩具・家具を通して、子どもたちや保護者に木育について伝える機会となった。</p> <p>【実施箇所の今後の管理体制】 引き続き、木育に関するちらしの掲示を行う。 玩具や家具に破損箇所等がないか点検を行う。</p> <p>【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 子育て支援センターのランチルームに設置した机や椅子の温かみを利用者に感じてもらうことができ、好評。 各保育所、子育て支援センターに木製玩具・机・椅子・絵本棚等を設置。</p> <p>【実施内容に対する住民等の反応】 使い勝手や使用感が良いと好評。木育についても関心を示して頂けた。</p>

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	桑名市
------	--------------	-----	-----

番号	区分	事業名
2	基本	保育施設備品等購入事業
事業費	2,813,513 円(うち交付金	2,813,513 円 うち基金活用 49,332 円)

4. 効率性	<p>【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 市が購入</p> <p>【実施方法の選定理由】 県産材を使用した玩具を市が選定し購入</p> <p>【契約方法と落札率または補助率等】 一者随意契約 99.97%</p> <p>【契約相手方の選定理由】 県産材を使用した家具・玩具の取り扱いをしており、適切な価格で購入することができる</p> <p>【事業費の積算根拠】 事業者からの見積書による</p>
5. 公益性（波及度）	<p>【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 各保育所園児数及び、各子育て支援センター利用者数(利用者カード等から算出) 保育所児延べ801人、子育て支援センター利用者延べ80,083人</p> <p>【管理責任者（森林所有者）への対応】 個人が所有する森林等の整備ではなく該当しない</p> <p>【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 市施設への備品導入であるため、転用などが想定されず該当しない</p>
6. 周知実績と今後の周知	<p>【実施前の実績】 子育て支援センターにて県産材を使った玩具などの体験事業を実施</p> <p>【実施中の実績】 チラシでの周知</p> <p>【実施後の実績】 木育についてのチラシを掲示、設置</p> <p>【今後の見込】 チラシなどを活用してみえ森と緑の県民税を活用した取り組みであることを周知する</p>
7. 写真	別紙のとおり
8. その他特記事項	

対策区分	4. 木の薫る空間づくり
------	--------------

市町名	桑名市
-----	-----

事業名	保育施設備品等購入事業
-----	-------------

7. 写真



写真1 机といす
木の温かみを感じる



写真2 プレート
導入した備品には「みえ森と緑の県民税」を活用したことを記すプレートを設置



写真3 机といす
落ち着いて食事ができるように感じる

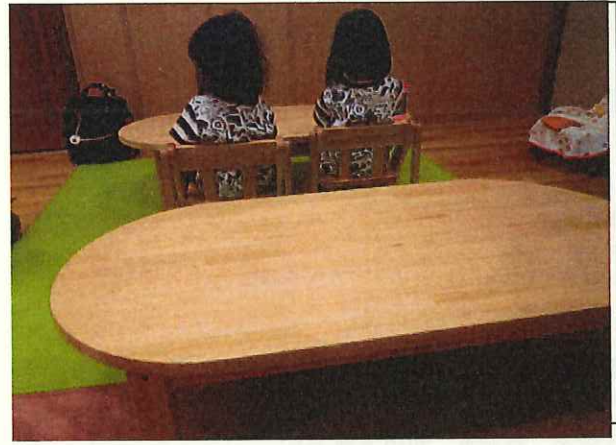


写真4 机といす
食事中その2



写真5 木製おもちゃ
おもちゃで遊ぶ様子



写真6 木製おもちゃ
おもちゃで遊ぶ様子

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	桑名市
番号	区分	事業名	
3	基金	適応指導教室備品等購入事業	
事業費	718,200 円(うち交付金	718,200 円 うち基金活用	718,200 円)

1. 事業の目的	<p>適応指導教室には不登校の状況にある児童生徒が通級し、学校生活への復帰や社会的自立を目指した支援を行っている。木製(県産材)の家具等の備品を導入することで、通級生が木と触れ合うことが出来ると共に、落ち着いた温かみの感じられる環境にする。</p>
2. 事業計画概要	<p>【事業内容】 適応指導教室に、県産材を使用した備品(テーブル・椅子等)を整備する。</p> <p>【実施主体(補助事業は補助事業実施主体)】 桑名市</p> <p>【補助率等】 補助事業でないため該当しない。</p> <p>【箇所数】 1か所</p> <p>【事業量】 チェア 7脚 台形テーブル</p> <p>【事業実施期間】 平成30年度(平成30年4月2日～平成31年3月29日)</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 適応指導教室通級者等 約30名、保護者 約30名、指導員等 約15名、見学・相談者等 約50名年間 合計 約125名(年間見込み数)</p>
3. 有効性	<p>【実施箇所の選定理由】 、通級生が木と触れ合うことが出来る場所であるため</p> <p>【実施した効果】 通級生のストレス緩和効果 室内作業環境向上 県民税の適切な活用と、県民が森林を育てていることの周知等</p> <p>【実施箇所の今後の管理体制】 通級生をはじめ、使用者が清掃等を行い、適応指導教室にて管理する。</p> <p>【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 現地に看板を設置し、県民税を活用して実施したことを周知する。また、森林環境教育を実施する。</p> <p>【実施内容に対する住民等の反応】 木の温かみと共に、精神的な落ち着きを感じている。森林環境について興味を示す者もいた。</p>

対策区分	4. 木の薫る空間づくり		市町名	桑名市
番号	区分	事業名		
3	基金	適応指導教室備品等購入事業		
事業費	718,200 円(うち交付金	718,200 円 うち基金活用	718,200 円)	
4. 効率性				
【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 市が購入				
【実施方法の選定理由】 県産材を使用した玩具を市が選定し購入				
【契約方法と落札率または補助率等】 一般競争入札				
【契約相手方の選定理由】 一般競争入札の結果による				
【事業費の積算根拠】 県産材の取り扱い業者からの参考単価を基に予定価格を設定して入札を行った。				
5. 公益性（波及度）				
【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 適応指導教室通級者等 約30名、保護者 約30名、指導員等 約15名、見学・相談者等 約50名年間 合計 約125名(年間見込み数)				
【管理責任者（森林所有者）への対応】 個人が所有する森林等の整備ではなく該当しない。				
【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 市施設への木製備品導入のため、転用などが想定されず該当しない。				
6. 周知実績と今後の周知				
【実施前の実績】 現地に看板を設置し、税を活用して実施したことを周知する。				
【実施中の実績】 物品を購入する事業であり、「実施中」に該当する期間がないため実施前後に周知した。				
【実施後の実績】 現地に看板を設置し、税を活用して実施したことを周知する。また、森林環境教育を実施する。				
【今後の見込】 現地に看板を設置し、税を活用した取り組みであることを周知する。				
7. 写真				
別紙のとおり				
8. その他特記事項				
桑名市鍛冶町14番地				

対策区分

4. 木の薫る空間づくり

市町名

桑名市

事業名

適応指導教室備品等購入事業

7. 写真

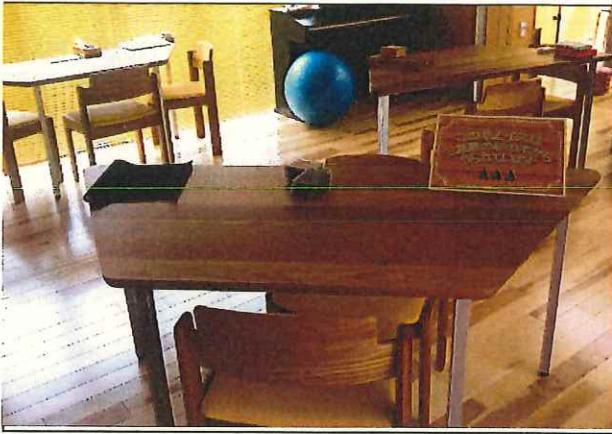


写真1 テーブルとイス

通級生が木と触れ合うことができ、落ち着いた温かみの感じられる環境となった

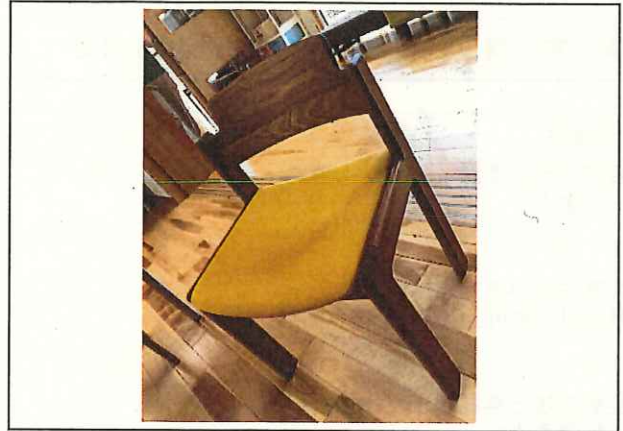


写真2 イス

木と触れ合うことができ、ストレス緩和効果があるように感じられる



写真3 テーブルとイス

通級生が木と触れ合うことができ、落ち着いた温かみの感じられる環境となった

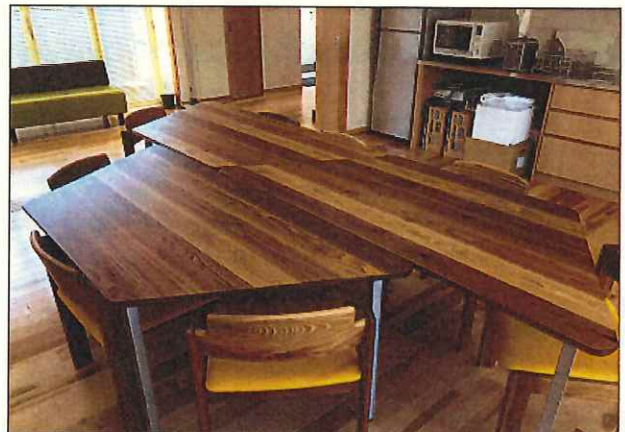


写真4 テーブルとイス

室内作業において環境向上が感じられる



写真5 テーブルとイス

木の温かみにより、精神的な落ち着きを感じられる



写真6 プレート

プレートを設置して利用者などへ県民税で購入したことを説明している

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	桑名市
------	--------------	-----	-----

番号	区分	事業名
4	基本・特別	病院備品等購入事業
事業費	37,530,000 円(うち交付金	37,120,471 円 うち基金活用 円)

1. 事業の目的	<p>地域の中核病院としての役割を担う総合医療センター新病院に、木製(県産材)の椅子等の備品を導入することで、多数の住民が木と触れ合うことができると同時に、病院という場所を温かみの感じられる空間にする。</p>
2. 事業計画概要	<p>【事業内容】 平成30年開院の桑名市総合医療センター新病院に、県産材を使用した備品(椅子・ベンチ・机等)を整備する。</p> <p>【実施主体(補助事業は補助事業実施主体)】 地方独立行政法人 桑名市総合医療センター</p> <p>【補助率等】 補助事業でなく該当しない。</p> <p>【箇所数】 3棟</p> <p>【事業量】 椅子 205 脚 テーブル 97 台 キッズ椅子 42 脚 キッズテーブル 7 台 収納棚 18 台</p> <p>【事業実施期間】 平成29年度～平成33年度(平成30年4月2日～平成31年3月29日)</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 桑名市総合医療センター来院者 約24万人</p>
3. 有効性	<p>【実施箇所の選定理由】 「桑名市総合医療センター」は老若男女問わず、多くの地域住民が利用する場所である。</p> <p>【実施した効果】 多数の住民が利用する公共の場に、この交付金を利用した備品を置くことで、県民税が適切に使われていることや、県民全体で森林を育てているということを知ってもらう機会になると考えられる。また、病院を無機質な空間ではなく温かみが感じられる印象にすることにより、より森林や木材に親しみを持ってもらう機会になる。</p> <p>【実施箇所の今後の管理体制】 桑名市総合医療センターで管理する。</p> <p>【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 来院者に対して、「みえ森と緑の県民税」の活用を知ってもらうため、①対象の木製品に県産材活用のシールを添付、②院内のより多くの人の往来のある3か所の掲示板に県産材ポスターを設置、③キッズスペースでは木育の一環として絵本読み聞かせや木材のイベント等実施。</p> <p>【実施内容に対する住民等の反応】 年間利用24万人の患者様と、そのご家族に見て頂く。一様に「あたたかみのある優しい雰囲気がある」と概ね好評。</p>

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	桑名市
------	--------------	-----	-----

番号	区分	事業名
4	基本・特別	病院備品等購入事業
事業費	37,530,000 円(うち交付金	37,120,471 円 うち基金活用 円)

4. 効率性	<p>【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 桑名市総合医療センターにて購入した。</p> <p>【実施方法の選定理由】 桑名市総合医療センター新病院で整備するものであるため。</p> <p>【契約方法と落札率または補助率等】 一般競争入札</p> <p>【契約相手方の選定理由】 一般競争入札の結果より</p> <p>【事業費の積算根拠】 三重県産材の取り扱い業者からの参考単価を基に予定価格を設定して入札を行った。</p>
5. 公益性（波及度）	<p>【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 新病院の什器類必要整備数のうち、設置可能な数を把握した。 昨年度の来院者数述べ24万人の来院患者だけでなく、そのご家族等の見舞客に対しても波及効果が期待される。</p> <p>【管理責任者（森林所有者）への対応】 個人が所有する森林等の整備ではなく、該当しない。</p> <p>【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 総合医療センター内で利用する什器類であるため、転用や目的外使用されることは想定されない。</p>
6. 周知実績と今後の周知	<p>【実施前の実績】 「みえ森と緑の県民税」を活用した整備であることを、院内のより多くの人の往来のある3か所の掲示板に県産材ポスターを設置。</p> <p>【実施中の実績】 物品を購入する事業であり「実施中」に該当する期間がないため実施前後に周知した。</p> <p>【実施後の実績】 対象の木製品に県産材活用のシールを添付。キッズスペースでは木育の一環として絵本読み聞かせや木材のイベント等実施。</p> <p>【今後の見込】 引き続き、院内での対象製品の県産材シールや、掲示ポスター配置、広報誌による紹介により、引き続き周知する。</p>
7. 写真	別紙のとおり
8. その他特記事項	

対策区分	4. 木の薫る空間づくり
------	--------------

市町名	桑名市
-----	-----

事業名	病院備品等購入事業
-----	-----------

7. 写真



写真1 設置場所: D棟1階 保育室
 商品: キッズチェア、テーブル、おままごとキッチン、
 PRポイント: 全て木製品のおままごとキッチン。子供たちが
 直接触れて遊べる、木育教材の一つです。



写真2 設置場所: D棟1階 保育室
 商品: キッズチェア、テーブル、ロッカー、収納棚
 PRポイント: チェアから収納棚まで、部屋全体を三重県産スギで
 トータルコーディネートしており、存在感がある空間。



写真3 設置場所: D棟4階 透析ラウンジ
 商品: チェア(EM202)・カフェテーブル(HSK-GB-X)
 PRポイント: 三重県産スギとスチールを組み合わせた、デザイン
 製の高い清潔な家具で、ワンランク上の木材利用空間です。



写真4 設置場所: D棟4階 透析ラウンジ
 商品: チェア(EM202)・カフェテーブル(HSK-GB-X)
 PRポイント: 全ての商品に補助事業のシールを貼り、
 来られる全利用者様に向けてPRしています。

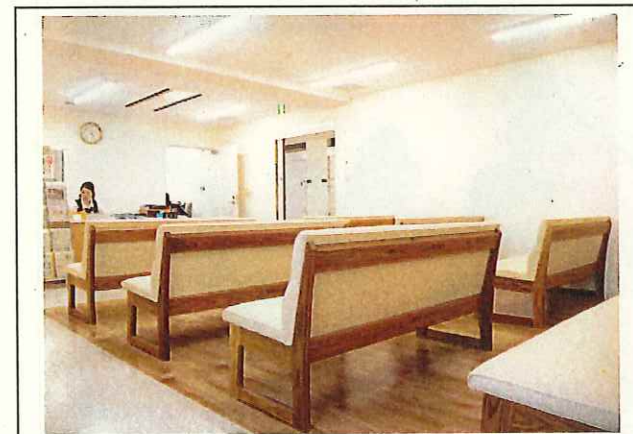


写真5 設置場所: D棟3階 健診センター
 商品: 三人用肘なしソファ(HSK15059)
 PRポイント: 敢えて白いクッション材を使用することにより、更に
 スギの木材の暖かみが目立つよう工夫した待合ソファです。



写真6 設置場所: G棟6~9階 病室
 商品: チェア(PU270J)・ティーテーブル(CC370B)
 PRポイント: 強度をもたせたスギのプレス圧縮材を活用し、デザイ
 ンはスマートながらも、スギの風合いを感じられる家具です。

対策区分	4. 木の薫る空間づくり
------	--------------

市町名	桑名市
-----	-----

事業名	病院備品等購入事業(納品後に木育教室実施の報告)
-----	--------------------------

7. 写真

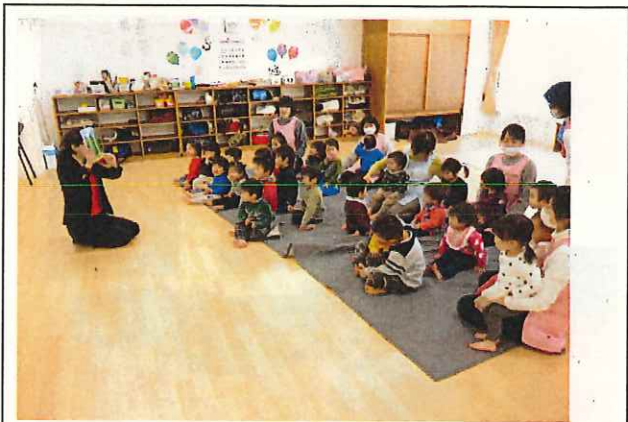


写真1 開催場所:桑名総合医療センターD棟1階 保育室
状況:
3/15の午前に、保育室にて1歳から6歳までの子ども達を対象に、三重の木のお話をしました。



写真2 開催場所:桑名総合医療センターD棟1階 保育室
状況:
絵本の読み聞かせ「おおきくなあれ」。祖父が植えたスギの木で、男の子の新しいおうちが出来るお話です。



写真3 開催場所:桑名総合医療センターD棟1階 保育室
状況:
その後は、地元の森林組合さんが持ち込んでくれた木のオモチャで、1時間めいっぱい、おのおの遊びました。



写真4 開催場所:桑名総合医療センターD棟1階 保育室
状況:
ヒノキでできたバランスレールの上を素足で歩き、木の暖かみや柔らかさを楽しんでいます。



写真5 開催場所:桑名総合医療センターD棟1階 保育室
状況:
積み木を積んで手触りを感じてもらいました。1時間では足りない位、ずっと飽きずに遊び続けていました。



写真6 開催場所:桑名総合医療センターD棟1階 保育室
状況:
コマや輪投げ、木製レールに夢中。保育士さんにも「木のオモチャは大人も子どもも楽しめる」と好評でした。

平成30年度 みえ森と緑の県民税市町交付金事業 実績一覧

市町名		鈴鹿市	
当年度交付金額	円	(ほか、市町基金活用	円)
	45,287,000		0
事業名	対策区分	交付金充当額	当年度交付金
1 暮らしを守る森林保全事業	2. 暮らしに身近な森林づくり	2,336,076	2,336,076
2 森林環境教育事業	3. 森を育む人づくり	9,350	9,350
3 緑の未来づくり事業	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	157,000	157,000
4 記念樹配布事業	3. 森を育む人づくり	159,000	159,000
5 木工工作及び木製備品購入事業	3. 森を育む人づくり	1,038,512	1,038,512
6 鈴鹿市立西条保育所新設工事	4. 木の薫る空間づくり	7,964,000	7,964,000
7 小岐須渓谷整備事業	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	2,732,400	2,732,400
8 森と緑の生涯学習講座	3. 森を育む人づくり	890,662	890,662
9 AGF鈴鹿体育館施設整備事業	4. 木の薫る空間づくり	30,000,000	30,000,000
合計		45,287,000	45,287,000
			0

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	鈴鹿市
番号	区分	事業名	
1	基本	暮らしを守る森林保全事業	
事業費	2,337,660 円(うち交付金	2,336,076 円	うち基金活用 0 円)

1. 事業の目的	<p>当市の海に面した沿岸には海岸林があり、防潮・防風・飛砂防止・津波軽減など暮らしを守っているが、病虫害被害が広がっていることや、手入れされずに枝が広がり、道路や電線、集落に覆いかぶさり、台風時に倒木したり、枝が飛散したりし、集落や人身に危険を及ぼすことが懸念されている。そこで、当該税活用事業により、人家周辺における危険木や病虫害被害木の伐採・除去、被害防止のための処置等を実施することによる海岸林等の維持保全を行い、通行の安全や住民の暮らしの安全を確保することを目的とする。</p>
2. 事業実績概要	<p>【事業内容】 海岸林や人家周辺の病虫害被害木の伐倒・駆除を行った。また、松林再生のために、抵抗性クロマツの植樹を行った。植樹に当たっては、一部のエリアにおいて、3年前から地元の小中学生を対象にした森林環境教育として、実施している。</p> <p>【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 鈴鹿市</p> <p>【補助率等】 補助事業ではなく該当しない</p> <p>【箇所数】 特別伐倒駆除:1箇所(鼓ヶ浦海岸) 樹幹注入:1箇所(鼓ヶ浦海岸) 森林環境教育:1箇所(鼓ヶ浦海岸)</p> <p>【事業量】 特別伐倒駆除 3本, 樹幹注入アンブル数 531本, 森林環境教育(抵抗性クロマツ250本の植樹)</p> <p>【事業実施期間】 平成30年12月～平成31年2月</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 鼓ヶ浦海岸付近在住の市民(2,014世帯 4,703人), 植樹参加者(小中学生とボランティア):約250名</p>
3. 有効性	<p>【実施箇所の選定理由】 鼓ヶ浦海岸は、海水浴場として、観光客の目に触れるのは勿論、「白砂青松100選」に選ばれた、かつての風景を復活させたい、また、江戸時代から残る立派な松を守りたいという、地元の強い要望を受けているため。</p> <p>【実施した効果】 景観の改善と、周囲への病虫害被害抑制</p> <p>【実施箇所の今後の管理体制】 実施箇所は市有地であり、今後も引き続き市が管理する。</p> <p>【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 市民の憩いの場として、維持管理していく。</p> <p>【実施内容に対する住民等の反応】 日本の白砂青松100選にも選ばれた風景を復活させたいという周辺住民からは、改善に向けた取り組みに感謝の声が聞かれた。また、小中学生自身が苗木を植樹することで、植栽した松の周辺環境への貢献や海岸環境の保全に興味をわき、これからも海岸林を大切にしたいとの感想があった。</p>

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	鈴鹿市
------	-----------------	-----	-----

番号	区分	事業名
1	基本	暮らしを守る森林保全事業
事業費	2,337,660 円(うち交付金	2,336,076 円 うち基金活用 0 円)

4. 効率性	<p>【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 業務委託</p> <p>【実施方法の選定理由】 専門技能が必要なため</p> <p>【契約方法と落札率または補助率等】 特別伐倒駆除: 随意契約(3者見積) 樹幹注入: 指名競争入札(5社参加) 森林環境教育: (2者見積)</p> <p>【契約相手方の選定理由】 見積合せの結果, 安価な業者に決定した。</p> <p>【事業費の積算根拠】 特別伐倒駆除: 見積書による 樹幹注入: 三重県作成の「平成30年度森林病虫害等防除事業単価表(松くい虫事業関係)」による 森林環境教育: 見積書による</p>
---------------	--

5. 公益性（波及度）	<p>【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 鼓ヶ浦海岸付近在住の市民(2,014世帯 4,703人), 植樹参加者(小中学生とボランティア): 約250名</p> <p>【管理責任者（森林所有者）への対応】 市管理地であり, 森林等の整備ではなく, 該当しない。なお, 植樹マツについては, 鼓ヶ浦観光協会と鈴鹿ベイロータリークラブが見回りと管理を行うよう覚書を交わしている。</p> <p>【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 市管理地のため, 転用等が想定されず, 該当しない</p>
--------------------	--

6. 周知実績と今後の周知	<p>【実施前の実績】 地域の観光協会, ロータリークラブとの会議において, 「みえ森と緑の県民税」を活用して事業を実施している旨を周知した。また, 市の予算書にみえ森と緑の県民税の活用を明記した。</p> <p>【実施中の実績】 工事看板に「みえ森と緑の県民税市町交付金事業」と記載した。植樹中は, 実施地にのぼりを設置した。また, 税事業である旨記者提供を行った。</p> <p>【実施後の実績】 事業実施箇所に看板を設置している(写真3,4,5)。また, 植樹イベント時に新聞取材を受け, 税事業であることを記載していただいた。</p> <p>【今後の見込】 来年度以降も事業内で, 同様の周知を行う。</p>
----------------------	--

7. 写真	別紙のとおり
--------------	--------

8. その他特記事項	
-------------------	--

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり
------	-----------------

市町名	鈴鹿市
-----	-----

事業名	暮らしを守る森林保全事業
-----	--------------

7. 写真



写真1
枯れ松写真



写真2
枯れ松伐倒完了写真



写真3
作業中看板

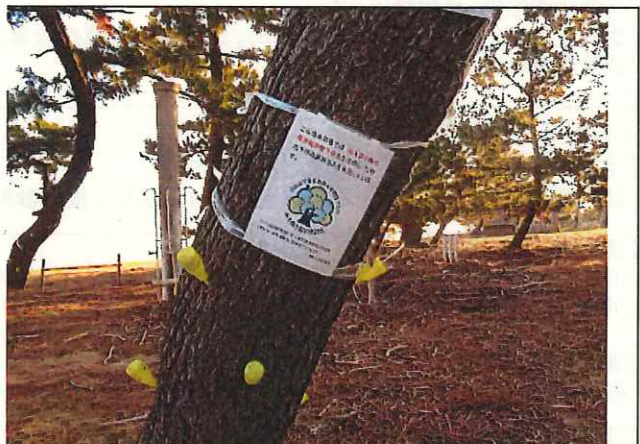


写真4
樹幹注入



写真5
植樹風景



写真6
植樹看板

対策区分	3. 森を育む人づくり		市町名	鈴鹿市
番号	区分	事業名		
2	基本	森林環境教育事業		
事業費	9,350 円(うち交付金)	9,350 円	うち基金活用	0 円)

1. 事業の目的	
地球温暖化防止等の森林の多面的機能や、森林の整備と森林資源の循環利用の必要性に対する理解を深めることを目的とし、パネル展示及び絶滅危惧種の動物彫刻の展示に加え、環境教育に携わる講師に展示の解説を依頼し、子どもにも理解しやすいような森林環境教育のイベントスペースを開設した。	
2. 事業実績概要	
【事業内容】 市内外から多くの来場者が見込まれる「植木まつり」の会場において、地球温暖化防止等の森林の多面的機能や、森林の整備と森林資源の循環利用の必要性に関するパネル展示を行う。また絶滅危惧種の動物彫刻をあわせて展示することにより、子どもに対しても視覚的にわかりやすいよう工夫し、森林が生物多様性にも大きな役割を果たしていることを伝える。また、講師に展示の解説を依頼することで、森林環境についてより深い理解を促した。	
【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 鈴鹿市	
【補助率等】 補助事業でなく。該当しない。	
【箇所数】 1箇所(鈴鹿フラワーパーク)	
【事業量】 1回	
【事業実施期間】 平成30年4月21日	
【受益者、参加者、利用者数等】 当日の来場者数4,500人	
3. 有効性	
【実施箇所の選定理由】 市内外から多くの来場者が見込まれる「植木まつり」の会場において森林環境教育のイベントスペースを解説することにより、幅広い市民に向けて啓発活動ができると考えたため。	
【実施した効果】 イベント当日は土曜日ということもあり、多くの家族連れが来場した。パネル等の展示から、地球温暖化や生物多様性の保全に森林が果たす役割について理解を深めていただいた。当日解説を依頼した講師に来場者が質問する場面もあり、日常生活の中で、木材の利用を考えるきっかけとなり、森林環境教育のイベントスペースとして盛況を博した。	
【実施箇所の今後の管理体制】 森林整備ではなく該当しない	
【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 パネルや動物の彫刻を展示し、その解説を行うことで子どもが理解しやすい、森林環境教育の場となった。	
【実施内容に対する住民等の反応】 自然環境保全という切り口から、適正な木材利用を呼びかける内容は新鮮だった。紹介パネルを読み、木を使うことの大切さを考えることができた。という感想があった。	

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	鈴鹿市
------	-------------	-----	-----

番号	区分	事業名
2	基本	森林環境教育事業
事業費	9,350 円(うち交付金	9,350 円 うち基金活用 0 円)

4. 効率性	<p>【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 展示の解説と、その管理の為に講師(かつ製作者)に謝礼を支払った。</p> <p>【実施方法の選定理由】 「植木まつり」は幅広い年齢層の多くの来場が見込まれ、その会場で森林環境教育に関するイベントスペースを開設することにより、波及効果が高いと考えた。また、緑あふれる会場で実施することにより、より木の大切さを実感をもって伝えることができると考えたため。</p> <p>【契約方法と落札率または補助率等】 1者随契(少額, 入札不適)</p> <p>【契約相手方の選定理由】 図書館等のイベントで動物彫刻の展示や自然環境保全の啓発のために活動し実績がある点及び動物彫刻を無償で貸借いただける為、費用に対する効果が大きいと考えたため。</p> <p>【事業費の積算根拠】 平成30年度の鈴鹿市臨時職員の時給850円を参考金額にして拘束時間から計算し、謝礼とした。</p>
--------	---

5. 公益性（波及度）	<p>【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 当日の来場者数4,500人(植木まつりの主催者発表)</p> <p>【管理責任者（森林所有者）への対応】 個人が所有する森林等の整備ではなく、該当しない。</p> <p>【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 行事等開催であるため、転用が想定されず、該当しない。</p>
-------------	---

6. 周知実績と今後の周知	<p>【実施前の実績】 イベントチラシ等に、県民税活用事業である旨を記載した。</p> <p>【実施中の実績】 県民税ののぼり旗を設置して周知した。</p> <p>【実施後の実績】 当日の植木まつりの様子を取材したケーブルテレビのニュースで、当該イベントの様子も放映された。</p> <p>【今後の見込】 今後も鈴鹿市内のイベント等で、動物彫刻等の展示の機会があるため、継続して森林環境教育を実施いただける。</p>
---------------	--

7. 写真	別紙のとおり
-------	--------

8. その他特記事項	
------------	--

対策区分 3. 森を育む人づくり

市町名 鈴鹿市

事業名 森林環境教育事業

7. 写真



写真1

イベント周知チラシ

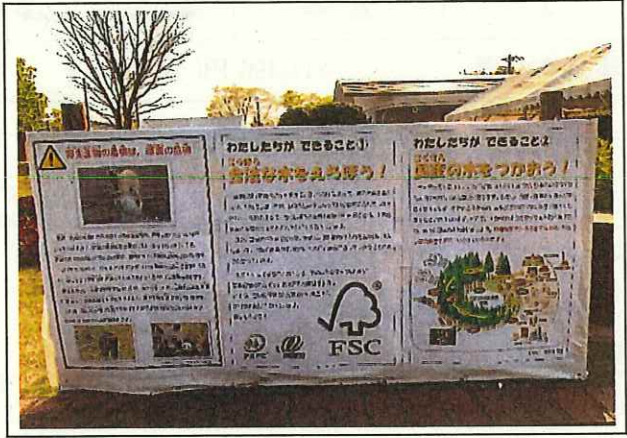


写真2

パネル展示の様子



写真3

イベント実施中の様子

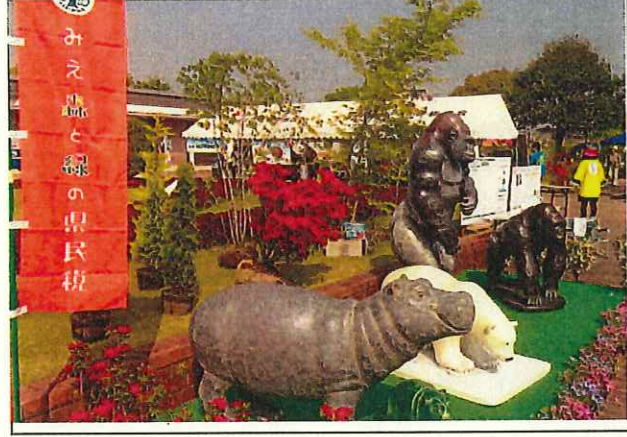


写真4

イベント実施中の様子

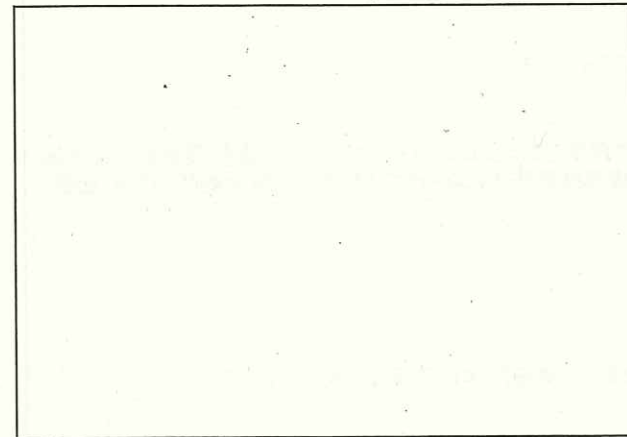


写真5

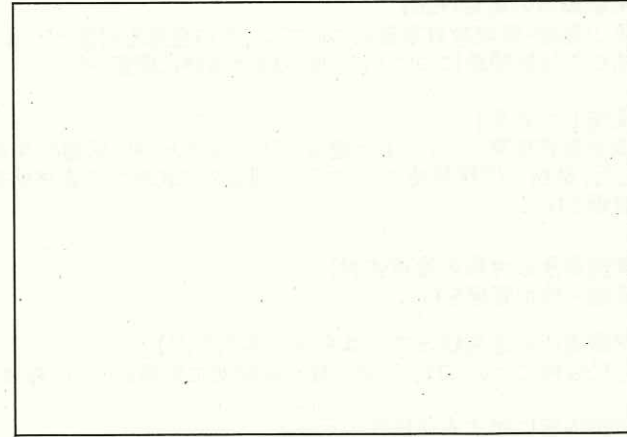


写真6

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	鈴鹿市
番号	区分	事業名	
3	基本	緑の未来づくり事業	
事業費	211,496 円(うち交付金	157,000 円	うち基金活用 0 円)

1. 事業の目的	<p>自然環境の保全、木に触れ合う機会の提供、森林環境教育等を実施する住民団体や、私有地の森林を適正に管理しようとする個人又は団体等に対し、その活動に要する経費の一部を補助することにより、住民による自発的な森林づくり活動を支援するとともに、住民が木に触れ合う機会を創出し、森林を大切に思う心の育成に繋げる。</p>
2. 事業実績概要	<p>【事業内容】 森林環境の保全や、森林を市民で守り育てる意識の醸成に寄与する活動（県産材を使った子ども向けの木工工作教室）、及び、地区保全森林内の病害虫被害木を適正に管理しようとするものに対し、補助金を交付した。</p> <p>【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 申請団体（構成員の半数以上が市内に在住する団体に限る。）、及び、病害虫被害木の所有者又は管理者</p> <p>【補助率等】 補助対象経費の合計額に4分の3を乗じた額（上限10万円）</p> <p>【箇所数】 2箇所 森林環境教育事業：鈴鹿市白子町 枯松の伐採：鈴鹿市南若松町</p> <p>【事業量】 森林環境教育事業：1団体 松くい虫被害松の特別伐倒駆除：1人（6本）</p> <p>【事業実施期間】 森林環境教育事業：平成30年8月 枯松の伐採：平成30年4月</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 森林環境教育事業：実施主体1団体、参加者50名 枯松伐採：市民1名、南若松町周辺住民846世帯1,737名にも波及</p>
3. 有効性	<p>【実施箇所の選定理由】 里山整備・環境教育事業については、市内全域を対象としている。 枯松の伐採補助については、地区保全森林に指定されている箇所に限っている。</p> <p>【実施した効果】 環境教育事業については、地域団体が主体となり、県産材や県民税の説明を交えながら工作することで、森林環境教育を実施した。枯松の伐採補助については、周辺の松に対する森林病害虫の被害拡散防止になったことに加え、海岸堤防道路の景観が改善された。</p> <p>【実施箇所の今後の管理体制】 実施主体が管理を行う。</p> <p>【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 枯松伐採については、実施主体が継続的に管理を行い、森林環境教育は、実施団体が今後も継続していく考え。</p> <p>【実施内容に対する住民等の反応】 森林環境教育の参加者は、本棚が完成した際に、木材で加工された製品の良さを肌で感じ、これからも大切にしたいとの声があった。また、枯松伐採を実施した市民からは、周辺の松へ影響拡大を懸念していたが伐採費用が高額であるため躊躇していたが、補助金があったおかげで、伐採を決断できたとの声があった。</p>

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	鈴鹿市
------	--------------------	-----	-----

番号	区分	事業名
3	基本	緑の未来づくり事業
事業費	211,496 円(うち交付金	157,000 円 うち基金活用 0 円)

4. 効率性	<p>【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 補助</p> <p>【実施方法の選定理由】 私有地は個人が管理するのが前提であるが、処理費用がかさむため、これまではなかなか対処が進まず、周辺の健康木へも影響を及ぼしていた。そのため、一部補助という方法で、あくまで住民主体で森林保全を行うことを目指した。</p> <p>【契約方法と落札率または補助率等】 補助対象経費の合計額に4分の3を乗じた額(上限額10万円)</p> <p>【契約相手方の選定理由】 枯松伐採については、実施主体が2社以上の業者から見積をとり、安価な者と実施主体の市民が契約した。</p> <p>【事業費の積算根拠】 見積書等による。</p>
5. 公益性（波及度）	<p>【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 森林環境教育:実施主体1団体,参加者50名 枯松伐採:市民1名,南若松町周辺住民846世帯1,737名にも波及</p> <p>【管理責任者（森林所有者）への対応】 森林所有者個人による対応が困難であり、病虫害被害拡散を防ぐため経費の一部を市が負担した。</p> <p>【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 森林環境教育は整備ではないので該当しない。また、枯松伐採は周辺の健康木への影響を防ぐものであり、再植栽を前提としていないため該当しない。</p>
6. 周知実績と今後の周知	<p>【実施前の実績】 事業募集時に、広報等で税活用事業である旨を記載した。</p> <p>【実施中の実績】 実施中に、県民税事業である旨を参加者に説明した。</p> <p>【実施後の実績】 実施団体のホームページで、県民税を活用した旨を記載してもらった。</p> <p>【今後の見込】 来年度の事業申請を広報する際に、「みえ森と緑の県民税」事業であることを併せて周知する。</p>
7. 写真	別紙のとおり
8. その他特記事項	

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	鈴鹿市
------	--------------------	-----	-----

事業名	緑の未来づくり事業
-----	-----------

7. 写真



写真1
枯松伐採前



写真2
枯松伐採後



写真3
森林環境教育事業(木工工作教室)

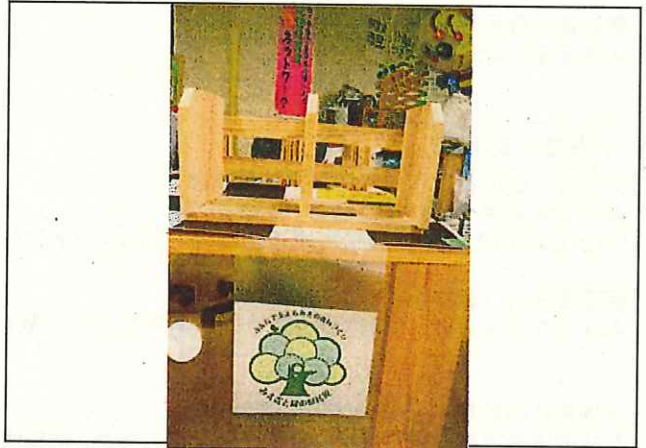


写真4
森林環境教育事業(広報状況)

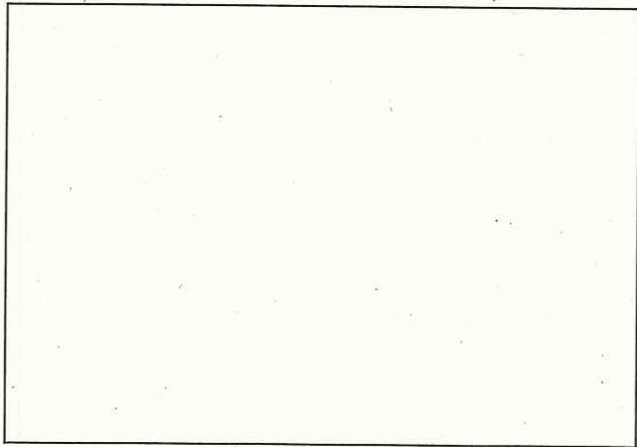


写真5

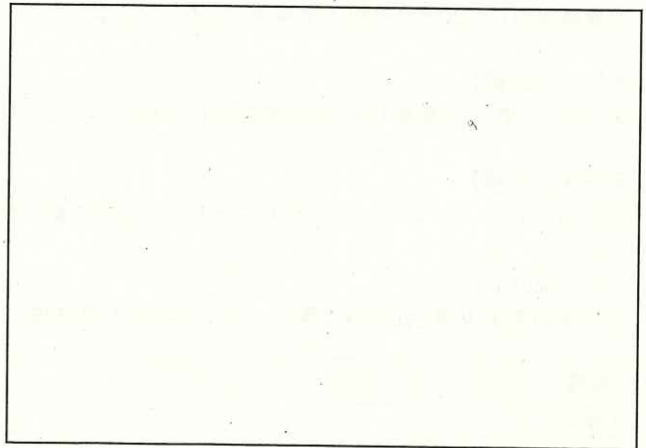


写真6

対策区分	3. 森を育む人づくり		市町名	鈴鹿市
番号	区分	事業名		
4	基本	記念樹配布事業		
事業費	159,000 円(うち交付金	159,000 円	うち基金活用	0 円)

1. 事業の目的
 近年、手入れが困難等の理由により、庭木の植栽離れが進み、一番身近な環境である家庭において緑を感じられる機会が少なくなっている現状から、植物に対する愛着をもち、緑の大切さを伝えるため、記念樹を配布し、入学等の人生の節目に自らの手で植樹をしてもらうことで、森林環境教育の効果と市内の緑化推進を図る。

2. 事業実績概要

【事業内容】
 人と緑の交流を目的として開催されている「植木まつり」会場において、新築、入学等の人生の節目に記念樹を配布する。記念樹の生産者が植栽方法や手入れ方法について直接レクチャーし、家庭で愛着をもって正しく植樹を行うことで、森林環境教育の効果을期待するとともに、適切な管理方法を伝えることで長期にわたる市内緑化推進の効果을期待する。また、記念樹には三重県産スギで作成したロゴマーク入りのプレートをかけ、裏面に森林に対する思い等のメッセージを記載していただき、森林への関心の増加を図る。さらに、県民税及び森林の適正管理に関する事項をアンケート形式で回答していただき、県民税の周知と森林環境に関する理解を深める取り組みを行う。

【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】
 鈴鹿市

【補助率等】
 補助事業でなく、該当しない。

【箇所数】
 1箇所(鈴鹿フラワーパーク)

【事業量】
 159本

【事業実施期間】
 平成30年4月14日～22日

【受益者、参加者、利用者数等】
 159家族(約500名)

3. 有効性

【実施箇所の選定理由】
 「植木まつり」は生産者自らが記念樹の配布を行うことで、受益者の木に対する愛着がさらに深まることが期待できること加えて、正しい植栽方法をレクチャーできることから、長期にわたる適正な管理を促すことができる。また、1万5千人以上の人が集まるイベント会場において実施することにより、直接の受益者以上に、波及効果を見込めると考える。

【実施した効果】
 記念樹を自らの手で、一番身近な環境である家庭において植樹をすることで、森林環境教育の効果을期待するとともに、長期にわたる管理で、市内の緑化推進を図る。

【実施箇所の今後の管理体制】
 整備事業でなく、該当しない。配布した記念樹は、各家庭で受益者が管理する。

【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】
 苗木の配布と同時に森林に関するアンケートを実施し、森林作りへの意識醸成が図られた。

【実施内容に対する住民等の反応】
 二年前に、姉の入学祝いとして庭に植樹した記念樹があり、今年は妹が小学校入学となるため、その横に植樹するために配布を受けに来た。子どもの成長と共に、木が成長し、緑に対する愛着がわいた。という感想があった。

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	鈴鹿市
------	-------------	-----	-----

番号	区分	事業名
4	基本	記念樹配布事業
事業費	159,000 円(うち交付金	159,000 円 うち基金活用 0 円)

4. 効率性	<p>【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 市が購入し、植木まつり期間中に対象者へ配布した。</p> <p>【実施方法の選定理由】 記念樹に適した木を選定し、購入した。</p> <p>【契約方法と落札率または補助率等】 随意契約（記念樹：1者見積）</p> <p>【契約相手方の選定理由】 市の規程により、合計金額10万円以上のものは複数者見積を行い、価格の安いところを契約相手として選定した。</p> <p>【事業費の積算根拠】 見積価格を参考とした。</p>
5. 公益性（波及度）	<p>【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 記念樹を配布した人及びその家族を受益者とした。</p> <p>【管理責任者（森林所有者）への対応】 森林整備等でなく、該当しない。</p> <p>【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 個人が所有する森林等の整備ではなく、該当しない。</p>
6. 周知実績と今後の周知	<p>【実施前の実績】 イベントチラシ等に、県民税活用事業である旨を記載した。</p> <p>【実施中の実績】 記念樹配布の際に、記念樹の意味と県民税活用事業である旨を記載した用紙を配布し、県民税活用事業であることを周知した。また、アンケートを実施することにより、森林への意識醸成が図られた。</p> <p>【実施後の実績】 ロゴマーク入りの木製プレートを、配布する記念樹に掛け、税事業であることをPRした。</p> <p>【今後の見込】 人の成長と共に、木が成長し、身近な場所で緑を感じられることで、今後の森林への興味と理解が深まり、記念樹にかけたプレートが、県民税への周知につながると考える。</p>
7. 写真	別紙のとおり
8. その他特記事項	

対策区分	3. 森を育む人づくり
------	-------------

市町名	鈴鹿市
-----	-----

事業名	記念樹配布事業
-----	---------

7. 写真



写真1
事前広報

ハローツリー（記念樹）とは。。
 人生の節目となる誕生や結婚、入学、卒業、新築などを記念して植える樹木のこと

【記念樹の一例です】
 誕生：ナンテン、マツ
 結婚：ウメ、ツツジ、モモ、ライラック
 入学：サクラ、アベリア、イチョウ
 親への感謝・退職：鈴鹿市の花「サツキ」

この事業はみえ森と緑の県民税市町交付金を活用し、実施しています。
 木を植えることは、地球温暖化の防止にも貢献します。
 ぜひ、三重県の木のめぐもりを身近に感じてください。

写真2
実施中広報

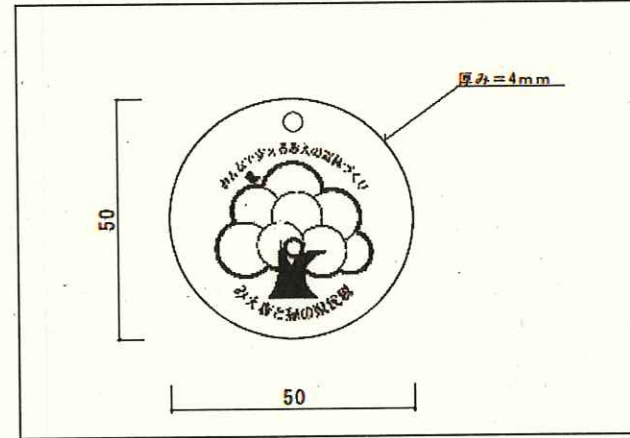


写真3
木製プレートイメージ

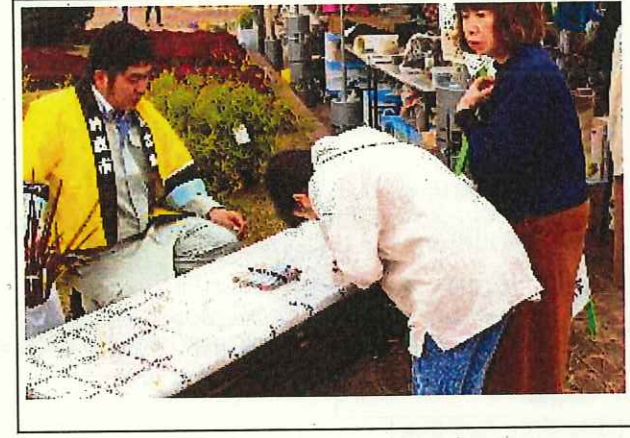


写真4
木製プレート記入風景



写真5
記念樹配布



写真6
受付

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	鈴鹿市
------	-------------	-----	-----

番号	区分	事業名
5	基本	木工工作及び木製品購入事業
事業費		1,038,512 円(うち交付金 1,038,512 円 うち基金活用 円)

1. 事業の目的
 三重県産の木材を用いた木工イベントを開催し、木材について触れ合い、学ぶ機会を提供する。また書架や閲覧用椅子を購入し、温かみのある空間をつくとともに、木製品を身近に感じてもらう。

2. 事業実績概要

【事業内容】
 木の本立て作り、木に関するクイズ・木製キーホルダー作りといった木工イベントを実施し、主に小学生及びその親に対して木材に触れ合い、親しみ、知識を深めるきっかけをつくることができた。また書架や閲覧用椅子を購入し、施設の木製品を充実させた。

【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】
 鈴鹿市

【補助率等】
 補助事業でなく、該当しない

【箇所数】
 鈴鹿市立図書館内(木工イベントの開催はいずれも本館内2階視聴覚室にて開催、書架・閲覧用椅子は本館内1階閲覧室内に設置)

【事業量】
 書架 1台 閲覧用椅子 16脚
 本立て作り、クイズ・キーホルダー作りを実施

【事業実施期間】
 本立て作り開催日：8月24日、8月31日、の計2日
 クイズ・キーホルダー作り開催日：11月10日、11月11日、の計2日
 書架と閲覧用椅子については3月に設置

【受益者、参加者、利用者数等】
 本立て作り参加者 計90名 クイズ・キーホルダー作り参加者 計220名
 書架及び椅子の受益者はすべての来館者(平成29年度来館者数約31万4千人)

3. 有効性

【実施箇所の選定理由】
 木工イベントは図書館内で開催することにより、参加者が前年度までに当事業で購入した椅子や書架を知る・見る・使用するといった効果を期待できる。

【実施した効果】
 木工イベントについては、定員を上回る応募があり、アンケート結果からも県民税のことを知らなかった人が多かったため、たくさんの方の参加者に当事業のことを周知することができた。

【実施箇所の今後の管理体制】
 施設等整備ではなく、該当しない。書架・椅子の管理については、恒常的に来館者に使用されるものであり、常に職員の管理下にある。

【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】
 木工イベントで作成した物は、身近で長期間使用できる物であり、木の大切さや木材利用の意義を実感してもらうことができる。また、書架・閲覧用椅子にはシール貼付等により、当事業のことを知ってもらうことができ、木の大切さに関心を寄せてもらうことが期待される。

【実施内容に対する住民等の反応】
 木工イベントは、定員を上回る応募があり、関心の高さがうかがえた。またイベント中は親子揃って楽しんでいる様子が多く見受けられ、アンケート結果も「森林について考えるきっかけになった。」「県民税について理解できる機会となった。」など好評であった。

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	鈴鹿市
------	-------------	-----	-----

番号	区分	事業名
5	基本	木工工作及び木製品購入事業
事業費	1,038,512 円(うち交付金	1,038,512 円・うち基金活用 円)

4. 効率性

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】

本立て作り:物品(木工キット)の購入,その販売者の製作補助・木育啓発を実施
クイズ・キーホルダー作り:図書館職員のみにより実施
書架及び閲覧用椅子:物品の購入
いずれも図書館が発注

【実施方法の選定理由】

本立て作りについては、三重県産木材を使った木工イベントを実施することができ、かつ三重の森林に関心を向けてもらえるよう、冒頭に講話を行える業者を選定した。

【契約方法と落札率または補助率等】

随意契約

【契約相手方の選定理由】

木の本立てについては市の規定(地方自治法施行令第167条の2第1項第2号)に基づき、一者との随意契約とした。選定理由はその業者が三重県産木材を多く活用し事業を行っており、また本立て作りには多くの親子連れが見込まれるが、多くの木工イベントを開催し、そうした年齢層を対象に木育啓発も行っているため、適切なアドバイスや臨機応変な対応が期待できるため。書架・閲覧用椅子については市の規定(地方自治法施行令第167条の2第1項第2号)に基づき、複数の業者から見積を徴取し、少額随契とした。

【事業費の積算根拠】

積算資料に記載。

5. 公益性（波及度）

【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】

本立て作り参加者 計90名 クイズ・キーホルダー作り参加者 計220名
書架・閲覧用椅子の受益者はすべての来館者(平成29年度来館者数約31万4千人)

【管理責任者（森林所有者）への対応】

個人が所有する森林等の整備ではなく、該当しない。

【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】

森林整備等でなく、該当しない。製作物は製作者が、備品は図書館で管理していく。

6. 周知実績と今後の周知

【実施前の実績】

木工イベントについては、事前に市広報・図書館ホームページ・チラシ・ツイッター・フェイスブックにて税事業である旨を記載し、広く市民に周知し参加を募った。

【実施中の実績】

木工イベントの開催時には、パンフレットやクリアファイルを配布することで、みえ森と緑の県民税の目的や仕組みを周知したが、本立て作りにおいては、木製品販売者による参加者に対しての県民税の趣旨や三重の森の現状についての説明も行なった。またクイズ・キーホルダー作りにおいては、クイズで県民税のことを取り上げた。

【実施後の実績】

後日、木工イベントについて図書館ホームページ・ツイッター・フェイスブックに実施報告を掲載した。またクイズ・キーホルダー作り実施中に頂いたメッセージを1階ロビーに掲示し、多くの市民に周知した。

【今後の見込】

本立てにはロゴマークを焼印し、クイズ・キーホルダー作りには親子連れが多く、家族や友人に広まっていくことが見込まれる。また書架・閲覧用椅子にはシール貼付等を行い、継続的に県民税を周知する。

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

対策区分	3. 森を育む人づくり
------	-------------

市町名	鈴鹿市
-----	-----

事業名	木工工作及び木製品購入事業
-----	---------------

7. 写真



写真1

木の本立て作りの様子。



写真2

木のキーホルダー作りの様子。



写真3

木に関するクイズに挑戦している様子。



写真4

クイズ・キーホルダー作りの参加者に頂いたメッセージを1階ロビーに掲示。

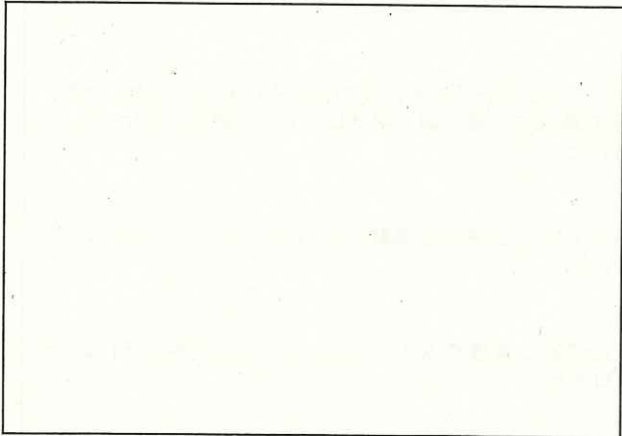


写真5

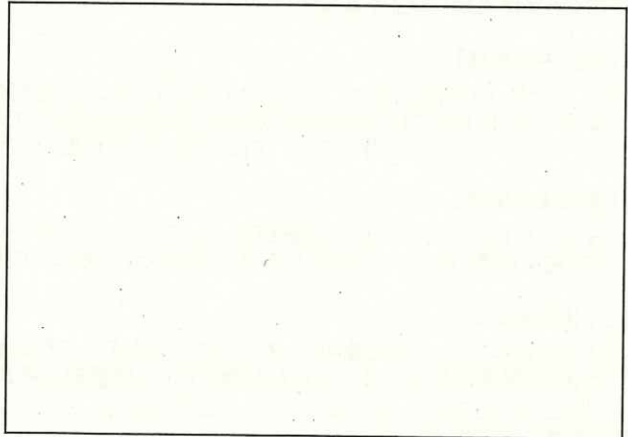


写真6

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	鈴鹿市
番号	区分	事業名	
6	基本	鈴鹿市立西条保育所新設工事	
事業費	39,704,381 円(うち交付金	7,964,000 円	うち基金活用 円)

1. 事業の目的	鈴鹿市立西条保育所の、移転新築を行うにあたり、各保育室の棚に木材を使用することで、温かみがあり、親しみやすい保育室にするとともに、木製品に触れ、良さを感じる機会とする。
2. 事業実績概要	<p>【事業内容】 2020年4月開園予定の新築の保育所において、各保育室の棚に木材を使用することで、保育室内を温かみがあり、親しみやすい空間とする。</p> <p>【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 鈴鹿市</p> <p>【補助率等】 新築の保育所内に設置する病後児保育についてのみ補助金が交付される。補助率は国1/3、県1/3病後児保育に係る棚については、除外している。</p> <p>【箇所数】 新築の西条保育所1か所</p> <p>【事業量】 造りつけ棚の設置数 96台</p> <p>【事業実施期間】 平成30年4月～平成32年3月</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 新築の西条保育所利用者 約195名（定員150名、職員35名、一時預かり10名見込み）</p>
3. 有効性	<p>【実施箇所の選定理由】 新築の西条保育所は、市内の拠点施設と位置づけから、各保育室の棚に木材を使用することで、森や緑の大切さについて学び、ふれあうにあたり、適するため。</p> <p>【実施した効果】 無機質、画一的な製品でなく、木材の持つ温かさや人工物にはない木製品の良さを幼児期より体感し、心豊かな環境で保育を行うことができることを見込まれる。</p> <p>【実施箇所の今後の管理体制】 実施箇所は市立保育所であり、完成後は市が管理する。</p> <p>【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 日常で使用する棚の部材を、家庭においても使用することが少なくなっている木材を使用することで、木に接する機会を提供するとともに、森林や木材について学びかけとする。</p> <p>【実施内容に対する住民等の反応】 開園後に自治会長や施設管理者から受益者の反応を聞き取る。</p>

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	鈴鹿市
------	--------------	-----	-----

番号	区分	事業名
6	基本	鈴鹿市立西条保育所新設工事
事業費	39,704,381 円(うち交付金 7,964,000 円 うち基金活用 円)	

4. 効率性	<p>【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 請負工事</p> <p>【実施方法の選定理由】 鈴鹿市条件付一般競争入札実施要綱により条件付一般競争入札を選択</p> <p>【契約方法と落札率または補助率等】 一般競争入札 落札率 98.99%</p> <p>【契約相手方の選定理由】 一般競争入札</p> <p>【事業費の積算根拠】 設置する棚ごとの見積りによる</p>
--------	---

5. 公益性（波及度）	<p>【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 新築の西条保育所利用者 約195名（定員150名、職員35名、一時保育10名見込み）</p> <p>【管理責任者（森林所有者）への対応】 市立保育所であり、森林等の整備はなく該当しない</p> <p>【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 市立保育所のため、転用予定はなく、該当しない</p>
-------------	--

6. 周知実績と今後の周知	<p>【実施前の実績】 住民や自治会長に「みえ森と緑の県民税市町村交付事業」を活用して実施することを説明した。</p> <p>【実施中の実績】 工事看板により、「みえ森と緑の県民税市町村交付事業」を活用していることを周知。</p> <p>【実施後の実績】 設置した木製棚に「みえ森と緑の県民税市町村交付事業」を活用している旨を表記。</p> <p>【今後の見込】 設置した木製棚に「みえ森と緑の県民税市町村交付事業」を活用している旨を表記する予定。</p>
---------------	--

7. 写真	別紙のとおり
-------	--------

8. その他特記事項	
------------	--

対策区分	4. 木の薫る空間づくり
------	--------------

市町名	鈴鹿市
-----	-----

事業名	鈴鹿市立西条保育所新設工事
-----	---------------

7. 写真



写真1

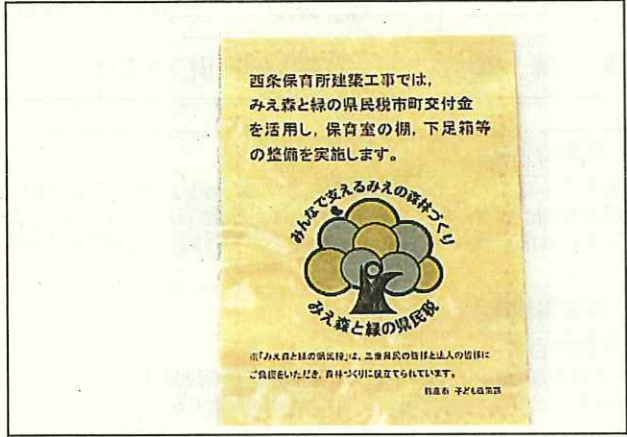


写真2

工事中に「みえ森と緑の県民税」を活用した取り組みであることを記した掲示



写真3

取付け棚(ロッカー)

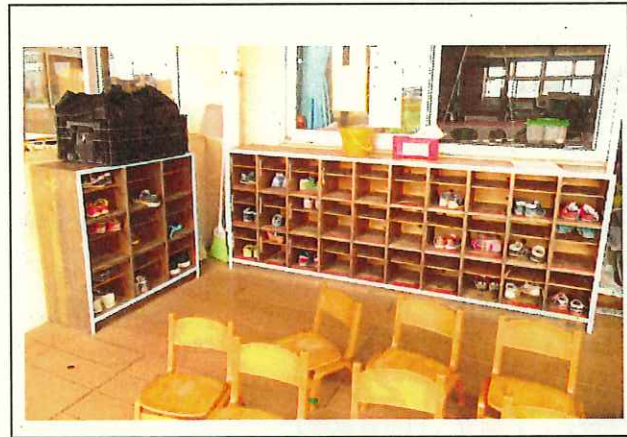


写真4

取付け棚(下駄箱)

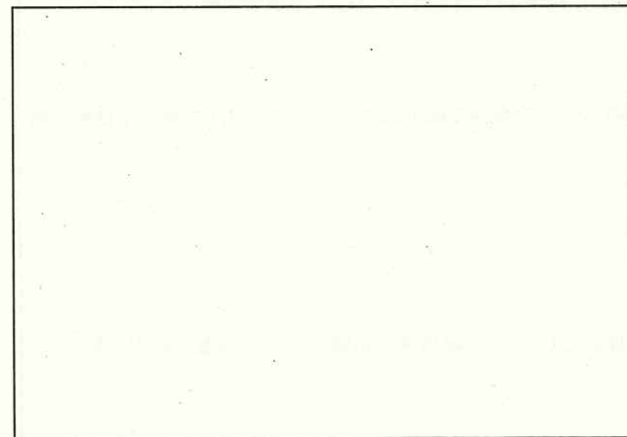


写真5

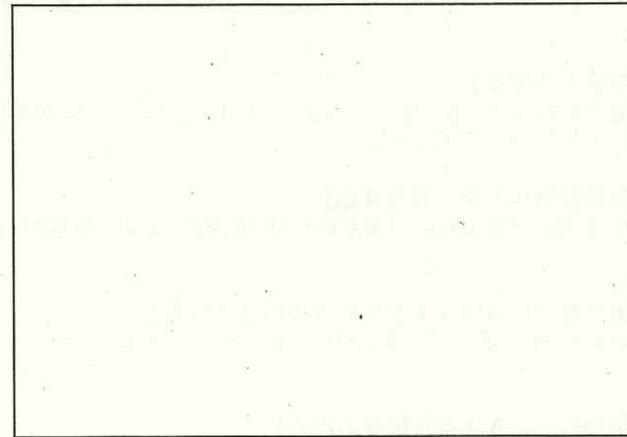


写真6

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	鈴鹿市
------	--------------------	-----	-----

番号	区分	事業名
7	基本	小岐須溪谷整備事業
事業費	2,732,400 円(うち交付金	2,732,400 円 うち基金活用 円)

1. 事業の目的
 鈴鹿市小岐須町にある小岐須溪谷山の家周辺は、登山や森林浴、溪谷での川遊びを目的として、市内外から多くの観光客が訪れているが、環境整備が行き届いておらず、安全性が懸念されている。このことから、当該税活用事業により、早急に整備を行い、子ども達が身近なところで安全に自然に親しみ、楽しめる環境づくりを行うことで、緑の自然環境を大切に思いう心を育む。

2. 事業実績概要

【事業内容】
 ・小岐須溪谷山の家敷地からの転落防止柵を設置する
 ・溪谷へとつながる遊歩道に丸太階段を設置する

【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】
 鈴鹿市

【補助率等】
 補助事業でなく、該当しない。

【箇所数】
 2箇所

【事業量】
 面積88.92㎡(転落防止柵:H=800 L=78.0m 丸太階段:W=800 N=117基)

【事業実施期間】
 平成30年4月～平成31年2月

【受益者、参加者、利用者数等】
 鈴鹿山溪入込客数 9,280人(平成29年度実績)

3. 有効性

【実施箇所の選定理由】
 小岐須溪谷は、市内でも有数の身近で緑の自然環境豊かな場所であるにも関わらず、整備が行き届いておらず危険な状態であったため。

【実施した効果】
 登山客やレジャー客が増加し、溪谷の緑や川の水の心地よさの実感につながることや、安全性の向上により、子どもも安心して身近な自然に親しむことができるようになった。

【実施箇所の今後の管理体制】
 市、鈴鹿山溪観光協会、小岐須溪谷山の家管理人により、維持管理を行う。

【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】
 遊歩道は登山道へと続く道であり、川遊びができる河原にもつながる。特に山開き式では多くの参列者が訪問するため、多数の利用がある。

【実施内容に対する住民等の反応】
 登山客からは「歩きやすくなった」と好評であり、山の家管理人からは、「敷地外に転落する危険がなくなった」などの声を頂いている。

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	鈴鹿市
------	--------------------	-----	-----

番号	区分	事業名
7	基本	小岐須溪谷整備事業
事業費	2,732,400 円(うち交付金	2,732,400 円 うち基金活用 円)

<p>4. 効率性</p> <p>【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 市による工事請負契約</p> <p>【実施方法の選定理由】 小岐須溪谷山の家が市有施設であることから、市が発注した。</p> <p>【契約方法と落札率または補助率等】 一般競争入札(落札率89%)</p> <p>【契約相手方の選定理由】 一般競争入札(結果は入札調書のとおり)</p> <p>【事業費の積算根拠】 設計内訳表のとおり</p>
<p>5. 公益性（波及度）</p> <p>【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 鈴鹿山溪入込客数 9,280人(平成29年度実績)(山の家管理人による集計)</p> <p>【管理責任者（森林所有者）への対応】 設置者である市が維持管理する。</p> <p>【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 自称実施にあたり、転用等に一定の制限をかけている。</p>
<p>6. 周知実績と今後の周知</p> <p>【実施前の実績】 地元住民へ「みえ森と緑の県民税」を活用して整備する旨を伝えた。</p> <p>【実施中の実績】 整備実施中の工事看板において、「みえ森と緑の県民税」を活用した事業であることを周知した。</p> <p>【実施後の実績】 「みえ森と緑の県民税」を活用した旨を看板設置により周知した。</p> <p>【今後の見込】 登山シーズンが開始し、看板や設備が多くの登山客やレジャー客の目に触れ、利用されることによって、周知する。 また、山開き式の際にも周知する。</p>
<p>7. 写真</p> <p>別紙のとおり</p>
<p>8. その他特記事項</p>

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	鈴鹿市
------	--------------------	-----	-----

事業名	小岐須溪谷整備事業
-----	-----------

7. 写真



写真1
転落防止柵(実施前)
急な斜面になっており危険



写真2
転落防止柵(実施前)
ロープで囲っているのみ



写真3
転落防止柵(実施後)
木柱とネットで囲い安全性向上



写真4
遊歩道の整備(実施前)
岩が露出している箇所もあり危険



写真5
遊歩道の整備(実施後)
入り口右手にみえ森と緑の県民税看板設置



写真6
遊歩道の整備(実施後)
歩きやすい状態に

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	鈴鹿市
------	-------------	-----	-----

番号	区分	事業名
8	基本	森と緑の生涯学習事業
事業費	890,662 円(うち交付金	890,662 円 うち基金活用 0 円)

1. 事業の目的	小学生を中心とした子どもと保護者が、森や緑の大切さについて学び、ふれあうことにより、多くのあらゆる世代の市民が、森林保全や持続可能な自然環境などの理解を深めることを目的とする。
2. 事業実績概要	<p>【事業内容】 各公民館運営委員会に「森と緑の生涯学習講座」として委託し、公民館及びその周辺において、小学生を中心とした子どもと保護者、或いは高齢者と子どもたちが、夏休みなど長期休暇を利用しながら、年3回程度、間伐材を使用した木工教室、フィールドワークなどの森林環境学習を実施した。</p> <p>【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 鈴鹿市</p> <p>【補助率等】 100%</p> <p>【箇所数】 13公民館(庄内、石薬師、庄野、清和、加佐登、箕田、神戸、飯野、長太、栄、合川、鼓ヶ浦、郡山)</p> <p>【事業量】 講座実施回数 10館×3回, 3館×4回 合計59講座</p> <p>【事業実施期間】 平成30年4月～平成31年3月</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 ☆評価の分類「多様性、発展性」「森林を支える社会づくりへの貢献度」 小学生を中心とした子どもと保護者、大人、子どもと高齢者など延べ参加者数 1,262名</p>
3. 有効性	<p>【実施箇所の選定理由】 ☆評価の分類「事業計画」 森林学習について意欲的に取り組み、工夫された企画を実施することにより、森林への理解が深まることが期待される公民館を選定。</p> <p>【実施した効果】 ☆評価の分類「事業効果」 各館において、専門家の森の実情、環境、また、県産材の利活用などの講義で基本を学び、木工教室やフィールドワークなどの実技を取り入れた森林学習を通じて、学習参加者が森や緑の大切さを学ぶことができた。</p> <p>【実施箇所の今後の管理体制】 ☆評価の分類「実施後の管理体制」 施設等整備ではなく、該当しない</p> <p>【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 ☆評価の分類「事業効果」「森林を支える…貢献度」 平成30年度も引き続き、各館において創意工夫を凝らした「森と緑の生涯学習講座」を検討し、子どもを中心とした市民に対して、理解周知に努める。</p> <p>【実施内容に対する住民等の反応】 ☆評価の分類「住民の反応」 別添アンケート結果のとおり</p>

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	鈴鹿市
------	-------------	-----	-----

番号	区分	事業名
8	基本	森と緑の生涯学習事業
事業費	890,662 円(うち交付金	890,662 円 うち基金活用 0 円)

4. 効率性	<p>【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 委託</p> <p>【実施方法の選定理由】 ☆評価の分類「実施方法」 生涯学習、地域の交流拠点として地域にある公民館は事業実施に最適な場所であり、「森と緑の生涯学習講座」については、他の公民館事業と同様、地域住民で構成された公民館運営委員会に委託することが必要と考える。</p> <p>【契約方法と落札率または補助率等】 ☆評価の分類「公平性」 随意契約（地方自治法施行令第167条の2第1項第2号）、補助率100%</p> <p>【契約相手方の選定理由】 公民館運営委員会が、地域の生涯学習の場、地域の方の交流の拠点でもある公民館の事業運営を行っているため。</p> <p>【事業費の積算根拠】 ☆評価の分類「透明性」 1館あたり70千円。講師料30千円、材料費等35千円、施設や道具の使用料5千円</p>
--------	---

5. 公益性（波及度）	<p>【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 ☆評価の分類「受益対象」 「森と緑の生涯学習講座」については、1,262名の参加。事前申込み制とし、当日の参加者数を把握。</p> <p>【管理責任者（森林所有者）への対応】 ☆評価の分類「支援の必要性」 個人が所有する森林等の整備ではなく、該当しない</p> <p>【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 ☆評価の分類「整備箇所の転用や目的外使用の規制」 公民館事業であるため、転用等が想定されず、該当しない</p>
-------------	---

6. 周知実績と今後の周知	<p>☆評価の分類「事業内容」「多様性、発展性」「森林を支える…貢献度」</p> <p>【実施前の実績】 公民館の講座チラシや毎月発行する公民館だよりにおいて、交付金事業である旨を記載し、地域の回覧板や市ホームページや各小学校で講座の案内と募集を行った。</p> <p>【実施中の実績】 講座の冒頭などに、講師から説明を行うとともに、資料などに交付金事業の掲載を行った。また、ノベルティ(クリアファイル、しおり、焼印)などで公民館利用者にも周知を行った。</p> <p>【実施後の実績】 講座終了後、公民館だよりなどで、内容の周知を行った。</p> <p>【今後の見込】 実施前、実施中、実施後の周知を各公民館の講座チラシ、ポスター、公民館だよりなどで行う。</p>
---------------	---

7. 写真	別紙のとおり
8. その他特記事項	

対策区分	3. 森を育む人づくり
------	-------------

市町名	鈴鹿市
-----	-----

事業名	森と緑の生涯学習講座
-----	------------

7. 写真



写真1
箕田公民館:ゴム鉄砲作り



写真2
鼓ヶ浦公民館:木工工作(夏)



写真3
加佐登公民館:ネイチャーゲーム



写真4
鼓ヶ浦公民館:丸太ざり



写真5
神戸公民館:ジャングルジムを組み立てて遊ぶ

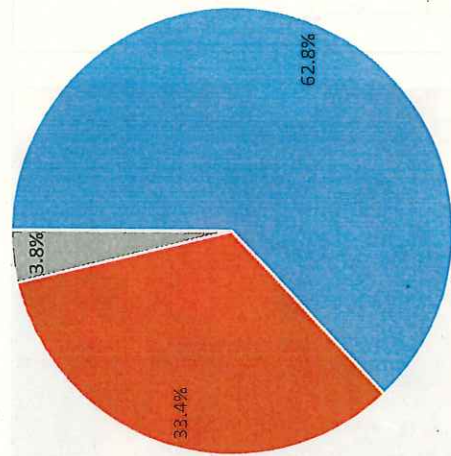


写真6
栄公民館:ヒノキのシートでうちわ作り

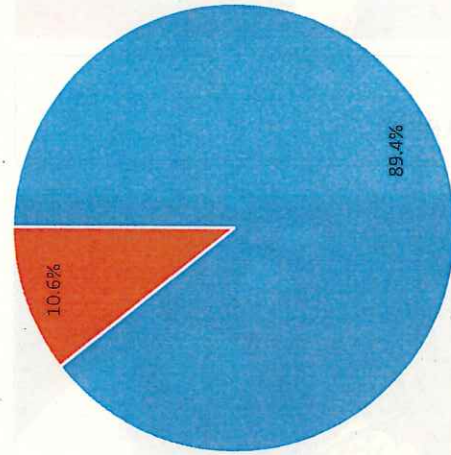
森と緑アンケート集計(基本)

	1.森や緑の大切さがわかりましたか		わからなかった	2.森や緑について、これからも学習したいとおもいましたか	
	よくわかった	だいたいわかった		おもった	おもわなかった
1 庄内	15	0	0	15	0
2 石巻市	10	1	0	11	0
3 庄野	17	5	1	21	2
4 清和	69	22	5	93	3
5 加佐登	44	17	3	62	2
6 箕田	17	13	4	31	3
7 神戸	9	7	1	17	0
8 飯野	25	18	1	41	2
9 長太	52	31	0	76	7
10 栄	16	17	0	28	5
11 合川	61	31	0	83	9
12 鼓ヶ浦	69	45	10	87	36
13 郡山	44	23	1	64	4
計	433	230	26	614	73

%



■ よくわかった ■ だいたいわかった ■ わからなかった



■ おもった ■ おもわなかった

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	鈴鹿市
------	--------------	-----	-----

番号	区分	事業名
9	基本・特別	AGF鈴鹿体育館施設整備事業
事業費	31,553,280 円(うち交付金	30,000,000 円 うち基金活用 0 円)

1. 事業の目的	<p>AGF鈴鹿体育館は、日頃から市民のスポーツによる交流や健康増進を図る場所として多くの方に利用されている。また、平成33年度に開催予定の三重とこわか国体のハンドボール会場として利用されることが決定しているため、競技者や体育館利用者が利用する更衣室ロッカーを県産木材を使用して改修することで、広く市民に県産木材を身近に感じてもらい、当該事業の周知及び施設の充実による体育施設の利用促進を図る。また、当館の利用により人と木材の関係を深め、森林を支える社会づくりに寄与することを目的とする。</p>
2. 事業実績概要	<p>【事業内容】 AGF鈴鹿体育館更衣室のロッカーを県産木材を使用して全面的に改修する。</p> <p>【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 鈴鹿市</p> <p>【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない</p> <p>【箇所数】 2箇所(男:1女:1)</p> <p>【事業量】 ロッカー 47台</p> <p>【事業実施期間】 平成30年10月～平成31年3月 (全工期H30.10.1～H32.3.31)</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 年間延べ10万人を超えるAGF鈴鹿体育館を利用する利用者。また、三重とこわか国体において本市を訪れる全国の競技者及び関係者など。</p>
3. 有効性	<p>【実施箇所の選定理由】 長寿命化及び三重とこわか国体会場として整備するための大規模改修工事実施に併せ、老朽化により一部使用が困難となっているロッカーの木造化を行うことで、県産材の良さを体感させ、より効果的にPRすることができるため。</p> <p>【実施した効果】 県産材を活用したロッカーとすることで、施設利用者(競技団体や児童)に対して県産材の良さや当該事業の趣旨等を広くPRすることが出来る。</p> <p>【実施箇所の今後の管理体制】 市立体育館で維持管理を行う。</p> <p>【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 AGF鈴鹿体育館が開館した後は多くの利用者に、木の薫る空間を感じていただきながらロッカーの利用をしていただく。</p> <p>【実施内容に対する住民等の反応】 工事完了後、利用者の反応を聞き取る。</p>

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	鈴鹿市
------	--------------	-----	-----

番号	区分	事業名
9	基本・特別	AGF鈴鹿体育館施設整備事業
事業費	31,553,280 円(うち交付金	30,000,000 円 うち基金活用 0 円)

4. 効率性	<p>【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 市による工事請負契約</p> <p>【実施方法の選定理由】 市立体育館であるため。</p> <p>【契約方法と落札率または補助率等】 競争入札による。(落札率 99%)</p> <p>【契約相手方の選定理由】 競争入札による。</p> <p>【事業費の積算根拠】 建築の単価と歩掛を参考に積算し、予定価格とした。</p>
5. 公益性（波及度）	<p>【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 施設を使用する競技団体や児童、地域住民等が利用することを見込んでおり、延べ8,000人/月と想定している。</p> <p>【管理責任者（森林所有者）への対応】 個人が所有する森林等の整備ではなく、該当しない。</p> <p>【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 市立体育館の更衣室内のロッカーであるため、転用等が想定されず、該当しない。</p>
6. 周知実績と今後の周知	<p>【実施前の実績】 チラシを配布し、みえ森と緑の県民税を活用することの周知を行った。</p> <p>【実施中の実績】 工事看板に「みえ森と緑の県民税市町交付金事業」と記載したものを設置し、周知を行う。</p> <p>【実施後の実績】 ロッカー本体の一部にロゴマークを焼き印し、利用者へ周知を行う。</p> <p>【今後の見込】 整備事業終了後にロッカー室内に森と緑の県民税や森林の役割等について説明文を掲示し、利用者への周知を行う。また、ホームページや市広報を用い、みえ森と緑の県民税を活用して実施した事業として紹介する。</p>
7. 写真	別紙のとおり
8. その他特記事項	

対策区分	4. 木の薫る空間づくり
------	--------------

市町名	鈴鹿市
-----	-----

事業名	AGF鈴鹿体育館施設整備事業
-----	----------------

7. 写真



写真1
更衣室①設置状況

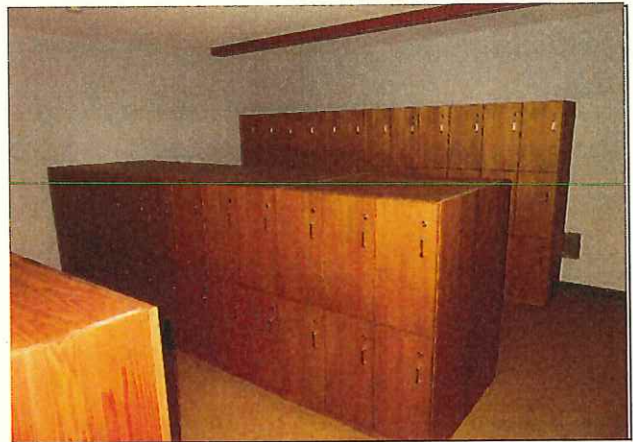


写真2
更衣室②設置状況



写真3
ロゴマーク①

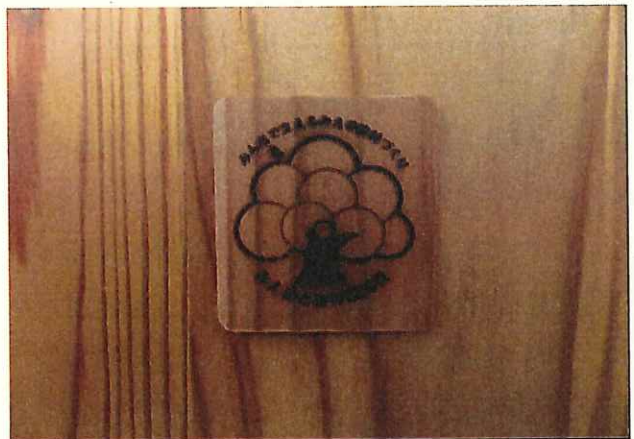


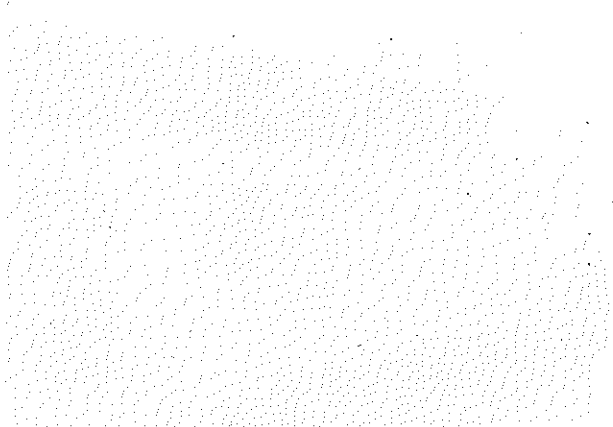
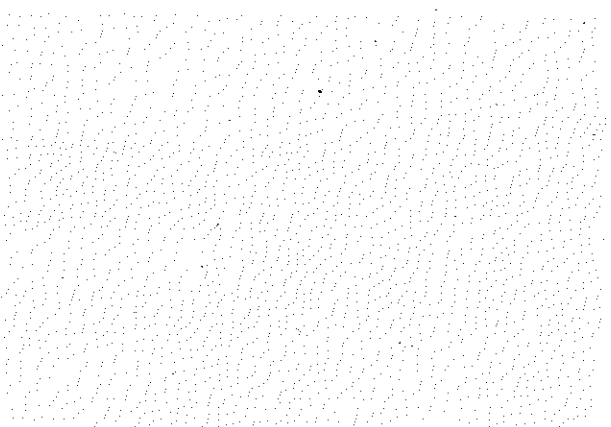
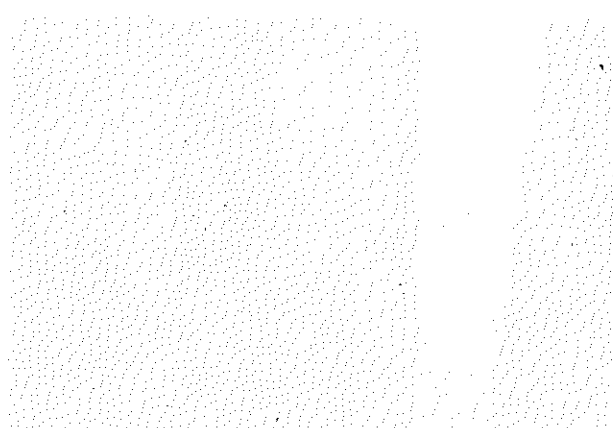
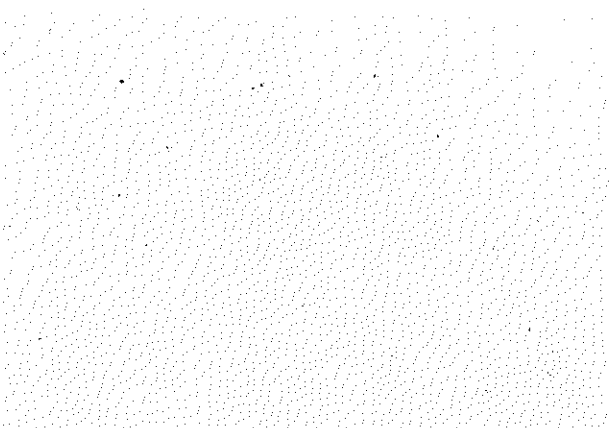
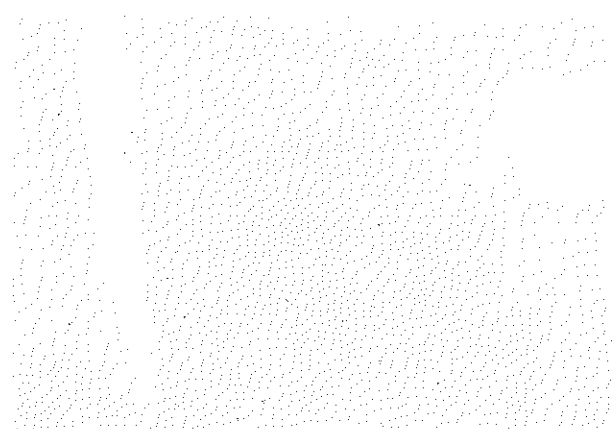
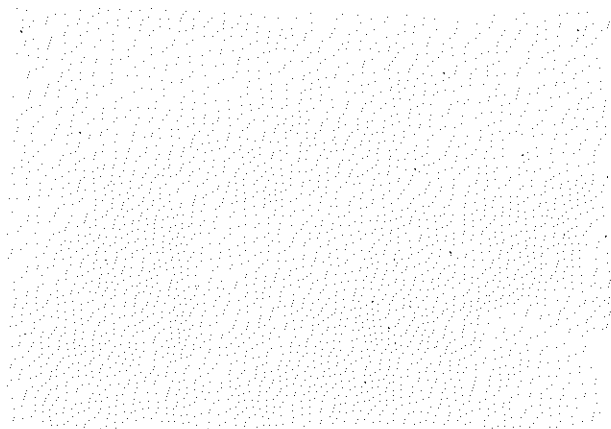
写真4
ロゴマーク②



写真5
工事現場啓発看板①



写真6
工事現場啓発看板②



平成30年度 みえ森と緑の県民税市町交付金事業 実績一覧

市町名		亀山市	
当年度交付金額	円	(ほか、市町基金活用	円)
	32,230,000	0	0
事業名	対策区分	交付金充当額	当年度交付金
1 里山・竹林生活環境保全支援事業	2. 暮らしに身近な森林づくり	1,499,000	1,499,000
2 安全な通学路整備事業	2. 暮らしに身近な森林づくり	480,600	480,600
3 鈴鹿川等源流域再生事業 (環境林整備事業)	2. 暮らしに身近な森林づくり	11,715,840	11,715,840
4 森と木材のふれあい事業	3. 森を育む人づくり	2,165,859	2,165,859
5 鈴鹿川等源流域再生事業 (木質バイオマス利用促進事業)	4. 木の薫る空間づくり	341,701	341,701
6 緑あふれるまちづくり支援事業	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	168,000	168,000
7 川崎小学校改築事業 (木製備品導入)	3. 森を育む人づくり	7,086,000	7,086,000
8 川崎小学校改築事業	4. 木の薫る空間づくり	8,773,000	8,773,000
	合計	32,230,000	32,230,000
			ほか、市町基金 0

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり	市町名	亀山市
------	----------------	-----	-----

番号	区分	事業名
1	基本	里山・竹林生活環境保全支援事業
事業費	1,499,000 円(うち交付金	1,499,000 円 うち基金活用 0 円)

1. 事業の目的	市内の里山や民家周辺の竹林は利用されずに放置されてヤブ化している。これらの荒廃した里山や竹林を再生し、民家周辺の生活環境の向上や地域住民の憩いの場、環境教育の場として利用することを目的とする。
2. 事業実績概要	<p>【事業内容】 地域住民が組織する団体等が、地域住民の憩いの場としての利用や安全性の確保を目的として、持続的に民家周辺の道路に隣接した里山や民家周辺の竹林を整備に要する費用に対して支援する。</p> <p>【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 自治会、地域まちづくり協議会、NPO団体、森林保全任意団体</p> <p>【補助率等】 補助率10/10 1団体 1回限り 3年以内で100万円以内とする。</p> <p>【箇所数】 3箇所(楠平尾地区、久我地区、安坂山地区)</p> <p>【事業量】 整備を行った里山の面積 約4ha</p> <p>【事業実施期間】 平成30年4月1日～平成31年3月29日</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 整備によって生活環境が向上する集落:3地区(389戸、975人) 総合学習及び交流会に参加する児童など:約70名</p>
3. 有効性	<p>【実施箇所の選定理由】 実施箇所は活動団体による選定。補助申請箇所について、活動内容や写真又は現地を確認し決定している。</p> <p>【実施した効果】 ・荒れた里山の働きを復元するための樹木の伐採・下刈り等を実施したことで、地域の安全性の確保、生活環境の向上や獣害対策にも繋がった。また、自然環境の大切さを学ぶ場を子どもたちに提供できた。(楠平尾地区・安坂山地区)・地域住民が協力し、通行に支障がある道路沿いの支障木を伐採したことにより、通行の安全性の向上や獣害対策にも繋がった。また、協働することで、薄れがちな地域の絆が強化された。(久我地区)</p> <p>【実施箇所の今後の管理体制】 補助対象事業終了後も継続して、楠平尾ササユリ保存会、久我自治会、池山里山づくりの会が里山保全活動を実施。</p> <p>【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 地域住民が安心して通行している。(久我地区)・地元小学校の総合学習として活用している。(楠平尾地区・安坂山地区)今後も維持管理に務め、地域の安心・安全を守る。また、引き続き子どもたちに自然環境の学習の場として提供していく。</p> <p>【実施内容に対する住民等の反応】 地域の安全性が確保され、景観も良くなった。</p>

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり	市町名	亀山市
------	----------------	-----	-----

番号	区分	事業名
1	基本	里山・竹林生活環境保全支援事業
事業費	1,499,000 円(うち交付金	1,499,000 円 うち基金活用 0 円)

4. 効率性	
【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】	補助事業
【実施方法の選定理由】	住民が整備したい箇所を選定できる。また、資機材等を補助することにより、住民自らが整備に携われる。
【契約方法と落札率または補助率等】	1団体につき、3年間で100万円以内
【契約相手方の選定理由】	補助事業のため、該当しない
【事業費の積算根拠】	活動に必要な経費を収支予算・決算書、見積もりや領収書の写しなどで内容を確認している

5. 公益性（波及度）	
【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】	受益者:活動地域の人口(市民課資料による) 参加者:会員人数
【管理責任者（森林所有者）への対応】	里山保全活動に関する土地の使用承諾書を得ている。
【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】	転用の恐れがないところで実施している。

6. 周知実績と今後の周知	
【実施前の実績】	補助申請者(代表者)に申請時に周知をお願いしている。 税を活用して実施する計画の事業をホームページに掲載。
【実施中の実績】	チラシを配布してみえ森と緑の県民税を活用していることを周知した。
【実施後の実績】	標柱等を設置しPR。また、ホームページで実績を掲載し周知。
【今後の見込】	標柱等の設置やホームページにて掲載し周知。

7. 写真	
	別紙のとおり

8. その他特記事項	
-------------------	--

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり
------	----------------

市町名	亀山市
-----	-----

事業名	里山・竹林生活環境保全支援事業
-----	-----------------

7. 写真



写真1

楠平尾ササユリ保存会(整備後)



写真2

楠平尾ササユリ保存会(総合学習)



写真3

久我自治会(整備前)

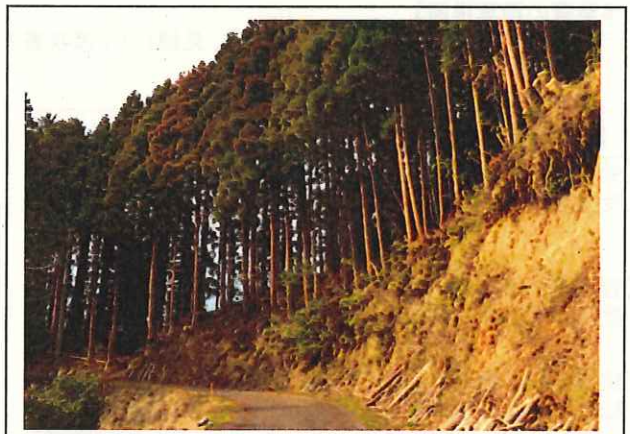


写真4

久我自治会(整備後)

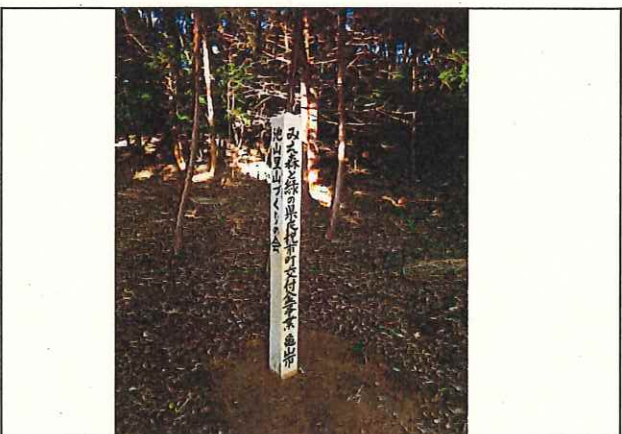


写真5

池山里山づくりの会



写真6

池山里山づくりの会

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり	市町名	亀山市
番号	区分	事業名	
2	基本	安全な通学路整備事業	
事業費	480,600 円(うち交付金	480,600 円	うち基金活用 0 円)

1. 事業の目的
 通学路沿いで、私有林の倒木・枯損木、枝葉が通学路へ危険を及ぼす恐れのある木々の伐採については、自治会などから森林所有者に手入れを促しているが、不在村者や高齢者など、実行が困難な箇所について、選定等を行い、倒木や枯れ枝の落下を防止し、子どもたちの通学路の安心・安全を守る。

2. 事業実績概要

【事業内容】
 市道今福下白木線の白川地区コミュニティセンターを基点に白川神社までの区間にある、通学路沿いの枯損木の伐採及び周囲の枝の剪定を行う。

【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】
 亀山市

【補助率等】
 補助事業ではなく、該当しない。

【箇所数】
 伐採及び剪定箇所 1箇所(白木町地内の通学路)

【事業量】
 枯木(ナラ・松等)10本(樹幹径約30cm～80cm、樹高約5m～15m)の伐採並びに周囲の枝打ち

【事業実施期間】
 平成30年4月2日～平成31年3月29日

【受益者、参加者、利用者数等】
 整備箇所対象小学校(白川)児童数47人、白木自治会 439名 184世帯

3. 有効性

【実施箇所の選定理由】
 学校、自治会及び保護者からの要望。

【実施した効果】
 通学路への倒木の恐れがある枯損木の伐採などを行ったことにより、通学路への倒木の危険が無くなり、子どもたちが安心して通学できる。また、地域の安心・安全に繋がるとともに景観も良くなった。

【実施箇所の今後の管理体制】
 今後の維持管理については、森林所有者が行う。

【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】
 通学路として引き続き活用する。

【実施内容に対する住民等の反応】
 子どもたちの通学路の安心・安全が図られたため喜ばれている。

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	亀山市
------	-----------------	-----	-----

番号	区分	事業名
2	基本	安全な通学路整備事業
事業費	480,600 円(うち交付金	480,600 円 うち基金活用 0 円)

4. 効率性	<p>【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 市による委託契約</p> <p>【実施方法の選定理由】 通学路沿いの倒木の恐れのある危険木の伐採を適正で効率的な作業を行えるため。</p> <p>【契約方法と落札率または補助率等】 契約方法: 随意契約(見積り) 落札率: 100%</p> <p>【契約相手方の選定理由】 森林施業に実績のある業者を選定</p> <p>【事業費の積算根拠】 現地にて市、業者、森林所有者との打合せ後に参考見積りを徴収し積算。</p>
--------	---

5. 公益性（波及度）	<p>【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 通学する生徒・児童数を教育委員会に調査依頼。(白川地区 47人)</p> <p>【管理責任者（森林所有者）への対応】 森林所有者から事業実施の同意を得て市が実施</p> <p>【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 転用の恐れがないところで実施している。</p>
-------------	---

6. 周知実績と今後の周知	<p>【実施前の実績】 自治会や学校児童保護者へ作業実施周知回覧に税事業を表示</p> <p>【実施中の実績】 作業看板に税事業を表示</p> <p>【実施後の実績】 HPで実績を掲載し周知している。</p> <p>【今後の見込】 整備箇所の市HPへ掲載</p>
---------------	---

7. 写真	別紙のとおり
-------	--------

8. その他特記事項	
------------	--

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり
------	-----------------

市町名	亀山市
-----	-----

事業名	安全な通学路整備事業
-----	------------

7. 写真



写真1
白木町(伐採前)



写真2
白木町(伐採前)



写真3
白木町(作業中)



写真4
白木町(作業中)「みえ森と緑の県民税」を活用した取り組みであることを記した工事看板の設置状況



写真5
白木町(処理後)



写真6
白木町(伐採後)

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり	市町名	亀山市
------	----------------	-----	-----

番号	区分	事業名
3	基本	鈴鹿川等源流域再生事業(環境林整備事業)
事業費	11,715,840 円(うち交付金	11,715,840 円 うち基金活用 0 円)

1. 事業の目的
 鈴鹿川等源流域での荒廃した森林を防災・減災の観点から適正な整備や管理を行い、森林の持つ水源の涵養機能等の維持増進を図る。

2. 事業実績概要

【事業内容】
 県ゾーニングにおける環境林において、森林所有者、事業者と市が森林管理協定を締結し、荒廃した森林の間伐を行い、針広混交林化を図る。

【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】
 亀山市

【補助率等】
 補助事業ではなく、該当しない。

【箇所数】
 8箇所(坂下古町地区、坂下上石倉地区、坂下下石倉地区、坂下上中町、坂下三子山地区、坂下口若妻地区、坂下奥若妻地区、安坂山町仙ヶ嶽地区)

【事業量】
 間伐:22.33ha 受光伐:20.89ha

【事業実施期間】
 平成30年4月2日～平成31年3月29日

【受益者、参加者、利用者数等】
 亀山市民及び鈴鹿川流域住民

3. 有効性

【実施箇所の選定理由】
 鈴鹿川等源流域での荒廃している環境林に位置づけられた森林(保安林)において、森林の持つ水源涵養や土砂災害防止など多様な公益的機能を維持・発揮するため。

【実施した効果】
 荒廃した森林の間伐及び受光伐を実施したことで、森林内が明るくなり、植生の回復が期待でき土砂流出が抑制される。また、森林の持つ公益的機能の向上及び防災・減災が図られ、市民の暮らしの安心・安全に繋がっている。

【実施箇所の今後の管理体制】
 森林所有者、事業者と市が森林管理協定に基づき管理していく。

【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】
 事業による取組をHPで紹介する。また、森林管理協定に基づき管理する。

【実施内容に対する住民等の反応】
 適正な森林整備を行ったことで森林管理所有者などから評価をいただいている。

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり		市町名	亀山市
番号	区分	事業名		
3	基本	鈴鹿川等源流域再生事業(環境林整備事業)		
事業費	11,715,840 円(うち交付金		11,715,840 円 うち基金活用 0 円)	
4. 効率性				
【実施方法(委託(請負)、補助、その他)】 随意契約				
【実施方法の選定理由】 森林所有者、事業者と市が森林管理協定を締結している箇所を選定。				
【契約方法と落札率または補助率等】 随意契約				
【契約相手方の選定理由】 森林所有者と協定を締結している事業者。				
【事業費の積算根拠】 森林環境創造事業実施単価表に基づき算出。				
5. 公益性(波及度)				
【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 亀山市民及び鈴鹿川流域住民				
【管理責任者(森林所有者)への対応】 環境林づくり協定書に基づき適正に管理する。				
【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 環境林づくり協定を締結し転用等を規制。				
6. 周知実績と今後の周知				
【実施前の実績】 亀山市森林管理協議会にて周知				
【実施中の実績】 市HPで周知する。				
【実施後の実績】 市HPで周知する。				
【今後の見込】 市HPで周知する。				
7. 写真				
別紙のとおり				
8. その他特記事項				

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり
------	----------------

市町名	亀山市
-----	-----

事業名	鈴鹿川等源流域再生事業(環境林整備事業)
-----	----------------------

7. 写真



写真1
関町坂下字奥若妻(着工前)



写真2
関町坂下字奥若妻(着工後)

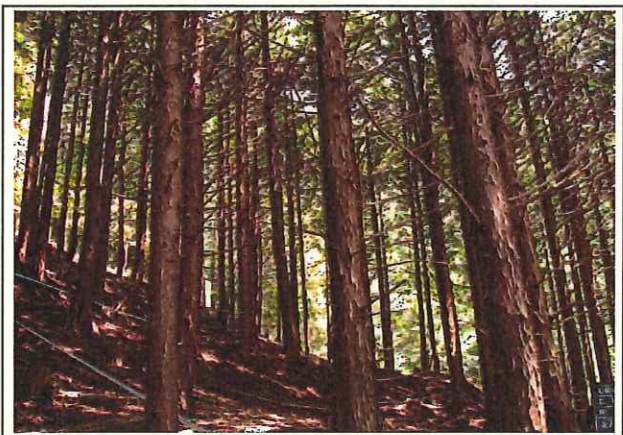


写真3
関町坂下字上石倉(着工前)



写真4
関町坂下字奥若妻(着工後)



写真5
安坂山町字仙ヶ嶽(着工前)



写真6
安坂山町字仙ヶ嶽(着工後)

対策区分	3. 森を育む人づくり		市町名	亀山市
番号	区分	事業名		
4	基本	森と木材のふれあい事業		
事業費	2,196,859 円(うち交付金	2,165,859 円	うち基金活用	31,000 円)

1. 事業の目的	<p>森林とふれあいながら、森林や緑を大切に思い、育む人づくりのため、児童・生徒をはじめ様々な市民に、森林や木材について学び・ふれあう機会を提供し森林と木材と市民との関係を深める。</p>
2. 事業実績概要	<p>【事業内容】 ・森の講座：チェーンソーによる間伐等 ・木育教室：丸太切り体験、木の実工作など・森の学校屋外編：森林公園「やまびこ」にてイベント開催 ・森の学校屋内編：市内小学校にて木育教室（木工教室）を開催。</p> <p>【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 亀山市</p> <p>【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない</p> <p>【箇所数】 ・森の講座の開催：1回（2日間コース 亀山森林公園他） ・木育教室の開催：1回（親子木育教室） ・森の学校屋外編「森とふれあう」開催：2回（亀山森林公園） ・森の学校屋内編「木材とふれあう」：市内4小学校、1保育園</p> <p>【事業量】 森の学校屋内編「木材とふれあう」市内4小学校及び1保育園にて木工工作（亀山市産材使用量：2.8㎡）、木育教室、森の学校屋外編「森とふれあう」にて自然素材活用した工作など。</p> <p>【事業実施期間】 平成30年4月2日～平成31年3月29日</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 参加者：416名</p>
3. 有効性	<p>【実施箇所の選定理由】 亀山市みえ森と緑の県民税市町交付金活用計画及び亀山森林公園利活用計画に基づき選定</p> <p>【実施した効果】 子どもから年配者まで幅広い世代層に森林の持つ機能、間伐材の有効利用や木材の良さをPRできた。森の学校屋内編に参加した児童たちを通じて家族などに事業の主旨が伝わった。</p> <p>【実施箇所の今後の管理体制】 市（やまびこ）による管理や学校・保育園での工作作品の管理。</p> <p>【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 この事業内容は、森林・林業の要素を集約化したものであり、森の講座、木育教室、森の学校（屋内編・屋外編）の各イベント等の実施にあわせて、募集時の案内や取組み内容の紹介、参加者の様子を新聞や市のHP・市広報などを使って照会したことで森林・林業を広くPRできた。</p> <p>【実施内容に対する住民等の反応】 講習の参加者からは、技術の習得ができ大変良かったとの声や、イベントの参加者からは、体験の内容、公園内の観察・散策ができよかったとの感想をいただいた。</p>

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	亀山市
------	-------------	-----	-----

番号	区分	事業名
4	基本	森と木材のふれあい事業
事業費	2,196,859 円(うち交付金	2,165,859 円 うち基金活用 31,000 円)

<p>4. 効率性</p> <p>【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 ・森の学校屋外編「森とふれあう」:委託 ・森の講座:委託 ・その他:直営(市)</p> <p>【実施方法の選定理由】 森林の整備に実績及び環境教育の経験がある業者を選定し委託。</p> <p>【契約方法と落札率または補助率等】 契約方法:随意契約(見積り) 落札率:90%</p> <p>【契約相手方の選定理由】 森林の整備に実績及び環境教育の経験がある業者と随意契約。随意契約にあたっては、複数者の見積りを徴収し予算の範囲内で実施。</p> <p>【事業費の積算根拠】 見積りを徴取したところ、予定価格以内であった。</p>
--

<p>5. 公益性（波及度）</p> <p>【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 森林の講座・木育教室・森の学校屋内外編の参加者数:416名 その他、森の学校屋内編参加児童の家族等にも波及効果が期待できる。</p> <p>【管理責任者（森林所有者）への対応】 個人が有する森林の整備ではないため、該当しない。</p> <p>【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 市有施設であるため、転用等が想定されず、該当しない。</p>

<p>6. 周知実績と今後の周知</p> <p>【実施前の実績】 受講者並びに参加者の募集について、市広報、市安心メール、チラシ掲示などにて周知</p> <p>【実施中の実績】 事業開催時には、必ずこの事業開催費用はみえ森と緑の県民税市町交付金事業を活用していると伝えている。また、県民税パンフレットの配布、県民税のぼり旗にて啓発。</p> <p>【実施後の実績】 事業内容が新聞記事や市広報紙に掲載、また、ケーブルテレビにて放送されたため、参加者以外にも周知、啓発ができた。</p> <p>【今後の見込】 木工作品に県民税PR用ロゴを焼印により県民税活用を周知。</p>

<p>7. 写真</p> <p>別紙のとおり</p>

<p>8. その他特記事項</p>

対策区分	3. 森を育む人づくり
------	-------------

市町名	亀山市
-----	-----

事業名	森と木材のふれあい事業
-----	-------------

7. 写真



写真1

森の講座:チェーンソーによる間伐体験



写真2

第3回サマーフォレストinやまびこ(8月11日開催)



写真3

親子木育教室(亀山市役所)

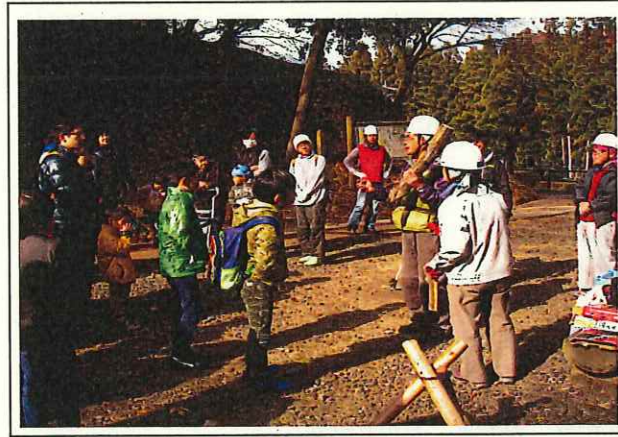


写真4

菌打ち体験(きのこの話)



写真5

木育教室(加太保育園)

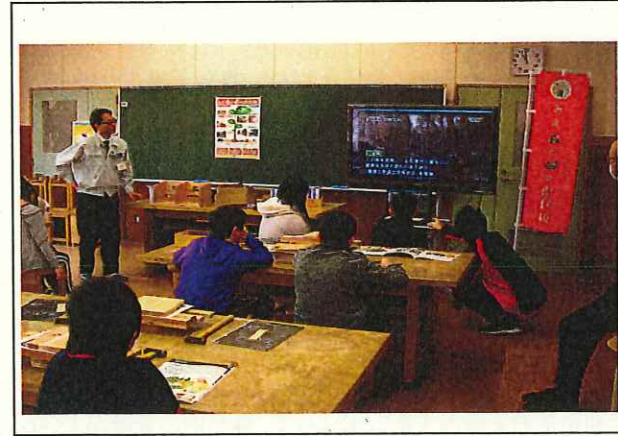


写真6

森の学校屋内編「木材とふれあう」関小学校

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	亀山市
------	--------------	-----	-----

番号	区分	事業名
5	基本	鈴鹿川等源流域再生事業(木質バイオマス利用促進事業)
事業費		341,701 円(うち交付金 341,701 円 うち基金活用 0 円)

1. 事業の目的
 鈴鹿川等源流域での荒廃した森林の間伐により、放置された林地材が下流への流出が懸念されるため、バイオマス利用を図ることで木材の有効利用を図るとともに、豪雨時の山林からの木材流出を防止する。

2. 事業実績概要

【事業内容】
 整備等から発生した林地残材の搬出・運搬に対する支援を行い、木質バイオマス資源の利用促進を図り、河川等に流出しない森林づくりを図る。

【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】
 林業事業体

【補助率等】
 間伐施業地からチップ工場まで定額(720円/m³)

【箇所数】
 1箇所(加太北在家)

【事業量】
 475m³

【事業実施期間】
 平成30年4月1日～平成31年3月29日

【受益者、参加者、利用者数等】
 亀山市民及び鈴鹿川流域住民

3. 有効性

【実施箇所の選定理由】
 林業事業体による林地残材箇所を選定。

【実施した効果】
 林地残材の有効利用を図ったことで、森林の適正な管理につながるとともに豪雨時の木材流出が防止できた。

【実施箇所の今後の管理体制】
 森林所有者による管理

【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】
 森林の持つ多面的機能が発揮される森林として維持する。

【実施内容に対する住民等の反応】
 未利用木材を搬出することによって、森林内の景観がよくなる、また、災害時の木材流出量が軽減されることによる暮らしの安心・安全の向上。

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	亀山市
------	--------------	-----	-----

番号	区分	事業名
5	基本	鈴鹿川等源流域再生事業(木質バイオマス利用促進事業)
事業費	341,701 円(うち交付金	341,701 円 うち基金活用 0 円)

4. 効率性	<p>【実施方法(委託(請負)、補助、その他)】 搬出経費に対する定額補助</p> <p>【実施方法の選定理由】 放置された林地残材の下流への流出防止を軽減するため。また、搬出した林地残材を木質バイオマス発電燃料として利用促進を図るため。</p> <p>【契約方法と落札率または補助率等】 定額助成(間伐施業地からチップ工場まで720円/m³)</p> <p>【契約相手方の選定理由】 事業の実施の権限を所有者から委任された者。</p> <p>【事業費の積算根拠】 間伐施業地からチップ工場まで定額(720円/m³)</p>
--------	--

5. 公益性(波及度)	<p>【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 亀山市民及び鈴鹿川流域住民</p> <p>【管理責任者(森林所有者)への対応】 森林所有者による管理。</p> <p>【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 なし</p>
-------------	---

6. 周知実績と今後の周知	<p>【実施前の実績】 亀山市森林管理協議会にて周知</p> <p>【実施中の実績】 ホームページで紹介</p> <p>【実施後の実績】 市ホームページにて実績を紹介。</p> <p>【今後の見込】 継続して市ホームページなどで周知する。</p>
---------------	---

7. 写真	別紙のとおり
-------	--------

8. その他特記事項	
------------	--

対策区分 4. 木の薫る空間づくり

市町名 亀山市

事業名 鈴鹿川等源流域再生事業(木質バイオマス利用促進事業)

7. 写真



写真1
搬出後

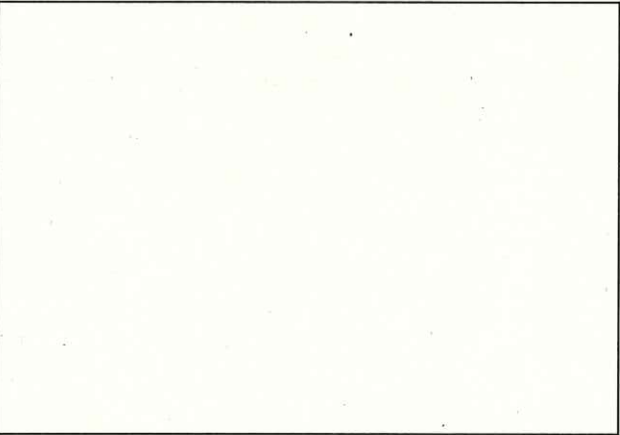


写真3

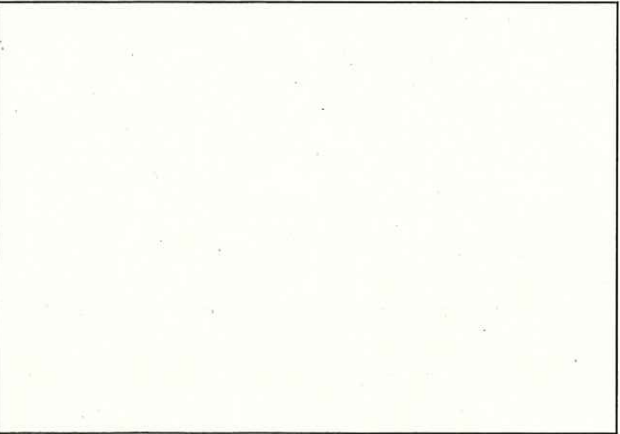


写真5



写真2
搬出後

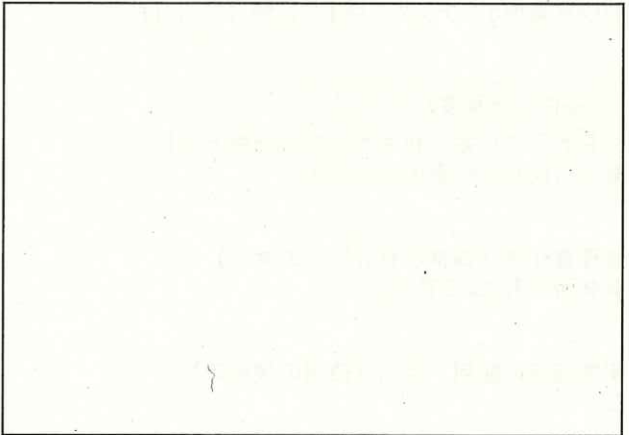


写真4

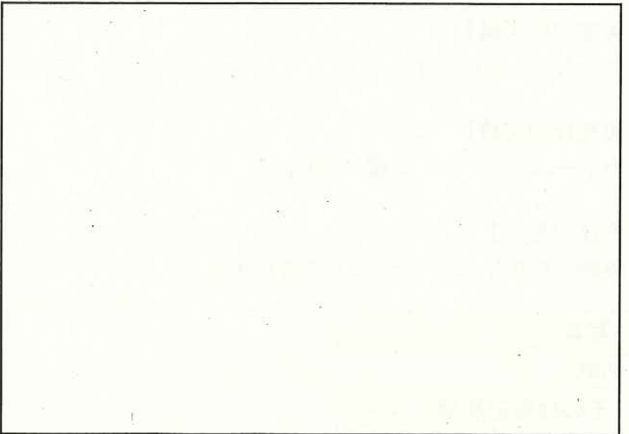


写真6

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	亀山市
------	--------------------	-----	-----

番号	区分	事業名
6	基本	緑あふれるまちづくり支援事業
事業費	168,000 円(うち交付金	168,000 円 うち基金活用 0 円)

1. 事業の目的

都市の緑は、市民に潤いと安らぎを与えてくれるとともに、身近で貴重な自然であり、美しいまちづくりを進める上で重要な役割を果たしている。このため、地域まちづくり協議会や市内の工場・事業所が行う緑の環境づくりを進める活動に対し支援する。

2. 事業実績概要

【事業内容】

地域まちづくり協議会や市内の工場・事業所が実施する緑化活動に要する費用に対して支援する。

【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】

地域まちづくり、協議会市内の工場・事業所など

【補助率等】

- ・補助率10/10 1協議会1回限り、30万円以内とする。
- ・工場立地法第6条第1項に定める工場・事業所(敷地面積9,000㎡又は建築面積3,000㎡以上)補助率10/10 1回限り、30万円以内とする。
- ・上記以外の敷地面積3,000㎡以上の工場・事業所補助率10/10 1回限り、20万円以内とする。

【箇所数】

1協議会

【事業量】

桜苗木:10本

【事業実施期間】

平成30年4月2日～平成31年3月29日

【受益者、参加者、利用者数等】

関宿まちづくり協議会(4地区):1,303世帯 2,850人、他公園利用者等

3. 有効性

【実施箇所の選定理由】

植樹活動を希望している協議会にて実施箇所を選定。

【実施した効果】

植樹の経験が緑を育てる楽しさや緑の大切さを実感することにつながる。

【実施箇所の今後の管理体制】

地域自らが維持管理していく。

【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】

交付金の活用を標柱にて周知するとともに日頃の管理をすることで緑の大切さを感じられる。

【実施内容に対する住民等の反応】

景観が良くなったのと木々の成長が楽しみとの声を聞いた。

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	亀山市
番号	区分	事業名	
6	基本	緑あふれるまちづくり支援事業	
事業費	168,000 円(うち交付金	168,000 円	うち基金活用 0 円)
4. 効率性			
【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 補助事業			
【実施方法の選定理由】 地域による苗木等の購入を支援し、地域で植樹をする経験が緑を育てる楽しさや緑の大切さを実感することにつながるため。			
【契約方法と落札率または補助率等】 ・補助率10/10 1協議会1回限り、30万円以内とする。 ・工場立地法第6条第1項に定める工場・事業所(敷地面積9,000㎡又は建築面積3,000㎡以上)補助率10/10 1回限り、30万円以内とする。 ・上記以外の敷地面積3,000㎡以上の工場・事業所補助率10/10 1回限り、20万円以内とする。			
【契約相手方の選定理由】 補助事業のため、該当しない。			
【事業費の積算根拠】 見積りによる積算			
5. 公益性（波及度）			
【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 平成31年3月1日現在の1協議会の世帯数及び人口(市民課資料による)			
【管理責任者（森林所有者）への対応】 個人が有する森林の整備ではないため、該当しない。			
【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 市管理地内での植樹のため、転用・規制等なし			
6. 周知実績と今後の周知			
【実施前の実績】 地域づくり協議会が、植樹の参加者募集時にみえ森と緑の県民税を活用していることを周知。			
【実施中の実績】 標柱を作製と参加者にチラシを配布			
【実施後の実績】 植樹後に標柱を設置と市ホームページ、協議会発行の「にぎわい関宿だより」に事業計画及び実績を掲載。			
【今後の見込】 標柱が設置されている限り、周知できる。			
7. 写真			
別紙のとおり			
8. その他特記事項			

対策区分 5. 地域の身近な水や緑の環境づくり

市町名 亀山市

事業名 緑あふれるまちづくり支援事業

7. 写真



写真1

関宿まちづくり協議会(植樹前)

写真2

関宿まちづくり協議会(整備後)

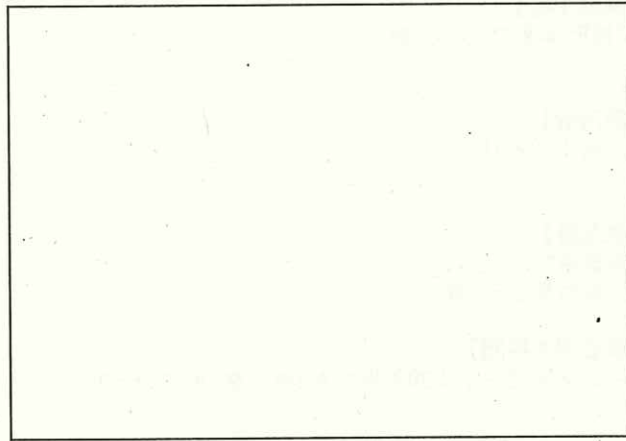


写真3

関宿まちづくり協議会

写真4

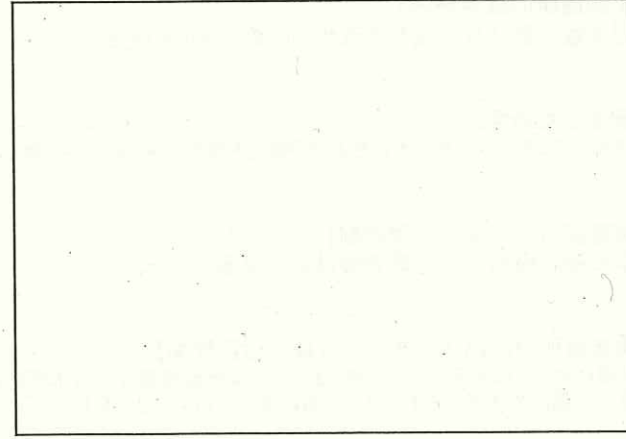
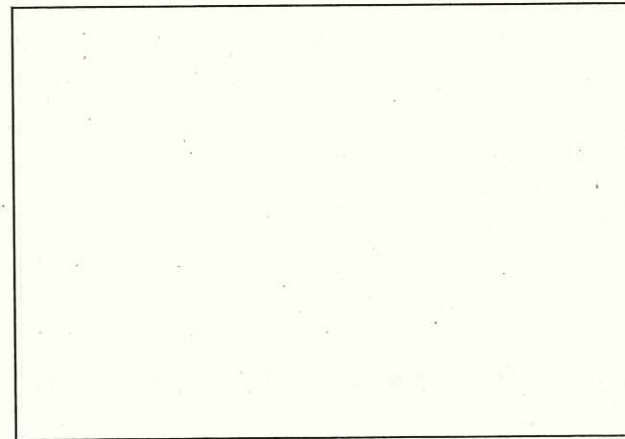
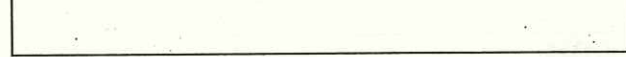


写真5

写真6

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	亀山市
------	-------------	-----	-----

番号	区分	事業名
7	特別	川崎小学校改築事業(木製備品導入)
事業費	18,083,520 円(うち交付金	7,086,000 円 うち基金活用 0 円)

1. 事業の目的
 川崎小学校は、近年、校区内児童数が増加傾向にあり、平成28年度以降には教室不足となります。また、既存校舎については、複雑な避難経路など児童の安全面にも問題を抱えています。
 これらを解消するため、本事業を実施しますが、校舎建築にあたっては「亀山市公共建築物等木材利用方針」及び「亀山市立川崎小学校改築基本計画」に掲げる「木材をふんだんに利用した校舎とする」という方針に基づき、校舎内の木質化と共に県産材の児童用机・椅子を導入し、児童が木材に触れあう機会を提供します。

2. 事業実績概要

【事業内容】
 【事業費】備品購入：18,084千円
 【事業予定期間】平成28年度～平成30年度(うち2期工事：平成29年度～平成30年度)
 【事業の規模】児童用机・椅子各560台

【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】
 【事業実施主体】亀山市

【補助率等】
 「補助事業ではなく、該当しない」

【箇所数】
 川崎小学校1校

【事業量】
 児童用机560台
 児童用椅子560脚

【事業実施期間】
 平成28年度～平成30年度(うち2期工事：平成29年度～平成30年度)

【受益者、参加者、利用者数等】
 【事業の受益者数】川崎小学校児童数：443人(H30.5.1現在)

3. 有効性

【実施箇所の選定理由】
 児童数の伸び及び校舎の現状から優先順位を決定した。

【実施した効果】
 将来を担う多くの児童に木に触れ合う機会を提供でき、木材への親しみを深める効果があった。

【実施箇所の今後の管理体制】
 学校施設備品として、教育委員会が管理していく。

【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】
 児童に対しては学年ごとの授業において、森林環境教育又は木育を実施する。また、学校を訪れる住民に対しては県民税を活用して校舎内木質化や備品の木質化を行っている旨の表示を行い、それを見てもらえるようにする。

【実施内容に対する住民等の反応】
 木質化したことにより、校舎内が落ち着いた雰囲気となり、好評を得ている。

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	亀山市
------	-------------	-----	-----

番号	区分	事業名
7	特別	川崎小学校改築事業(木製備品導入)
事業費	18,083,520 円(うち交付金	7,086,000 円 うち基金活用 0 円)

4. 効率性
<p>【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 市による備品購入契約</p> <p>【実施方法の選定理由】 市の規定に基づき、指名競争入札で業者選定を行った。</p> <p>【契約方法と落札率または補助率等】 契約方法:指名競争入札 落札率:94.9%</p> <p>【契約相手方の選定理由】 指名競争入札による落札業者</p> <p>【事業費の積算根拠】 見積合わせにより、市の設計額を積算した。</p>

5. 公益性（波及度）
<p>【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 【事業の受益者数】川崎小学校児童数:443人(H30.5.1現在)、校舎内を利用している市民団体等:4団体 数については、学校へ調査依頼</p> <p>【管理責任者（森林所有者）への対応】 個人が有する森林の整備ではないため、該当しない。</p> <p>【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 市有施設であるため、転用等が想定されず、該当しない。</p>

6. 周知実績と今後の周知
<p>【実施前の実績】 市のホームページに税事業を明示した。</p> <p>【実施中の実績】 工事現場の仮囲いに税事業を明示した。</p> <p>【実施後の実績】 完成後の校舎内に税事業を明示した。</p> <p>【今後の見込】 市のホームページ及び完成後の校舎内に税事業を明示する。</p>

7. 写真
別紙のとおり

8. その他特記事項

対策区分	3. 森を育む人づくり
------	-------------

市町名	亀山市
-----	-----

事業名	川崎小学校改築事業(木製備品導入)
-----	-------------------

7. 写真



写真1

少人数教室



写真2

普通教室



写真3

「みえ森と緑の県民税」を活用したことを示した机への表示



写真4

「みえ森と緑の県民税」を活用したことを示した椅子への表示

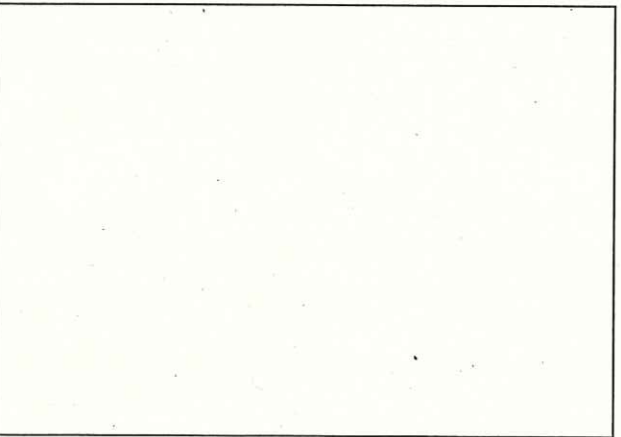


写真5

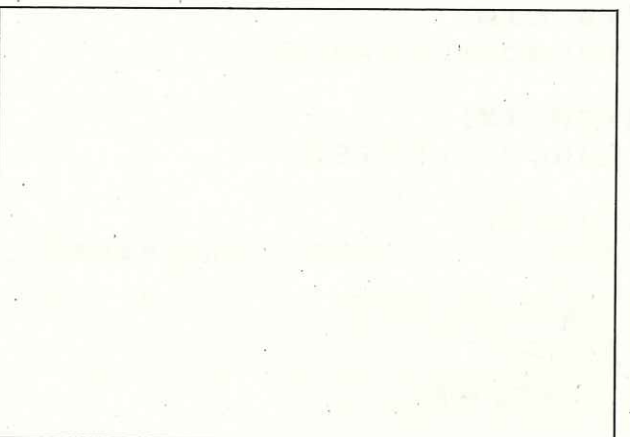


写真6

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	亀山市
番号	区分	事業名	
8	特別	川崎小学校改築事業	
事業費	865,348,920 円(うち交付金	8,773,000 円 うち基金活用	0 円)

1. 事業の目的	<p>川崎小学校は、近年、校区内児童数が増加傾向にあり、平成28年度以降には教室不足となります。また、既存校舎については、複雑な避難経路など児童の安全面にも問題を抱えています。</p> <p>これらを解消するため、本事業を実施しますが、校舎建築にあたっては「亀山市公共建築物等木材利用方針」及び「亀山市立川崎小学校改築基本計画」に掲げる「木材をふんだんに利用した校舎とする」という方針に基づき、校舎内の木質化を図ります。</p>
2. 事業実績概要	<p>【事業内容】 [事業費]2期工事:865,349千円 [事業予定期間]平成28年度～平成30年度(うち2期工事:平成29年度～平成30年度) [事業の規模]校舎内木質化:天井317㎡ほか</p> <p>【実施主体(補助事業は補助事業実施主体)】 [事業実施主体]亀山市</p> <p>【補助率等】 「補助事業ではなく、該当しない」</p> <p>【箇所数】 川崎小学校1校</p> <p>【事業量】 校舎内木質化:天井317㎡ほか</p> <p>【事業実施期間】 平成28年度～平成30年度(うち2期工事:平成29年度～平成30年度)</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 [事業の受益者数]川崎小学校児童数:443人(H30.5.1現在) 校舎内を利用している市民団体等:4団体</p>
3. 有効性	<p>【実施箇所の選定理由】 児童数の伸び及び校舎の現状から優先順位を決定した。</p> <p>【実施した効果】 校舎内を地域産材で木質化することにより、児童及び学校を訪れる住民が木と触れ合う機会を増やし、木の大切さや良さ等実感してもらえた。</p> <p>【実施箇所の今後の管理体制】 学校施設として、教育委員会が管理していく。</p> <p>【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 児童に対しては学年ごとの授業において、森林環境教育又は木育を実施する。また、学校を訪れる住民に対しては県民税を活用して校舎内木質化を行っている旨の表示を行い、それを見てもらえるようにする。</p> <p>【実施内容に対する住民等の反応】 木質化したことにより、校舎内が落ち着いた雰囲気となり、好評を得ている。</p>

対策区分	4. 木の薫る空間づくり		市町名	亀山市
番号	区分	事業名		
8	特別	川崎小学校改築事業		
事業費	865,348,920 円(うち交付金	8,773,000 円	うち基金活用	0 円)

4. 効率性	<p>【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 市による校舎建築工事請負契約</p> <p>【実施方法の選定理由】 校舎建築工事の中で整備する内装材であることから、工事請負契約に含めた。</p> <p>【契約方法と落札率または補助率等】 契約方法：一般競争入札 落札率：98%</p> <p>【契約相手方の選定理由】 一般競争入札による落札業者</p> <p>【事業費の積算根拠】 業務委託により、「公共建築工事積算基準」等を用いて設計・積算を行った。</p>
--------	---

5. 公益性（波及度）	<p>【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 〔事業の受益者数〕川崎小学校児童数：443人（H30.5.1現在）、校舎内を利用している市民団体等：4団体 数については、学校へ調査依頼</p> <p>【管理責任者（森林所有者）への対応】 個人が有する森林の整備ではないため、該当しない。</p> <p>【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 市有施設であるため、転用等が想定されず、該当しない。</p>
-------------	---

6. 周知実績と今後の周知	<p>【実施前の実績】 市のホームページに税事業を明示した。</p> <p>【実施中の実績】 工事現場の仮囲いに税事業を明示した。</p> <p>【実施後の実績】 市ホームページにより周知した。</p> <p>【今後の見込】 市のホームページ及び完成後の校舎内に税事業を明示する。</p>
---------------	--

7. 写真	別紙のとおり
-------	--------

8. その他特記事項	
------------	--

対策区分	4. 木の薫る空間づくり
------	--------------

市町名	亀山市
-----	-----

事業名	川崎小学校改築事業
-----	-----------

7. 写真



写真1
昇降口における税事業明示



写真2
内の広場(ルーバー)

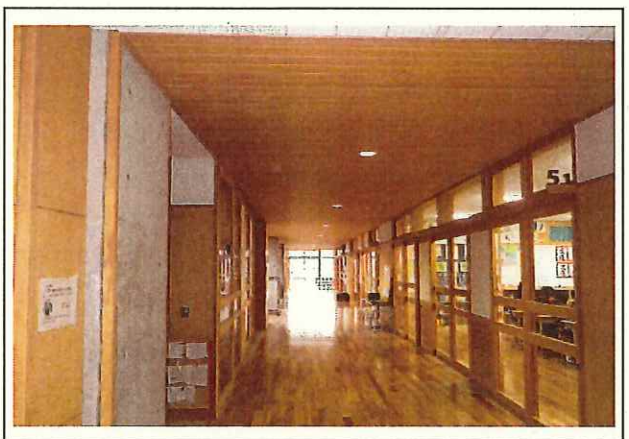


写真3
中棟廊下



写真4
廊下における税事業表示

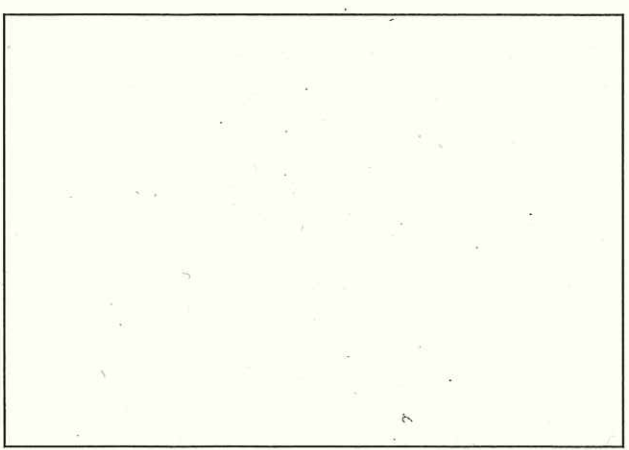


写真5

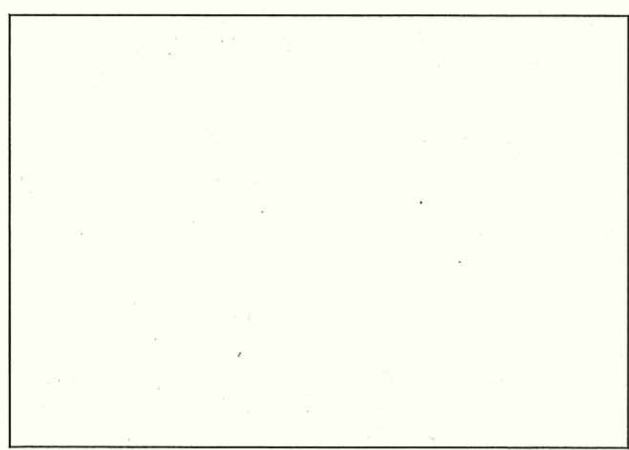
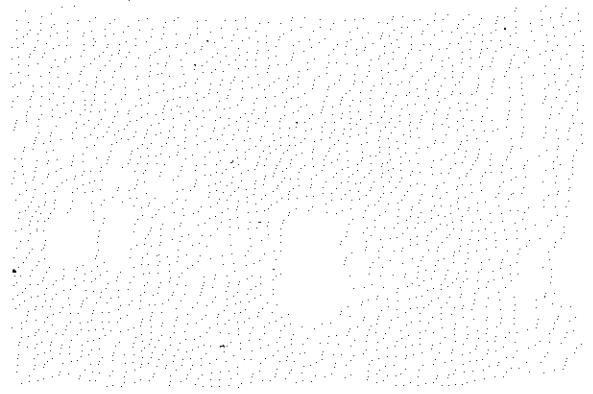
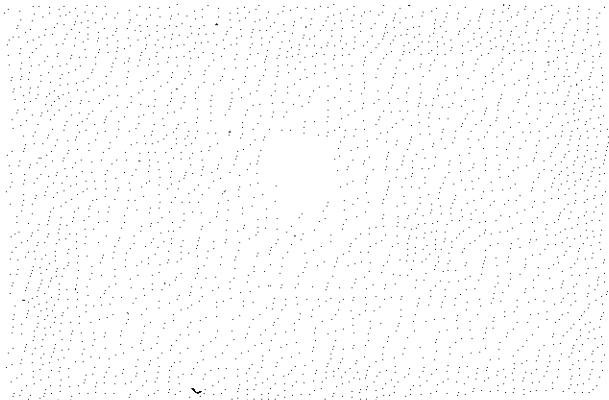
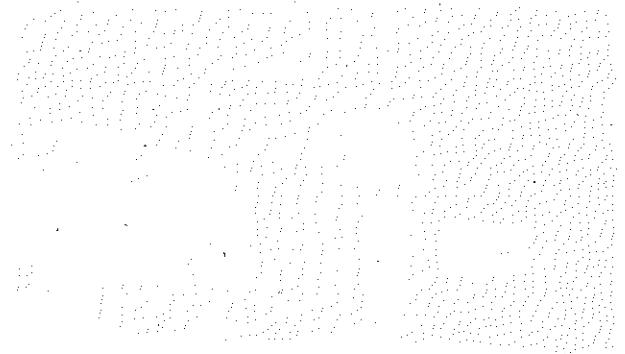
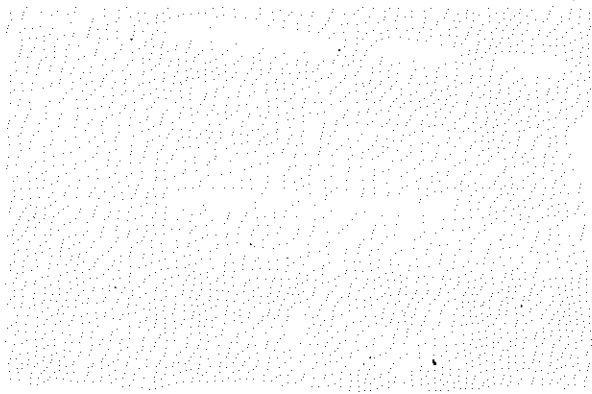


写真6



平成30年度 みえ森と緑の県民税市町交付金事業 実績一覧

市町名	いなべ市		
当年度交付金額	35,841,000	円 (ほか、市町基金活用)	31,822,385 円)
事業名	対策区分	交付金充当額	当年度交付金
1 中学校卒業記念品配布事業	3. 森を育む人づくり	864,000	864,000
2 いなべ市環境防災林整備事業	2. 暮らしに身近な森林づくり	1,407,780	1,407,780
3 いなべ市新庁舎建設(一部木質化)事業	4. 木の薫る空間づくり	65,391,605	33,569,220
		0	0
		0	0
		0	0
		0	0
		0	0
		0	0
	合計	67,663,385	35,841,000
			31,822,385

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	いなべ市
------	-------------	-----	------

番号	区分	事業名
1	基本	中学校卒業記念品配布事業
事業費	864,000 円(うち交付金	864,000 円 うち基金活用 0 円)

1. 事業の目的
 県民税の基本方針である『県民全体で森林を支える社会づくり』のなかの『森を育む人づくり』の一環として、いなべ市産材を利用して木製箸の製作配布を行う。
 中学校の卒業記念として、箸という肌で触れるもので『木の良さ』を子どもたちに知ってもらう機会とする。

2. 事業実績概要
【事業内容】
 原木調達・加工作業は、【地元林業事業体】に委託する。箸製作は【いなべ自然楽校】に委託する。箸入れ袋製作・製品梱包作業は、【いなべ市障害者活動支援センター】に委託する。
【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】
 いなべ市
【補助率等】
 補助事業ではなく、該当しない。
【箇所数】
 いなべ市内各中学校(北勢中学校、員弁中学校、大安中学校、藤原中学校:計4校)の卒業生を対象に配布。
【事業量】
 中学校卒業生を配布対象にした箸製作。(箸500膳・箸袋500袋を製作。)
【事業実施期間】
 平成30年7月～平成31年2月
【受益者、参加者、利用者数等】
 配布先は市内中学校卒業生 500名

3. 有効性
【実施箇所の選定理由】
 中学校を卒業し、昼食等弁当を持参する機会も増えると思われる。その中で使用が見込める箸を通じて、木の良さと木材(いなべ市産材)の利用意識を実感してもらう。
【実施した効果】
 箸に利用した木材は、地元林業事業体がいなべ市内の市有林で作業した間伐材(杉)であり、間伐材の有効利用に繋がる。
【実施箇所の今後の管理体制】
 施設等整備ではなく、該当しない。
【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】
 上記【実施箇所の今後の管理体制】に同じ。
【実施内容に対する住民等の反応】 ☆評価の分類「住民の反応」
 メッセージカードと共に記念品配布することで、木材について一考してもらう機会となった。

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	いなべ市
------	-------------	-----	------

番号	区分	事業名
1	基本	中学校卒業記念品配布事業
事業費		864,000 円(うち交付金 864,000 円 うち基金活用 0 円)

4. 効率性	
【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 随意契約。	
【実施方法の選定理由】 原木調達・素材加工については地元の林業事業体に、箸製作についてはいなべ市内の地域資源を活用した取り組みを行っている市民団体の【いなべ自然楽校】へ、箸袋製作については社会的貢献度を踏まえて障がい者施設に委託した。	
【契約方法と落札率または補助率等】 上記に同じ。	
【契約相手方の選定理由】 上記に同じ。	
【事業費の積算根拠】 原木調達・加工費297,000円(見積委託)/箸製作費270,000円(500膳×単価500円+消費税) 見積委託/箸袋制作費297,000円(500袋×単価550円+消費税) 見積委託 計事業費864,000円	
5. 公益性（波及度）	
【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 市内中学校卒業生 500名	
【管理責任者（森林所有者）への対応】 個人が所有する森林整備等ではなく、該当しない。	
【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 行事等開催であるため、転用が適用されず該当しない。	
6. 周知実績と今後の周知	
【実施前の実績】 委託業者に対し、県民税を活用した取組みを活用した取組みであることを伝えた。 HPに掲載。	
【実施中の実績】 配布する記念品に、県民税を活用した取組みであることのメッセージカードを添えた。	
【実施後の実績】 事業が行われていることをHPで周知。	
【今後の見込】 来年度以降も継続して行っていく見込み。	
7. 写真	
別紙のとおり	
8. その他特記事項	

対策区分 3. 森を育む人づくり

市町名 いなべ市

事業名 中学校卒業記念品配布事業

7. 写真



写真1
原木調達・加工検査



写真2
箸加工・製作検査



写真3
箸袋製作及び袋詰め作業検査

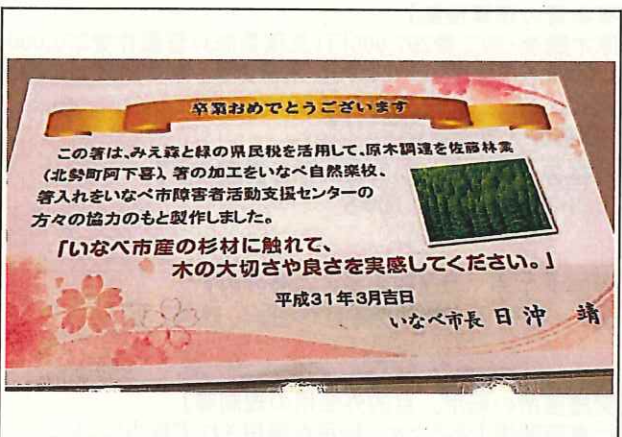


写真4
「みえ森と緑の県民税」を活用して、地元いなべ市の杉材で作られた箸であることを示したメッセージカード

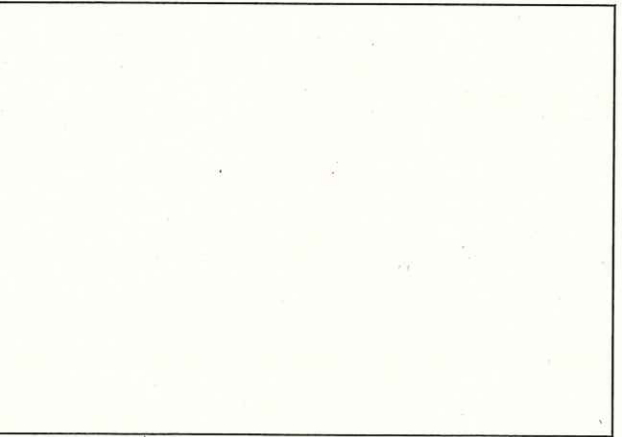


写真5
配布の様子

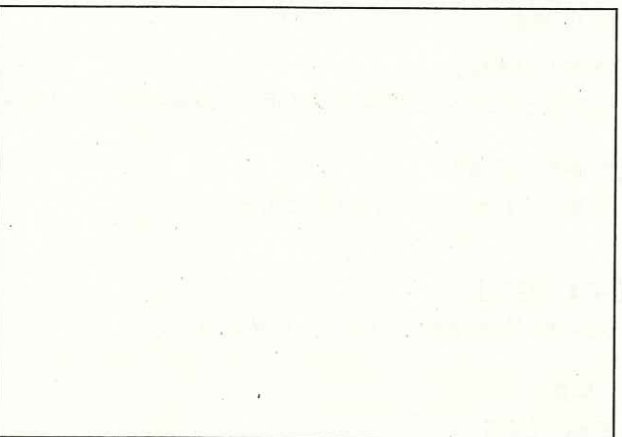


写真6

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり	市町名	いなべ市
------	----------------	-----	------

番号	区分	事業名
2	基本	いなべ市環境防災林整備事業
事業費	1,407,780 円(うち交付金)	1,407,780 円 うち基金活用 円)

1. 事業の目的
 市内生産森林組合の所有する山林は、組合員の高齢化に伴い山林作業がされておらず、放置森林となっている。また、近年集中豪雨や台風により、こうした放置森林のある人工林の山腹崩壊による土砂災害が懸念されている。これらを解消するため生産森林組合の所有する人工林を受光伐作業することにより広葉樹の更新を促し山地崩壊を防止する。

2. 事業実績概要
【事業内容】
 当該事業は山林所有者（東貝野生産森林組合）、作業者（認定林業事業体：佐藤林業）、いなべ市が森林に関する管理協定を締結し、いなべ市北勢町東貝野地区において人工林35haの間伐（受光伐）を行い、人工林と天然林の共生を図ることにより森林の保全を図る。
【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】
 いなべ市
【補助率等】
 補助事業ではなく、該当しない。
【箇所数】
 1か所（いなべ市北勢町東貝野地区）
【事業量】
 間伐（受光伐）4.74ha
【事業実施期間】
 平成30年11月～平成31年3月
【受益者、参加者、利用者数等】
 要間伐森林 35ha 受益個数 116戸

3. 有効性
【実施箇所の選定理由】
 当該地区の森林は生産森林組合員により植林を行っていたが組合員の高齢化にともない未保育のままである。また、整備すべき森林が林道より奥地に存在するため作業が困難である。植林されてからすでに40年以上経過した森林で、今回2回目の間伐作業である。
【実施した効果】
 杉、桧の人工林は間伐率40%以内の受光伐を行い、作業後は1ha当たり1,500本の成立本数となっている。山林内には十分な光が行き届きシダ類等の植生も見受けられ、広葉樹の天然更新を図る。
【実施箇所の今後の管理体制】
 環境林づくり協定に基づき、佐藤林業が令和6年まで管理する。
【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】
 上記【実施箇所の今後の管理体制】に同じ。
【実施内容に対する住民等の反応】
 協定に基づく森林管理により、東貝野の森林が良い状態となっており、安心できるとのこと。

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	いなべ市
------	-----------------	-----	------

番号	区分	事業名
2	基本	いなべ市環境防災林整備事業
事業費	1,407,780 円(うち交付金	1,407,780 円 うち基金活用 円)

4. 効率性	<p>【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 随意契約。</p> <p>【実施方法の選定理由】 作業委託業者は当該森林の管理協定者である。</p> <p>【契約方法と落札率または補助率等】 委託業者の見積額。 (見積額1,407,780円 内消費税104,280円)/(設計額1,427,760円 内消費税105,760円) 98.60%</p> <p>【契約相手方の選定理由】 上記に同じ。</p> <p>【事業費の積算根拠】 県単価による設計額範囲内で、委託業者による見積額で契約。</p>
--------	---

5. 公益性（波及度）	<p>【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 当該地区集落の戸数。</p> <p>【管理責任者（森林所有者）への対応】 個人が所有する森林整備等ではなく、該当しない。</p> <p>【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 森林管理協定に基づき、転用目的外使用については一定の制限をかけている。</p>
-------------	---

6. 周知実績と今後の周知	<p>【実施前の実績】 住民や自治会長に、みえ森と緑の県民税を活用して実施することを周知。HPに掲載。</p> <p>【実施中】 工事看板を設置することにより、県民税を活用していることを周知。</p> <p>【実施後】 事業完了時には、看板等を設置し周知。 事業が行われたことを市のHPで公表。</p> <p>【今後の見込】 今年度で事業は完了するため、今後は経過を観察する。</p>
---------------	--

7. 写真	別紙のとおり
-------	--------

8. その他特記事項	
------------	--

対策区分 2.暮らしに身近な森林づくり

市町名 いなべ市

事業名 いなべ市環境防災林整備事業

7. 写真



写真1

整備後の林内の様子



写真2

整備後の林内の様子



写真3

整備後の林内の様子

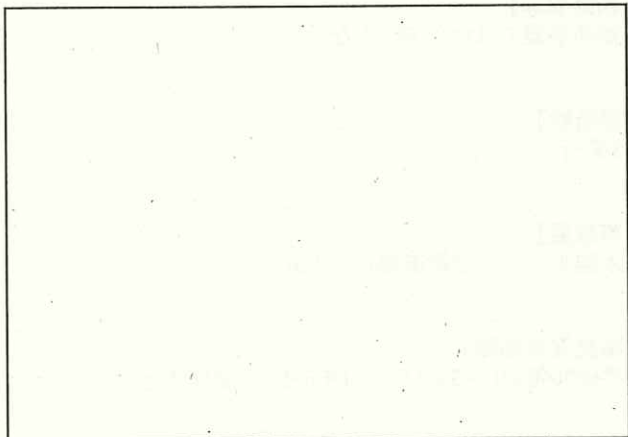


写真4

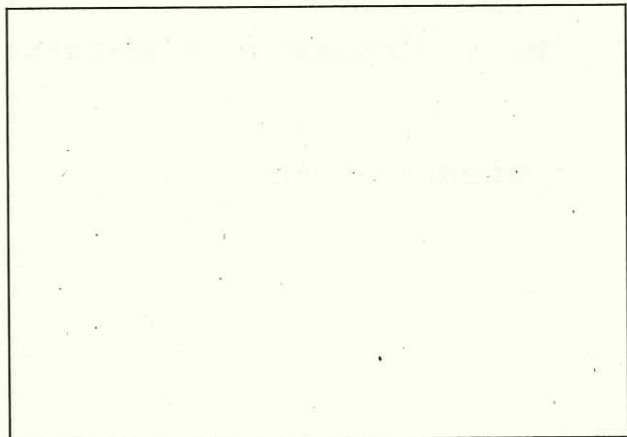


写真5

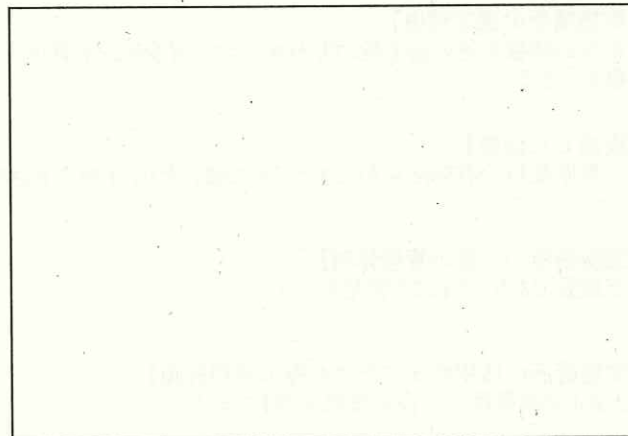
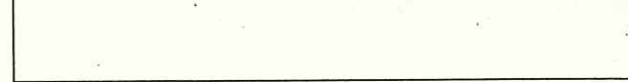


写真6



対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	いなべ市
------	--------------	-----	------

番号	区分	事業名
3	基本・特別	いなべ市新庁舎建設（一部木質化）事業
事業費	107,521,000 円(うち交付金	65,391,605 円 うち基金活用 31,822,385 円)

1. 事業の目的	いなべ市新庁舎整備基本方針にある、緑豊かで季節感豊かな田園、低層の家屋で構成されるいなべの景観にマッチするように、建物や駐車場、緑地の配置や形態、素材を取り入れる構想のなかで、『いなべ市公共建築等木材利用方針』に基づいた新庁舎建設に、県産材を使用した内外装の木質化を図ることにより「木の持つ暖かみや木の良さ」を広く一般市民や利用者に普及したい。
2. 事業実績概要	<p>【事業内容】 市民の皆様やその他多数の方に来庁いただく新庁舎の内外装に、県産材木製ルーバーを設置する。</p> <p>【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 いなべ市</p> <p>【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない。</p> <p>【箇所数】 1箇所</p> <p>【事業量】 木製ルーバー設置面積1723.2㎡</p> <p>【事業実施期間】 平成30年4月～9月（平成31年5月から開庁予定）</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 いなべ市民 45,721名（平成29年4月現在） いなべ市職員 377名（平成29年4月現在） 年間利用者数 約120,000名（総合窓口課集計）</p>
3. 有効性	<p>【実施箇所の選定理由】 市民の皆様やその他多数の方が来庁する市役所を木質化することで、木に触れたり、木材の良さを感じていただく機会を増やす事ができる。</p> <p>【実施した効果】 三重県産材の有効活用ができた。木に触れたり、木材の良さを感じていただく機会を設けることができた。</p> <p>【実施箇所の今後の管理体制】 市施設であり、市により管理する。</p> <p>【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 上記【実施箇所の今後の管理体制】に同じ。</p> <p>【実施内容に対する住民等の反応】 開庁前であるため不明である。</p>

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	いなべ市
------	--------------	-----	------

番号	区分	事業名	
3	基本・特別	いなべ市新庁舎建設(一部木質化)事業	
事業費	107,521,000 円(うち交付金	65,391,605 円 うち基金活用	31,822,385 円)

4. 効率性
<p>【実施方法(委託(請負)、補助、その他)】 一般競争入札による契約。</p> <p>【実施方法の選定理由】 いなべ市契約規則による。</p> <p>【契約方法と落札率または補助率等】 99,557,000/110,174,566 90.36%</p> <p>【契約相手方の選定理由】 上記に同じ。</p> <p>【事業費の積算根拠】 設計による。</p>

5. 公益性(波及度)
<p>【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 いなべ市民 45,721名(平成29年4月現在) いなべ市職員 377名(平成29年4月現在) 年間利用者数 約120,000名(総合窓口課集計)</p> <p>【管理責任者(森林所有者)への対応】 個人が所有する森林整備等ではなく、該当しない。</p> <p>【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 市役所の庁舎であり、該当しない。</p>

6. 周知実績と今後の周知
<p>【実施前の実績】 住民や自治会長に、みえ森と緑の県民税を活用して実施することを周知。HPに掲載。</p> <p>【実施中】 工事看板を設置することにより、県民税を活用していることを周知。</p> <p>【実施後】 事業完了時には、看板等を設置し周知。 事業が行われたことを市のHPで公表。</p> <p>【今後の見込】 設置した看板により周知する。</p>

7. 写真	別紙のとおり
8. その他特記事項	

対策区分	4. 木の薫る空間づくり
------	--------------

市町名	いなべ市
-----	------

事業名	いなべ市新庁舎建設(一部木質化)事業
-----	--------------------

7. 写真



写真1
設置箇所①



写真2
設置箇所①(拡大)



写真3
設置箇所②



写真4
設置箇所②(拡大)



写真5
設置した木製ルーバー

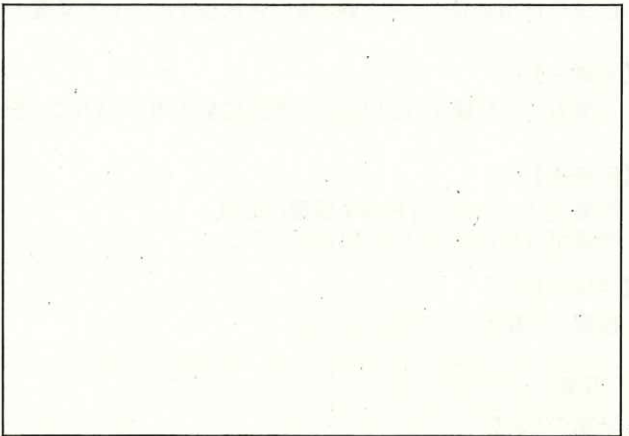


写真6

平成30年度 みえ森と緑の県民税市町交付金事業 実績一覧

市町名	木曾岬町
-----	------

当年度交付金額	3,261,000	円 (ほか、市町基金活用 0 円)	交付金充当額	当年度交付金	ほか、市町基金
事業名	対策区分				
1 児童福祉施設遊具整備事業	3. 森を育む人づくり		3,261,000	3,261,000	0
			0		0
			0		0
			0		0
			0		0
			0		0
			0		0
			0		0
			0		0
合計			3,261,000	3,261,000	0

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	木曾岬町
------	-------------	-----	------

番号	区分	事業名
1	基本・特別	児童福祉施設遊具等整備事業
事業費	3,294,000 円(うち交付金	3,261,000 円 うち基金活用 0 円)

1. 事業の目的	平成30年度に統合した木曾岬幼稚園・保育園の遊具を県産材で木質化することで、町内すべての児童が幼少期から木材のふれあう機会を作ることができるとともに、木材の活用が森林づくりにつながることへの理解を促す。
2. 事業実績概要	<p>【事業内容】 平成30年度に統合した木曾岬幼稚園・保育園の遊具の木質化を図る。</p> <p>【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 木曾岬町</p> <p>【補助率等】 補助事業ではなく該当しない。</p> <p>【箇所数】 木曾岬幼稚園・保育園遊具4箇所</p> <p>【事業量】 木曾岬幼稚園・保育園遊具4点</p> <p>【事業実施期間】 平成30年5月14日～平成31年2月28日</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 木曾岬幼稚園・保育園：入園者109人</p>
3. 有効性	<p>【実施箇所の選定理由】 平成30年度に統合した木曾岬幼稚園・保育園は、町内ほぼ全ての児童が通う場であり、幼少期から木材のふれあう機会を作ることができるため。</p> <p>【実施した効果】 平成30年度に統合した木曾岬幼稚園・保育園の遊具を県産材で木質化することで、町内のほぼ全ての児童が幼少期から木材のふれあう機会を作ることができるとともに、木材の活用が森林づくりにつながることへの理解を促すことができた。また、アンケートの結果においても遊具について好感触を得たことから、木質化についても好印象であったことがうかがえる。</p> <p>【実施箇所の今後の管理体制】 町有施設であり、町で維持管理する。 毎年、遊具点検を実施する予定である。</p> <p>【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 パンフレットや看板において、木質化に係る財源が「みえ森と緑の県民税」であることを周知する他、森林に関する展示を実施することにより森林環境教育を実施する。</p> <p>【実施内容に対する住民等の反応】 8割以上の保護者の方が、木製遊具の設置について森林や緑に親しむきっかけになったと回答されていることから、非常に高い評価を受けることができたと考ええる。</p>

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	木曾岬町
番号	区分	事業名	
1	基本・特別	児童福祉施設遊具等整備事業	
事業費	3,294,000 円(うち交付金	3,261,000 円	うち基金活用 0 円)
<p>【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 業者との請負契約とした。</p> <p>【実施方法の選定理由】 町有施設であり、町で発注・整備した。</p> <p>【契約方法と落札率または補助率等】 町の契約事務規則に基づき、指名競争入札とした。</p> <p>【契約相手方の選定理由】 町の契約事務規則に基づき、指名競争入札とした。総合評価方式による入札であることから、評価基準に基づき評価が一番高い者を選定した。</p> <p>【事業費の積算根拠】 業者より参考見積を徴収し、積算根拠とした。</p>			
5. 公益性（波及度）			
<p>【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 4月1日現在の入園決定者数より把握した。</p> <p>【管理責任者（森林所有者）への対応】 該当しない。</p> <p>【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 町有施設であり、転用等の恐れはない。</p>			
6. 周知実績と今後の周知			
<p>【実施前の実績】 町広報誌により、税を活用していることを周知した。また、施工前の保護者への周知チラシにおいても税を活用していることを周知した。</p> <p>【実施中の実績】 工事看板及び町広報誌により、税を活用していることを周知した。</p> <p>【実施後の実績】 施設や木曾岬町役場図書館前にて、木質化に係る財源が「みえ森と緑の県民税」であること及び三重の森林の働き・森林整備の大切さを紹介したパネル展示を常時実施するとともに、2度町広報誌において当該事業が「みえ森と緑の県民税」を利用していることを周知した。</p> <p>【今後の見込】 森林に関する展示を実施する。</p>			
7. 写真			
別紙のとおり			
8. その他特記事項			
木曾岬町として「木曾岬町公共建築物等木材利用方針」があり、本方針に基づき「森林を支える社会づくり」に引き続き取り組んでいく。			

対策区分	3. 森を育む人づくり
------	-------------

市町名	木曾岬町
-----	------

事業名	児童福祉施設遊具等整備事業
-----	---------------

7. 写真

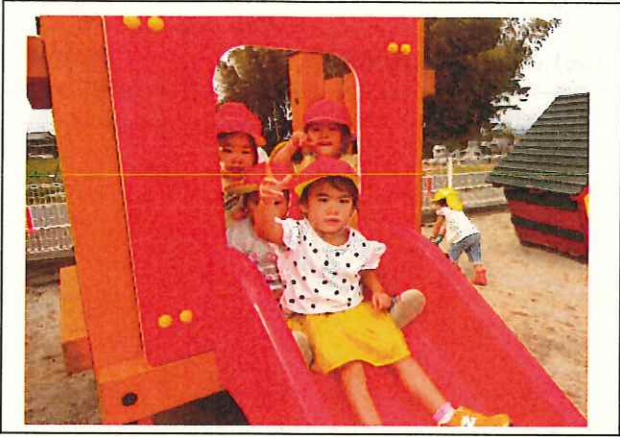


写真1
木製すべり台



写真2
木製ミニハウス

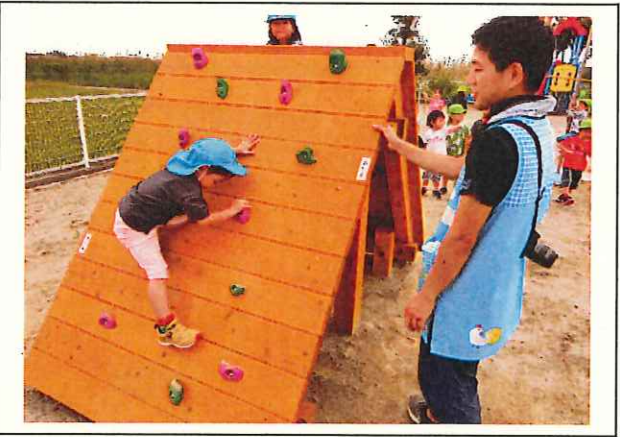


写真3
木製クライミング遊具



写真4
木製はんだ登棒

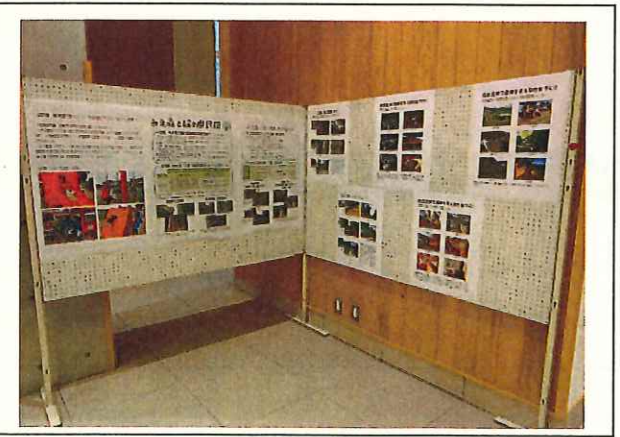


写真5
展示(図書館前)・・・当事業が「みえ森と緑の県民税」を活用した取り組みであることや森林の大切さをパネルにて展示



写真6
展示(施設)・・・当事業が「みえ森と緑の県民税」を活用した取り組みであることや森林の大切さをパネルにて展示

平成30年度 みえ森と緑の県民税市町交付金事業 実績一覧

市町名		東員町		
当年度交付金額	円	(ほか、市町基金活用)	円 (ほか、市町基金)	
	25,405,000		0	
事業名	対策区分	交付金充当額	当年度交付金	ほか、市町基金
1 みえ森と緑の県民税市町交付金事業 (危険木伐倒等事業)	2. 暮らしに身近な森林づくり	10,405,000	10,405,000	0
2 みえ森と緑の県民税市町交付金事業 (木製遊具等購入)	3. 森を育む人づくり	15,000,000	15,000,000	0
3		0		0
4		0		0
5		0		0
6		0		0
7		0		0
8		0		0
合計		25,405,000	25,405,000	0

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	東員町
------	-----------------	-----	-----

番号	区分	事業名
1	基本・特別	みえ森と緑の県民税市町交付金事業(危険木伐倒等業務)
事業費	10,413,360 円(うち交付金	10,405,000 円 うち基金活用 0 円)

1. 事業の目的	暮らしに身近な森林を整備することにより、生活環境の保全や向上を図る。
2. 事業実績概要	<p>【事業内容】 人家裏や通学路沿い、これまで整備が進みにくく荒廃が進んでいる緑地帯や森林地帯を対象として倒木になる恐れのある危険木の除去・間伐を行った。</p> <p>【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 東員町</p> <p>【補助率等】 補助事業ではなく該当しない</p> <p>【箇所数】 東員町笹尾西部、東部、南部 東員町中上地区を実施</p> <p>【事業量】 危険木伐倒 121本(枯松伐倒 39本、樹木伐倒 82本) 竹伐採 1,530㎡</p> <p>【事業実施期間】 平成30年5月18日～平成31年3月29日</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 整備により生活環境が向上する集合団地の戸数及び人数 230戸 800人 整備により生活環境が向上する道路利用者(車両数) 7,000台/日</p>
3. 有効性	<p>【実施箇所の選定理由】 住宅地周辺において平成26年度に実施した危険木の調査に基づき計画的に伐採等を行っている。 また、住民要望等により現地調査の結果、危険と判定した危険木も対象としている。</p> <p>【実施した効果】 森林環境の保全及び地域住民の意識の醸成が図られた。現地(民家裏等)での調査や作業の際、県民税や事業について詳細に説明する機会が多く、好意的な反応を示していただき、森林への関心を高めることができた。</p> <p>【実施箇所の今後の管理体制】 再び荒廃が進まないよう、森林所有者及び町により適切に管理する。</p> <p>【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 危険木の除去が行われたことにより近隣住民の安全が確保されたことから、今後も計画的に管理を行い、森林が地域住民にとって憩いとなるよう景観にも配慮していく。</p> <p>【実施内容に対する住民等の反応】 住民生活の安全性が向上し、森林環境が改善され好意的である。</p>

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	東員町
番号	区分	事業名	
1	基本・特別	みえ森と緑の県民税市町交付金事業(危険木伐倒等業務)	
事業費	10,413,360 円(うち交付金	10,405,000 円	うち基金活用 0 円)
4. 効率性			
【実施方法(委託(請負)、補助、その他)】 委託			
【実施方法の選定理由】 事業を円滑に実施するため。			
【契約方法と落札率または補助率等】 一般競争入札(一部設計額が小額のため、見積もり競争による随意契約) 平均落札率70.79%			
【契約相手方の選定理由】 一般競争入札(一部見積もり競争)の結果。			
【事業費の積算根拠】 3者見積により最低価格を採用した伐倒単価、剪定単価。なお、単価には伐倒、剪定の作業費と持ち出しにかかる運搬費、再資源化を含む処分費をすべて含む。			
5. 公益性(波及度)			
【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 整備により生活環境が向上する集合団地の戸数及び人数 230戸 800人 整備により生活環境が向上する道路利用者(車両数) 7,000台/日			
【管理責任者(森林所有者)への対応】 町有地については該当なし。 私有地については、地元自治会長を通じて承諾を得た。			
【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 町有地については、転用の計画はないため該当しない。 私有地については、転用や目的外使用しないこと、里山として今後も保全していくことを確認している。			
6. 周知実績と今後の周知			
【実施前の実績】 自治会長にみえ森と緑の県民税を活用して実施することを説明した。地域住民へは回覧や受益者への個別訪問を通じて同様の説明を行った。町民全体へはHPにて掲載し周知した。			
【実施中の実績】 工事看板に「みえ森と緑の県民税市町交付金を活用し事業を実施しています」と記載。			
【実施後の実績】 広報とHPに平成30年度の実績を掲載予定。			
【今後の見込】 今後も計画的に管理を行い、森林が地域住民にとって憩いとなるよう景観にも配慮し、住民の森林への理解を深めていく。			
7. 写真			
別紙のとおり			
8. その他特記事項			
無し			

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり
------	----------------

市町名	東員町
-----	-----

事業名	みえ森と緑の県民税市町交付金事業(危険木伐倒等業務)
-----	----------------------------

7. 写真



写真1
施工前



写真2
施工後



写真3
施工前



写真4
施工後



写真5
回覧による事前周知



写真6
工事看板設置状況

対策区分	3. 森を育む人づくり		市町名	東員町
番号	区分	事業名		
2	特別	みえ森と緑の県民税市町交付金事業(木製遊具等購入)		
事業費	15,009,840 円(うち交付金	15,000,000 円	うち基金活用	0 円)

1. 事業の目的	
子どもたちが日ごろから木にふれられる環境を整備し、子どもの頃から木に親しみ、森や緑を大切に思う気持ちを育てる。	
2. 事業実績概要	
<p>【事業内容】 町内保育園、幼稚園、小学校、中学校に木製遊具等を整備します。なお、小学校、中学校に木製備品を設置する際には、児童、生徒の全員が集まる集会等の場にて、森の大切さや県産木材製品設置の主旨について説明し、木に触れる機会を促し、木育の推進に寄与します。</p> <p>【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 東員町</p> <p>【補助率等】 補助事業ではなく該当しない</p> <p>【箇所数】 保育園・幼稚園(6園)、小学校(6校)、中学校(2校)</p> <p>【事業量】 保育園・幼稚園(6園)に木製遊具等の整備、小学校(6校)・中学校(2校)に木製ベンチを整備 大型すべり台 6式、ブロックトンネル 36個、つい立(標準) 6台、つい立(格子タイプ) 12台、ふた(ふみ台) 12個、箱枠 12個、平均台棒 12本、ベンチ 28脚</p> <p>【事業実施期間】 平成30年5月18日～平成31年3月22日</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 未就学児 792人、児童 1,433人、生徒 695人</p>	
3. 有効性	
<p>【実施箇所の選定理由】 町内の全保育園・幼稚園、小学校、中学校に木製備品を導入し、子ども達が木に触れ森林に関心を持つ機会の創出を行い、町の木育を推進するため。</p> <p>【実施した効果】 子ども達が木製遊具の木の温もりに親しみ、森や緑を大切に思う気持ちを育む機会となった。また、木製ベンチの導入について、児童や生徒に全校集会等の機会を利用し県民税の周知や森林の役割について触れ、森林への関心を高めることに寄与した。</p> <p>【実施箇所の今後の管理体制】 有効に活用されていることを確認の後、各施設へ所管替えを行い、通常の備品類と同様に管理する。</p> <p>【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 保育園、幼稚園では運動プログラムの一環で遊具を活用する等、多様な機会でも有効利用を図り、木の温もりに触れることを通じて木育や森林環境教育の機会とします。小学校、中学校では憩いの場として木製ベンチを活用し、森林環境教育を推進する教材としての役割も果たします。</p> <p>【実施内容に対する住民等の反応】 教育の現場においては大変好評であり、保護者からも概ね好意的な声をいただいている。子どもの頃に木の温もりに触れることが子どもの健やかな成長に寄与するものと理解され、合わせて森林への関心を高めることができた。</p>	

対策区分	3. 森を育む人づくり		市町名	東員町
番号	区分	事業名		
2	特別	みえ森と緑の県民税市町交付金事業(木製遊具等購入)		
事業費	15,009,840 円(うち交付金	15,000,000 円	うち基金活用	0 円)

4. 効率性	
【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 購入	
【実施方法の選定理由】 事業を円滑に実施するため。	
【契約方法と落札率または補助率等】 一般競争入札(一部設計額が小額のため、見積もり競争による随意契約) 平均落札率77.69%	
【契約相手方の選定理由】 一般競争入札(一部見積もり競争)の結果。	
【事業費の積算根拠】 カタログ等にて購入物品を選定した後、取り扱う販売店等に見積書を徴取し設計額とした。	
5. 公益性（波及度）	
【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 未就学児 792人、児童 1,433人、生徒 695人	
【管理責任者（森林所有者）への対応】 物品購入につき該当なし。	
【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 東員町財務規則	
6. 周知実績と今後の周知	
【実施前の実績】 HPや園だより等を活用し、遊具が導入される計画である旨を周知。	
【実施中の実績】 物品を購入する事業であり「実施中」に該当する期間がないため、実施前後に周知する。	
【実施後の実績】 保育園・幼稚園においては園便りにて保護者へ紹介した。小学校、中学校においては全校集会の場において、木製備品の紹介と県民税の説明を行い、森林の大切さを学ぶ機会を設けた。町民全体への周知はHP、広報にて周知を行った。	
【今後の見込】 有効に活用されていることを確認の後、各施設へ所管替えを行い通常の備品類と同様に管理し、県民税の広報を引き続き行うことで、県民税を活用し導入された備品である旨を継承し、木育を継続していく。	
7. 写真	
別紙のとおり	
8. その他特記事項	
無し	

対策区分	3. 森を育む人づくり
------	-------------

市町名	東員町
-----	-----

事業名	みえ森と緑の県民税市町交付金事業(木製遊具等購入)
-----	---------------------------

7. 写真



写真1
すべり台 1式
(利用状況)



写真2
ブロックトンネル
6個1組



写真3
アスレチック
あみだ山越え



写真4
ベンチの利用状況



写真5
遊具には焼印で「みえ森と緑の県民税」を活用して整備されたことを示した

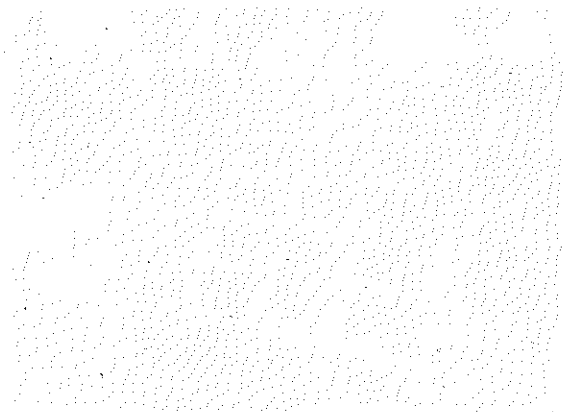
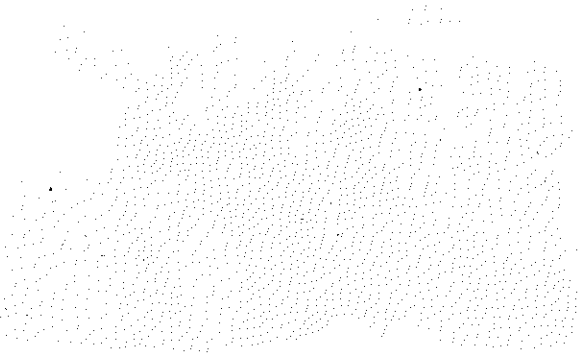
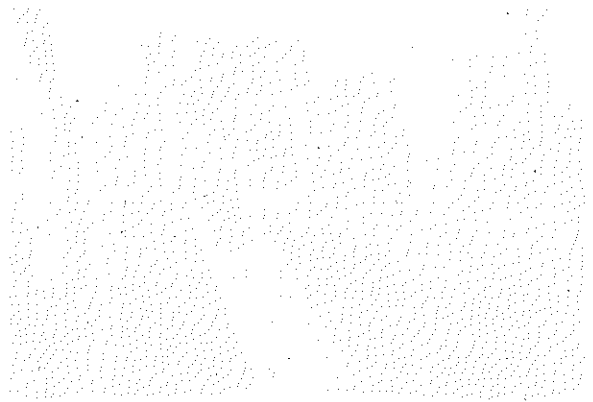
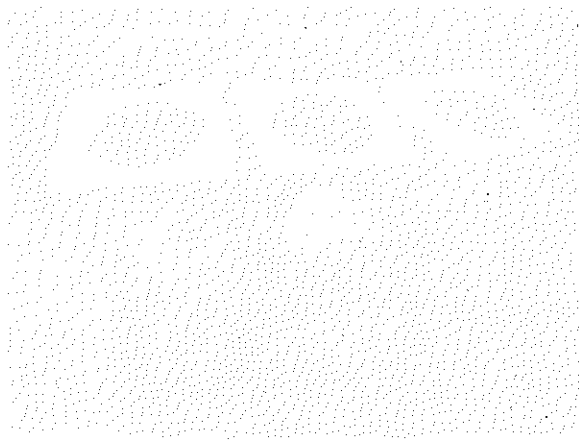
みえ森と緑の県民税市町交付金 を活用し、木製遊具が導入されました。滑り台、アスレチック、ゲームボックス、ボールプールなど導入されています。また、地域の子どもたちが安心して遊べるよう、安全対策として、遊具の点検・整備を行っています。

えんだより NO. 12
神日幼稚園・東員町
11月31日 4月28日(火)

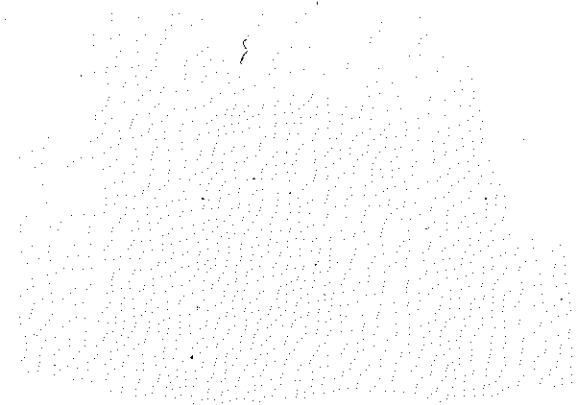
みえ森と緑の県民税市町交付金 を活用し、木製遊具が導入されました。滑り台、アスレチック、ゲームボックス、ボールプールなど導入されています。また、地域の子どもたちが安心して遊べるよう、安全対策として、遊具の点検・整備を行っています。



写真6
園だよりによる周知



Handwritten text, possibly a signature or name, written in a cursive style. The text is faint and difficult to decipher, but appears to be written in dark ink on a light background.



平成30年度 みえ森と緑の県民税市町交付金事業 実績一覧

市町名	菰野町			
当年度交付金額	27,008,000	円 (ほか、市町基金活用 0 円)		
事業名	対策区分	交付金充当額	当年度交付金	ほか、市町基金
1 千種地区コミュニティセンター整備事業	4. 木の薫る空間づくり	3,546,720	3,546,720	0
2 病害虫被害木伐採搬出事業	2. 暮らしに身近な森林づくり	681,000	681,000	0
3 菰野富士ふるさとの山環境整備事業	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	22,780,280	22,780,280	0
合計		27,008,000	27,008,000	0

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	菰野町
------	--------------	-----	-----

番号	区分	事業名
1	基本	千種地区コミュニティセンター整備事業
事業費	3,546,720 円(うち交付金	3,546,720 円 うち基金活用 0 円)

1. 事業の目的	健康で安心して暮らせる豊かな地域社会づくりを推進するため、地域コミュニティ、地域防災、地域福祉等の活動の拠点となる施設をこの地域の特徴である木の素材を活かした施設を整備する。
2. 事業実績概要	<p>【事業内容】 千種地区コミュニティセンター建設(延床面積:750.72㎡・敷地面積:4,940.63㎡・内装:木質)に係る県産材を使用した内装材の木質化及び木製家具(下足入れ)の設置を行う。</p> <p>【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 菰野町</p> <p>【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない。</p> <p>【箇所数】 1箇所、千種地区</p> <p>【事業量】 木質化167.1㎡、木製下足入れ2個</p> <p>【事業実施期間】 平成29年10月～平成30年5月</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 千種地区住民 6,000人</p>
3. 有効性	<p>【実施箇所の選定理由】 菰野町みえ森と緑の県民税補助金交付要綱による。</p> <p>【実施した効果】 千種地区コミュニティセンターにおいて木の薫る空間となり利用者の憩いの場、癒しの効果を得ることなども期待出来る。</p> <p>【実施箇所の今後の管理体制】 千種地区コミュニティセンターにおいて管理する。</p> <p>【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 地区民が木と触れ合い交流出来る場としての活用はもちろんのこと、木や自然に親しむ場として森林環境教育の一躍を担う主要な場所として、積極的に地域住民なども活用することができる。</p> <p>【実施内容に対する住民等の反応】 木材を使用した空間はぬくもりを感じ、とても落ち着く香りがすると職員及び利用者にも好評である。</p>

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	菰野町
------	--------------	-----	-----

番号	区分	事業名
1	基本	千種地区コミュニティセンター整備事業
事業費		3,546,720 円(うち交付金 3,546,720 円 うち基金活用 0 円)

4. 効率性
<p>【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 業務委託</p> <p>【実施方法の選定理由】 直営の施設のため</p> <p>【契約方法と落札率または補助率等】 一般競争入札 落札率90%</p> <p>【契約相手方の選定理由】 落札額が最低価格の業者であり、くじ引きにより確定。</p> <p>【事業費の積算根拠】 別紙積算資料の通り。</p>

5. 公益性（波及度）
<p>【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 千種地区の住民約6,000人</p> <p>【管理責任者（森林所有者）への対応】 個人が所有する森林等の整備ではなく該当しない。</p> <p>【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 町有施設の木質化及び木製製品の導入であるため、転用等が想定されず該当しない。</p>

6. 周知実績と今後の周知
<p>【実施前の実績】 地元説明会、会議などにおいて、地区区長会、公民館など社会教育関係、民生委員、児童委員、老人会、女性部などの利用者代表及び財産区へ県民税を活用している旨を周知した。</p> <p>【実施中の実績】 千種地区コミュニティセンター整備事業に県民税を活用している旨をのぼり旗を用いて周知した。</p> <p>【実施後の実績】 パンフレットを作り、利用者、区民へ通知している。</p> <p>【今後の見込】 行事などにおいて、活用する際にPRしていく。また、利用者にパンフレットを配布し、みえ森と緑の県民税を使った県産材木材を利用していることをPRする。</p>

7. 写真

8. その他特記事項
特になし

対策区分	4. 木の薫る空間づくり
------	--------------

市町名	菰野町
-----	-----

事業名	千種地区コミュニティセンター整備事業
-----	--------------------

7. 写真



写真1
千種コミュニティセンター外観

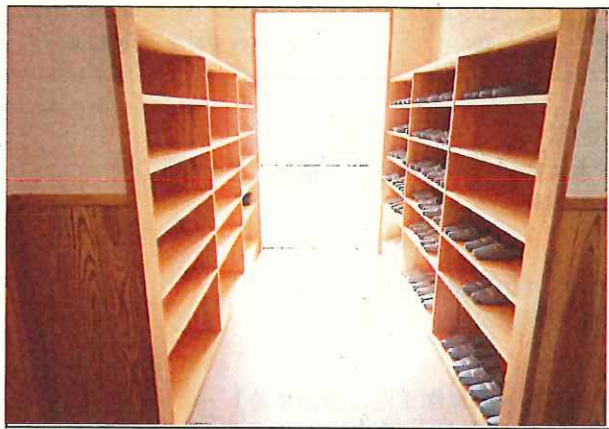


写真2
千種コミュニティセンター 下足入れ2個

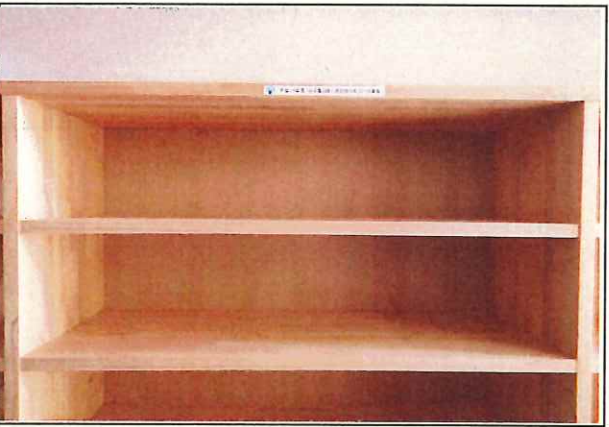


写真3
千種コミュニティセンター 下足入県民税PR



写真4
千種コミュニティセンター 腰壁県民税PR



写真5
会議室 腰板状況



写真6
廊下 腰板状況

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり	市町名	菰野町
番号	区分	事業名	
2	基本	病虫害被害木伐採搬出事業	
事業費	681,000 円(うち交付金	681,000 円	うち基金活用 0 円)

1. 事業の目的	菰野町内において、病虫害による倒木のおそれがある樹木の伐採等により、住民の生命や財産を守り病虫害被害の拡散を防止することを目的とする。
2. 事業実績概要	<p>【事業内容】 国道、県道及び町道沿道から20m以内の病虫害による松枯れやナラ枯れ被害木の伐採、搬出、処理に対して助成を行う。</p> <p>【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 森林を維持管理する団体及び所有者</p> <p>【補助率等】 50/100</p> <p>【箇所数】 4か所(財産区、財産組合、その他)</p> <p>【事業量】 病虫害被害木 22本</p> <p>【事業実施期間】 平成30年8月～平成31年3月</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 近隣住民約1,500世帯4,000人</p>
3. 有効性	<p>【実施箇所の選定理由】 菰野町みえ森と緑の県民税補助金交付要綱による。</p> <p>【実施した効果】 この事業で行った病虫害被害木の伐採・搬出・処理は、被害拡大の防止のためには必要不可欠であり、有効性の高い事業であったと考える。</p> <p>【実施箇所の今後の管理体制】 土地所有者において管理する。また、土地所有者には「ナラ枯れ被害対策マニュアル」を配布し管理に役立ててもらえるよう説明した。</p> <p>【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 実施個所に税をPRするのぼりを設置し、暮らしに身近な森林づくりの重要性を周知した。</p> <p>【実施内容に対する住民等の反応】 倒木の危険がなくなり町道通行車両及び人の安全が確保された、景観が良くなったとの意見があった。</p>

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり	市町名	菰野町
番号	区分	事業名	
2	基本	病虫害被害木伐採搬出事業	
事業費	681,000 円(うち交付金	681,000 円	うち基金活用 0 円)

4. 効率性	<p>【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 補助</p> <p>【実施方法の選定理由】 当該事業は、周囲の状況に精通している住民等が行うもので、行政では把握困難な場所にも対応できるため。</p> <p>【契約方法と落札率または補助率等】 50/100</p> <p>【契約相手方の選定理由】 同地区内にある業者等を選定</p> <p>【事業費の積算根拠】 見積書による</p>
5. 公益性（波及度）	<p>【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 近隣住民約1,500世帯4,000人</p> <p>【管理責任者（森林所有者）への対応】 森林所有者に適切な森林管理を引き続きお願いしている。</p> <p>【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 森林であり、転用の恐れはない。</p>
6. 周知実績と今後の周知	<p>【実施前の実績】 各申請者へ取組の財源が「みえ森と緑の県民税」であることを説明した。</p> <p>【実施中の実績】 病虫害被害木伐採搬出事業に県民税を活用している旨をのぼり旗を用いて周知した。</p> <p>【実施後の実績】 各申請者の代表から団体の構成員又は区民へ取組の財源が「みえ森と緑の県民税」であることを周知した。 ホームページによりみえ森と緑の県民税を活用して実施した事業として紹介した</p> <p>【今後の見込】 引き続き、HP等でPRしていく。</p>
7. 写真	別紙のとおり
8. その他特記事項	特になし

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり
------	-----------------

市町名	菰野町
-----	-----

事業名	病虫害被害木伐採搬出事業
-----	--------------

7. 写真



写真1
須磨山財産組合 被害木 伐採前



写真2
須磨山財産組合 被害木 伐採後



写真3
須磨山財産組合 被害木 伐採前



写真4
須磨山財産組合 被害木 伐採後



写真5
三重カンツリークラブ 被害木 伐採前



写真6
三重カンツリークラブ 被害木 伐採

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	菰野町
番号	区分	事業名	
3	基本・特別	菰野富士ふるさとの山環境整備事業	
事業費	28,825,200 円(うち交付金	22,780,280 円	うち基金活用 0 円)

1. 事業の目的	<p>身近でなじみのある菰野富士において、誰もが森林と緑に親しむことのできる環境整備を行い、自然体験や自然学習を通じて自然とのふれあいを深める。</p>
2. 事業実績概要	<p>【事業内容】 森林と緑の中を誰もが散策できるバリアフリー木道の遊歩道等を整備し、森林の中での癒し、健康づくりのための自然とのふれあいゾーンを創出する。</p> <p>【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 菰野町</p> <p>【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない</p> <p>【箇所数】 1箇所(菰野富士)、菰野地区</p> <p>【事業量】 バリアフリー遊歩道L=43m(歩道幅2m、手すり高さ1.1m)設置</p> <p>【事業実施期間】 平成30年4月～平成31年3月</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 菰野町民40,290人、町内の小学生2,000人、保護者2,000人</p>
3. 有効性	<p>【実施箇所の選定理由】 菰野町みえ森と緑の県民税補助金交付要綱による。</p> <p>【実施した効果】 広く住民や来訪者が森林や緑の中を散策し、森の働きを身近に感じることができる機会を増やすことにより、森林への親しみを深め、森林の中での健康づくり等に活用できる。</p> <p>【実施箇所の今後の管理体制】 菰野町において管理する。</p> <p>【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 町や各種団体が実施する森林ウォークなどの健康づくりや自然観察などの体験型プログラムを活用した利用に資することで森林環境教育に取り組む。</p> <p>【実施内容に対する住民等の反応】 今後引き続き工事を行う。見通しがよくなった。完成が楽しみとの意見があった。</p>

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	菰野町
------	--------------------	-----	-----

番号	区分	事業名
3	基本・特別	菰野富士ふるさとの山環境整備事業
事業費	28,825,200 円(うち交付金	22,780,280 円 うち基金活用 0 円)

4. 効率性	<p>【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 請負工事</p> <p>【実施方法の選定理由】 直営の施設のため</p> <p>【契約方法と落札率または補助率等】 一般競争入札 87.24%</p> <p>【契約相手方の選定理由】 落札額が最低価格の業者であり、くじ引きにより確定。</p> <p>【事業費の積算根拠】 設計積算による。</p>
5. 公益性（波及度）	<p>【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 菰野町の人口約4万人を対象とした。</p> <p>【管理責任者（森林所有者）への対応】 町が管理する森林であり該当しない。</p> <p>【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 転用の恐れはない。</p>
6. 周知実績と今後の周知	<p>【実施前の実績】 住民や自治会長にみえ森と緑の県民税を活用して実施することを説明した。</p> <p>【実施中の実績】 工事看板やのぼり旗により、みえ森と緑の県民税を活用していることを周知した。</p> <p>【実施後の実績】 ホームページにより、みえ森と緑の県民税を活用して実施した事業として紹介した。</p> <p>【今後の見込】 完成したら、イベント、HP等でPRする。</p>
7. 写真	別紙のとおり
8. その他特記事項	特になし

対策区分 5. 地域の身近な水や緑の環境づくり

市町名 菰野町

事業名 菰野富士ふるさとの山環境整備事業

7. 写真



写真1
木道バリアフリー遊歩道



写真2
木道バリアフリー遊歩道



写真3
木道バリアフリー遊歩道 木道部 幅2m



写真4
木道バリアフリー遊歩道



写真5
木道バリアフリー遊歩道 側面部

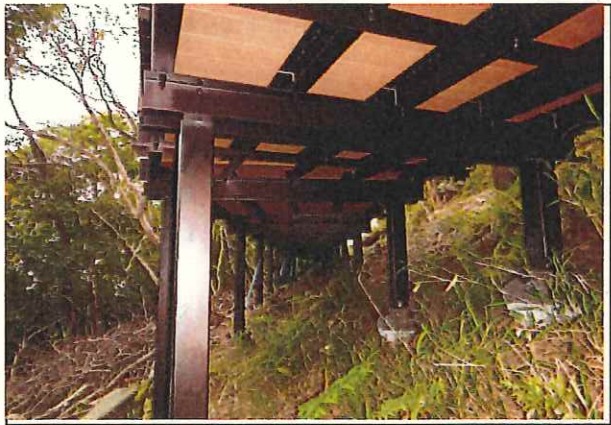


写真6
木道バリアフリー遊歩道 橋脚部

平成30年度 みえ森と緑の県民税市町交付金事業 実績一覧

市町名		朝日町	
当年度交付金額	円	(ほか、市町基金活用)	円)
	3,432,000		0
事業名		対策区分	交付金充当額
1	森と緑とふれあう環境づくり事業 (幼保一体化施設)	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	990,000
2	森と緑とふれあう環境づくり事業 (ふれあいパーク)	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	1,900,000
3	森と緑を大切に思う人づくり事業	3. 森を育む人づくり	102,000
4	木材利用促進事業	4. 木の薫る空間づくり	440,000
合計			3,432,000
			0

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	朝日町
------	--------------------	-----	-----

番号	区分	事業名
1	基本	森と緑とふれあう環境づくり事業(幼保一体化施設)
事業費	1,296,000 円(うち交付金	990,000 円 うち基金活用 円)

1. 事業の目的
 公共施設(幼保一体化施設 あさひ園)の園庭(運動場)を緑化することにより、環境において緑と人の環境を深める。

2. 事業実績概要

【事業内容】
 芝生の維持管理

【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】
 朝日町

【補助率等】
 補助事業ではなく、該当しない。

【箇所数】
 1箇所(あさひ園)

【事業量】
 芝生面積 1,286㎡

【事業実施期間】
 平成30年6月22日～平成31年3月31日

【受益者、参加者、利用者数等】
 園児約500名
 園児が家庭で芝生の心地よさを伝えることにより、保護者等への波及効果も期待できる。

3. 有効性

【実施箇所の選定理由】
 町の将来を担う園児たちに、緑に触れられる育成環境を提供し、自然環境を大切に思う心を育むため、園児たちが利用する公共施設を、平成26年度から同箇所を継続的に芝生化しております。

【実施した効果】
 裸足で芝生の上で遊ぶ園児もおり、芝生や緑の心地よさの実感につながる。また、園児たちの遊び方が幅広くなり、運動量の増加や健全な身体の発育が期待される。

【実施箇所の今後の管理体制】
 日々の管理は施設管理者が行う。

【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】
 芝の水やりに園児たちも参加してもらい、自分たちの植えた緑が育つ楽しさを感じる機会を設けた。

【実施内容に対する住民等の反応】
 裸足で遊ぶ園児も見受けられ、緑の心地よさが実感されている。

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	朝日町
------	--------------------	-----	-----

番号	区分	事業名
1	基本	森と緑とふれあう環境づくり事業(幼保一体化施設)
事業費	1,296,000 円(うち交付金	990,000 円 うち基金活用 円)

4. 効率性	<p>【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 町による工事請負契約</p> <p>【実施方法の選定理由】 町有施設の整備であることから、町が発注した。尚、芝の苗植えの一部には園児たちも参加した。</p> <p>【契約方法と落札率または補助率等】 芝生維持工事:随意契約(落札率94%)</p> <p>【契約相手方の選定理由】 町の規定(地方自治法施行令第167条の2第1項第1号、130万円以下)に基づき随意契約としており、随意契約にあたっては複数者の見積り合わせにより最低価格の者と契約した。</p> <p>【事業費の積算根拠】 参考見積書を徴収し積算した。</p>
--------	---

5. 公益性（波及度）	<p>【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 園庭利用者数約500人(園児数) 芝の水やり参加者約150人(5歳児及び先生)</p> <p>【管理責任者（森林所有者）への対応】 個人が所有する森林等の整備ではなく、該当しない。</p> <p>【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 町有施設であるため、転用等が想定されず、該当しない。</p>
-------------	---

6. 周知実績と今後の周知	<p>【実施前の実績】 保護者や先生などに、税を活用した事業であることを周知した。</p> <p>【実施中の実績】 工事看板に税を活用した事業であることを明記した。</p> <p>【実施後の実績】 あさひ園ホームページに記事を掲載した。</p> <p>【今後の見込】 次年度以降も看板により周知効果が継続する。</p>
---------------	---

7. 写真	別紙のとおり
-------	--------

8. その他特記事項	記事を掲載したあさひ園ホームページは別添のとおり。
------------	---------------------------

対策区分 5. 地域の身近な水や緑の環境づくり

市町名 朝日町

事業名 森と緑とふれあう環境づくり事業

7. 写真



写真1
工事中(みえ森と緑の県民税市町交付金活用PR)



写真2
緑に触れられる育成環境づくり授業



写真3
整備後の園庭



写真4
整備後の園庭

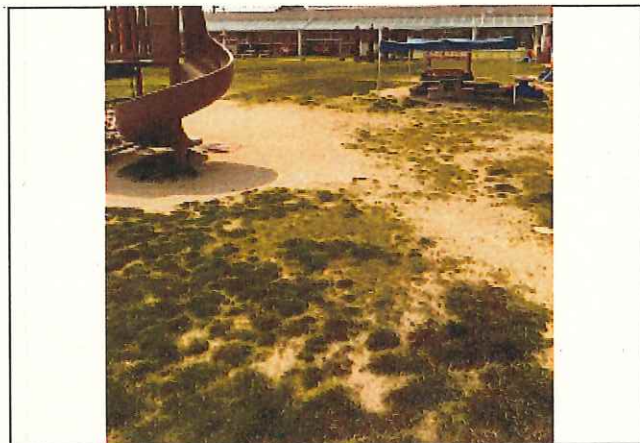


写真5
整備後の園庭

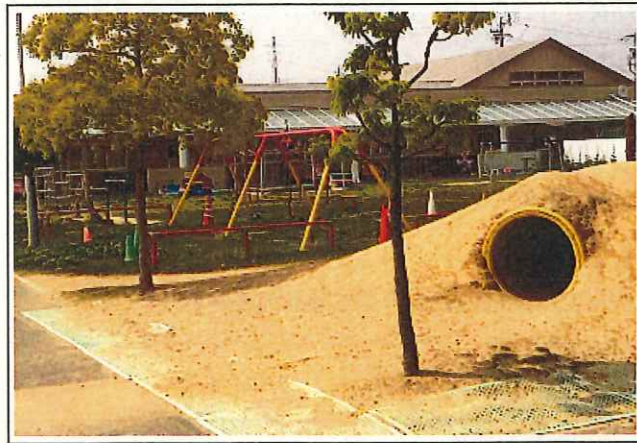


写真6
整備後の園庭

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	朝日町
------	--------------------	-----	-----

番号	区分	事業名
2	基本	森と緑とふれあう環境づくり事業(ふれあいパーク)
事業費	2,021,760 円(うち交付金	1,900,000 円 うち基金活用 円)

1. 事業の目的	朝日町大字柿地区の朝日町展望公園は、隣接する朝日町教育文化施設の来館者や丘陵地の住民などが、親子で直接花や花の苗を植えてその後成長を見られる花エリアと、植栽された樹木の中を散策する遊歩道や樹木の木陰で休憩できて芝生に触れられる森と緑エリアを一体的に整備する事業です。緑と親しむ環境を提供することで、身近な緑と県民との関係を深めます。
2. 事業実績概要	<p>【事業内容】 森と緑エリア等の整備(芝生化及び樹木植栽)</p> <p>【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 朝日町</p> <p>【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない。</p> <p>【箇所数】 1箇所(展望公園)</p> <p>【事業量】 芝生面積 280㎡、木製ベンチ 2基</p> <p>【事業実施期間】 平成30年4月20日～平成31年3月29日</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 年間来園者見込み延べ約3000名</p>
3. 有効性	<p>【実施箇所の選定理由】 来館者に、緑に触れられる育成環境を提供し、自然環境を大切に思う心を育むため、町民が最も利用する公共施設(教育文化施設)付近を芝生化しました。</p> <p>【実施した効果】 芝生や緑の心地よさの実感につながる。また、来館者(児童など)が築山を利用して遊ぶことで、運動量の増加や健全な身体の発育が期待される。</p> <p>【実施箇所の今後の管理体制】 日々の管理は施設管理者が行う。</p> <p>【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 芝の水やりに来館者たちにも参加してもらい、自分たちの植えた緑が育つ楽しさを感じる機会を設ける。</p> <p>【実施内容に対する住民等の反応】 裸足で遊ぶ来館者なども見受けられ、緑の心地よさが実感されている。</p>

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	朝日町
番号	区分	事業名	
2	基本	森と緑とふれあう環境づくり事業(ふれあいパーク)	
事業費	2,021,760 円(うち交付金	1,900,000 円	うち基金活用 円)

4. 効率性	<p>【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 町による工事請負契約</p> <p>【実施方法の選定理由】 町有施設の整備であることから、町が発注した。</p> <p>【契約方法と落札率または補助率等】 指名競争入札(落札率94%)</p> <p>【契約相手方の選定理由】 町の規定に基づき指名競争入札としており、契約にあたっては複数者の入札の結果、最低価格の者と契約した。</p> <p>【事業費の積算根拠】 公共積算</p>
5. 公益性（波及度）	<p>【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 来館者数約3000人</p> <p>【管理責任者（森林所有者）への対応】 個人と賃貸借契約を締結し、町で管理している。</p> <p>【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 町管理施設であるため、転用等が想定されず、該当しない。</p>
6. 周知実績と今後の周知	<p>【実施前の実績】 来館者などに税を活用した事業として紹介した。</p> <p>【実施中の実績】 工事看板に税を活用した事業であることを明記した。</p> <p>【実施後の実績】 ホームページに記事を掲載した。</p> <p>【今後の見込】 次年度以降も案内板により周知効果が継続する。</p>
7. 写真	別紙のとおり
8. その他特記事項	ホームページの記事については別紙のとおり

対策区分 5. 地域の身近な水や緑の環境づくり

市町名 朝日町

事業名 森と緑とふれあう環境づくり事業

7. 写真



写真1

ふれあいパーク改良工事(第3-2工区)張芝工

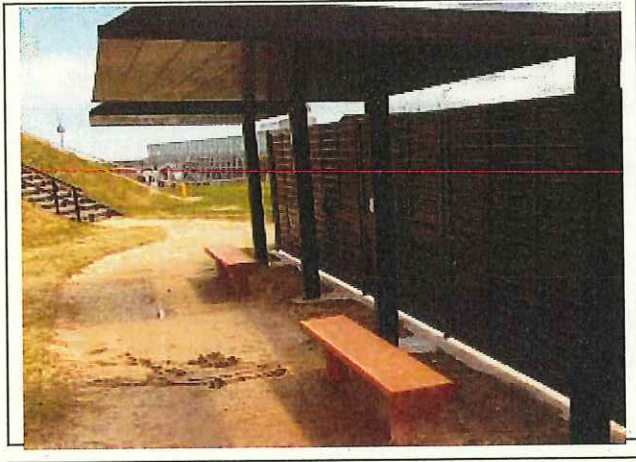


写真2

ふれあいパーク改良工事(第3-2工区)ベンチ工



写真3

三重県産木材案内板

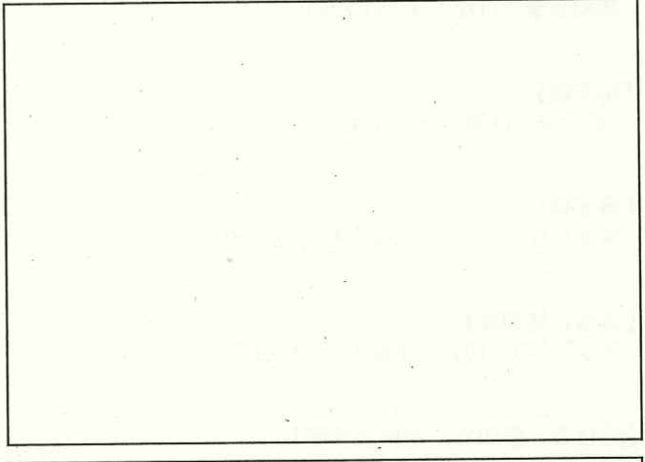


写真4

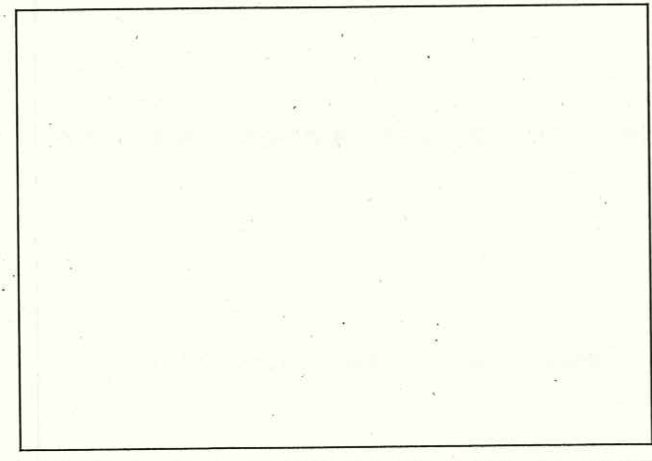


写真5

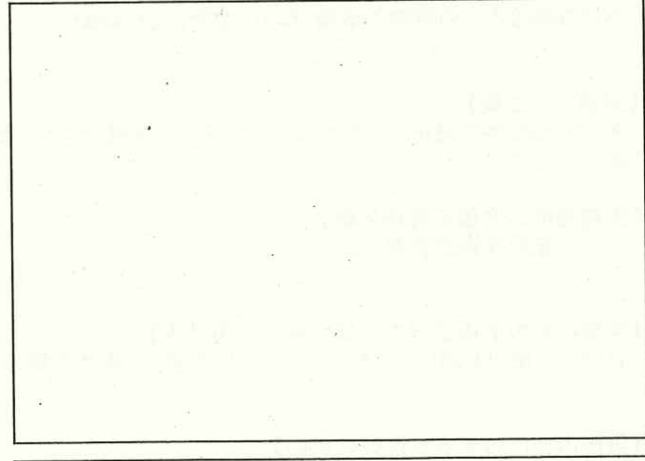


写真6

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	朝日町
------	-------------	-----	-----

番号	区分	事業名
3	基本	森と緑を大切に思う人づくり事業
事業費	155,520 円(うち交付金	102,000 円 うち基金活用 円)

1. 事業の目的	幼い頃から木製のおもちゃ等で遊ぶことで、木の肌触りや温もりを感じてもらい、森林や緑を大切に思う心を育んでもらう。
2. 事業実績概要	<p>【事業内容】 幼保一体化施設あさひ園に県産材を使用した木のおもちゃを配置する。イベント用に可搬型も作成する。</p> <p>【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 朝日町</p> <p>【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない。</p> <p>【箇所数】 2箇所(あさひ園、イベント用)</p> <p>【事業量】 県産材をつかった木のおもちゃ 2セット</p> <p>【事業実施期間】 平成30年5月10日～平成31年3月29日</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 園児約500名 児童等が家庭で木のおもちゃの体験談を話すことにより、児童等の家族にも波及効果がある。</p>
3. 有効性	<p>【実施箇所の選定理由】 平成26年度からの継続的事业であり、要望により実施した。</p> <p>【実施した効果】 木の持つ独特の温かさや香りなど、木の良さを実感できる学習環境の創造により、児童に安らぎや落ち着きを与え、快適な学習空間とした。</p> <p>【実施箇所の今後の管理体制】 日々の管理は施設管理者が行う。</p> <p>【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 日常的な使用を通して木材とのふれあいが進み、森林や緑の大切さ、地球温暖化問題等への理解を深めるきっかけとする。</p> <p>【実施内容に対する住民等の反応】 昨年度導入したおもちゃ等を使用している園児の保護者から、「木の手触りがいい。」などの声をいただいております、導入するだけでなく、物を大切にすることも伝えていくこととしている。</p>

対策区分	3. 森を育む人づくり		市町名	朝日町
番号	区分	事業名		
3	基本	森と緑を大切に思う人づくり事業		
事業費	155,520 円(うち交付金		102,000 円 うち基金活用 円)	
4. 効率性				
【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 施設管理者にて購入した。				
【実施方法の選定理由】 町有施設の備品購入であるため。				
【契約方法と落札率または補助率等】 随意契約				
【契約相手方の選定理由】 町の規定(地方自治法施行令第167条の2第1項第2号)に基づき随意契約としており、随意契約にあたっては特注品により1者見積りにより契約した。				
【事業費の積算根拠】 参考見積書を基に予定価格を設定し見積書を徴収した。				
5. 公益性（波及度）				
【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 園児約500名 児童等の家族にも波及効果がある。				
【管理責任者（森林所有者）への対応】 個人が所有する森林等の整備ではなく、該当しない。				
【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 町有施設であるため、転用等が想定されず、該当しない。				
6. 周知実績と今後の周知				
【実施前の実績】 保護者及び先生などに税を活用した事業であることを周知した。				
【実施中の実績】 —				
【実施後の実績】 おもちゃにロゴマークを入れた。				
【今後の見込】 次年度以降も広報誌等により周知効果を継続する。				
7. 写真				
別紙のとおり				
8. その他特記事項				

対策区分	3. 森を育む人づくり
------	-------------

市町名	朝日町
-----	-----

事業名	森と緑を大切に思う人づくり事業
-----	-----------------

7. 写真



写真1
三重県産材のおもちゃ(キッチン)



写真2
ロゴマーク入り

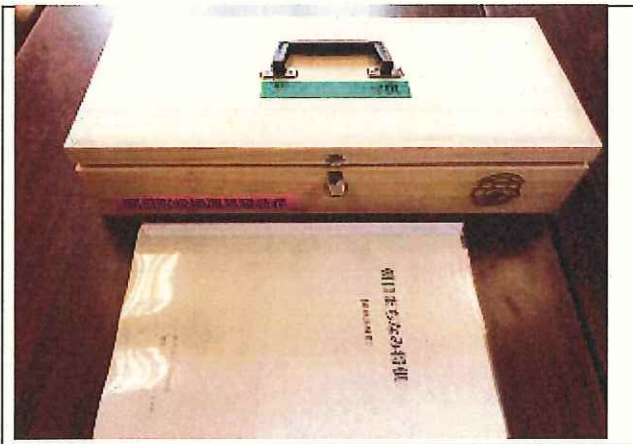


写真3
三重県産材のおもちゃ(まちなみ将棋)

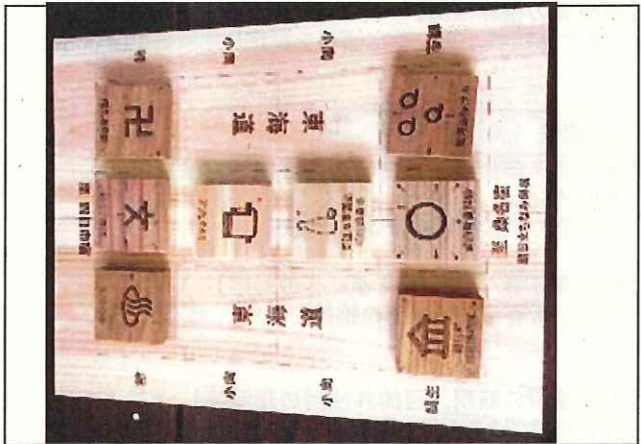


写真4
三重県産材のおもちゃ(まちなみ将棋)

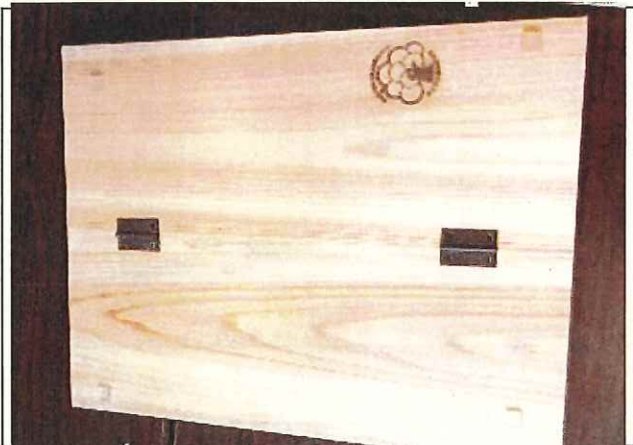


写真5
三重県産材のおもちゃ(まちなみ将棋)裏面ロゴマーク



写真6
三重県産材のおもちゃ(まちなみ将棋)

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	朝日町
------	--------------	-----	-----

番号	区分	事業名
4	基本	木材利用促進事業(資料館)
事業費	473,040 円(うち交付金	440,000 円 うち基金活用 円)

1. 事業の目的	登録有形文化財朝日町資料館(旧朝日町役場)の館内に県産材を活用した棚を設置することにより木材と日常的に親しむ空間を作り木の肌触りや温もりを感じてもらい、木材と人との関係を深める。
2. 事業実績概要	<p>【事業内容】 朝日町資料館(収納スペース)に県産材を使用した展示台等を設置する。</p> <p>【実施主体(補助事業は補助事業実施主体)】 朝日町</p> <p>【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない。</p> <p>【箇所数】 1箇所(資料館)</p> <p>【事業量】 木製ロビーベンチ一台、展示ケース一台</p> <p>【事業実施期間】 平成30年8月17日～平成31年3月29日</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 資料館年間利用者数(見込み)延べ約1,600名</p>
3. 有効性	<p>【実施箇所の選定理由】 多くの町民が鑑賞する場所に展示台を配備することで、木づかいが森林を支えることのPR効果が高いため。</p> <p>【実施した効果】 県産材を利用した木製棚を配備することで多くの町民が木材利用の意義に気づききっかけとなる。</p> <p>【実施箇所の今後の管理体制】 町有施設であり、町で維持管理する。</p> <p>【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 木材利用の意義や森林の大切さを町民に啓発するため、資料館入り口を利用した森林関係図書等の閲覧コーナーを設置した。</p> <p>【実施内容に対する住民等の反応】 森林関係図書等の閲覧コーナーを実施した際に意見を伺うなど実施後の反応把握に努める。</p>

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	朝日町
------	--------------	-----	-----

番号	区分	事業名
4	基本	木材利用促進事業(資料館)
事業費	473,040 円(うち交付金	440,000 円 うち基金活用 円)

4. 効率性
<p>【実施方法(委託(請負)、補助、その他)】 町による業務請負契約</p> <p>【実施方法の選定理由】 町有施設の整備であることから、町が発注した。</p> <p>【契約方法と落札率または補助率等】 指名競争入札(落札率100%)</p> <p>【契約相手方の選定理由】 町の規定に基づき指名競争入札としており、契約にあたっては複数者の入札の結果、最低価格の者と契約した。</p> <p>【事業費の積算根拠】 参考見積書を基に予定価格を設定した。</p>

5. 公益性(波及度)
<p>【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 資料館の年間利用者数を受付簿から推定し、延べ約1,600人と見込んでいる。</p> <p>【管理責任者(森林所有者)への対応】 個人が所有する森林等の整備ではなく、該当しない。</p> <p>【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 町有施設であるため、転用等が想定されず、該当しない。</p>

6. 周知実績と今後の周知
<p>【実施前の実績】 資料館利用者に、税を活用した事業であることを周知した。</p> <p>【実施中の実績】 看板やのぼり旗により、税を活用していることを周知した。</p> <p>【実施後の実績】 閲覧コーナーを設置し、税事業活用を周知させた。</p> <p>【今後の見込】 閲覧コーナーで、税事業活用の周知を図る。</p>

7. 写真
別紙のとおり

8. その他特記事項

対策区分	4. 木の薫る空間づくり
------	--------------

市町名	朝日町
-----	-----

事業名	木材利用促進事業
-----	----------

7. 写真



写真1
三重県産材の展示ケース



写真2
ロゴマーク入り

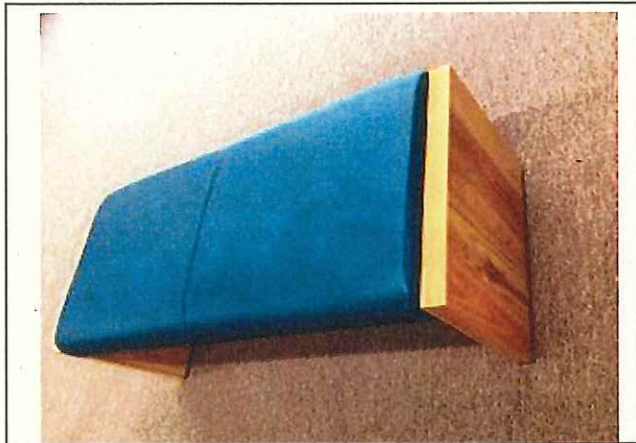


写真3
三重県産材の椅子



写真4
ロゴマーク入り



写真5
みえ森と緑県民税PR紙設置状況(入り口付近)

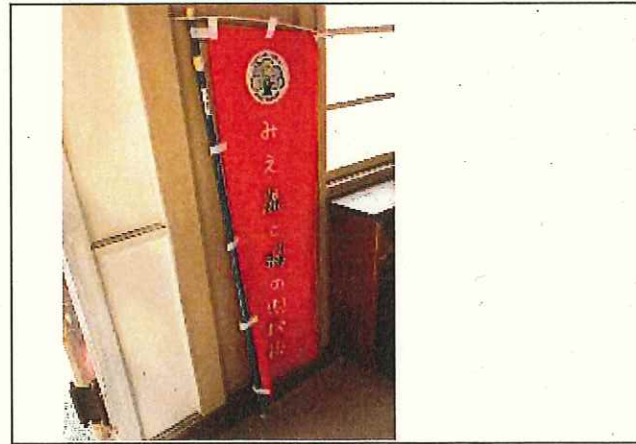


写真6
みえ森と緑県民税のぼり設置状況(入り口付近)

Handwritten text, possibly a list or notes, with some illegible entries.

Handwritten text, possibly a list or notes, with some illegible entries.

Handwritten text, possibly a list or notes, with some illegible entries.

Handwritten text, possibly a list or notes, with some illegible entries.

Handwritten text, possibly a list or notes, with some illegible entries.

Handwritten text, possibly a list or notes, with some illegible entries.

平成30年度 みえ森と緑の県民税市町交付金事業 実績一覧

市町名	川越町
-----	-----

当年度交付金額	3,999,000	円 (ほか、市町基金活用	0	円)
---------	-----------	--------------	---	----

	事業名	対策区分	交付金充当額	当年度交付金	ほか、市町基金
1	川越町総合体育館2階ロビー木材利用促進事業	4. 木の薫る空間づくり	1,706,000	1,706,000	0
2	川越町ふれあい広場木質化事業	4. 木の薫る空間づくり	893,000	893,000	0
3	川越町中部保育所園庭芝生化事業	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	1,400,000	1,400,000	0
	合計		3,999,000	3,999,000	0

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	川越町
------	--------------	-----	-----

番号	区分	事業名
1	基本	川越町総合体育館2階ロビー木材利用促進事業
事業費	1,706,400 円(うち交付金	1,706,000 円 うち基金活用 円)

1. 事業の目的	<p>体育施設を利用する利用者に対し運動で疲れた体を休め、木製品に触れ香りでリラックスできる空間をつくり施設利用者の健康増進を促進することを目的とする。</p>
2. 事業実績概要	<p>【事業内容】 川越町公共建築物等木材利用方針に基づき、三重県産材の木材利用促進を図り備品等の購入整備する。</p> <p>【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 川越町</p> <p>【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない。</p> <p>【箇所数】 1箇所(川越町総合体育館)</p> <p>【事業量】 木製ロビーチェア3人掛け(6台)、木製ロビーチェア用サイドテーブル(5台)、木製ロビーベンチ背無しW180(2台)、木製ロビーベンチ背無しW130(2台)</p> <p>【事業実施期間】 平成30年7月2日～平成31年1月4日</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 施設利用者 11,158人/年間(個人:8,671人、団体:2,487人)(平成29年度実績)</p>
3. 有効性	<p>【実施箇所の選定理由】 施設の利用者が運動で疲れた体を休め、木製品に触れ香りでリラックスできる空間をつくり、健康増進を促進することを目的で平成29年度から継続で実施しており、本年度が2年目となる。</p> <p>【実施した効果】 運動、スポーツ後、樹木の成分による香り、肌触り等爽やか(さわやか)な休憩空間を設けることで、疲れた体の癒し効果を感じ、また、イスやテーブルなどに触れ暖かな空間を感じてもらったことで、木材利用の意義を知る機会が増えた。</p> <p>【実施箇所の今後の管理体制】 実施箇所は町が所有する施設であり、今後も引き続き町が管理します。</p> <p>【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 実施箇所にロゴマークを入れ税を活用した事業である事を周知します。</p> <p>【実施内容に対する住民等の反応】 運動、スポーツ後、木の香り、製品に触れ、疲れた体の癒し効果を感じ、暖かな空間を感じて、木材利用を知る機会が増えた。</p>

対策区分	4. 木の薫る空間づくり		市町名	川越町
番号	区分	事業名		
1	基本	川越町総合体育館2階ロビー木材利用促進事業		
事業費	1,706,400 円(うち交付金		1,706,000 円 うち基金活用 円)	
4. 効率性				
【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 町による備品購入				
【実施方法の選定理由】 町が管理する施設であるため、町が発注しました。				
【契約方法と落札率または補助率等】 指名競争入札（落札率83.16%）、契約書(物品、その他用)の締結				
【契約相手方の選定理由】 川越町入札参加資格者名簿に登録があり、かつ業者区分の取扱種目が家具に属している業者の中から、過去に当町が発注した同種の業務において入札参加実績がある業者を指名した。				
【事業費の積算根拠】 複数社より見積もりを徴収し、設計金額・予定価格を決定した。				
5. 公益性（波及度）				
【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 施設利用者 11,158人/年間(個人:8,671人、団体:2,487人)(平成29年度実績)				
【管理責任者（森林所有者）への対応】 個人が所有する森林等の整備ではなく、該当しない。				
【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 公共施設であるため、転用等が想定されず、該当しない。				
6. 周知実績と今後の周知				
【実施前の実績】 掲示板等で体育館の利用者に対し事業の周知を行う。				
【実施中の実績】 備品購入であるが、のぼり旗等により事業の周知を行う。				
【実施後の実績】 購入整備するイス、テーブルに、ロゴマークを入れ、休憩ロビーに県民税のパンフレットを置き、税に関する情報を提供する。				
【今後の見込】 施設管内でのぼり旗やパンフレット等を設置し、施設利用者への県民税の周知を進めていく。				
7. 写真				
別紙のとおり				
8. その他特記事項				
特になし。				

対策区分 4. 木の薫る空間づくり

市町名 川越町

事業名 川越町総合体育館2階ロビー木材利用促進事業

7. 写真



写真1 木製ロビーチェア3人掛けの導入状況

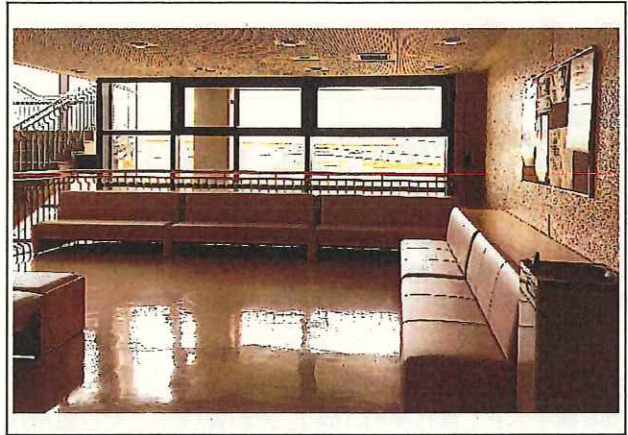


写真2 木製ロビーチェア3人掛けの導入状況



写真3 木製ロビーチェア3人掛けの導入状況



写真4 ロビーベンチ 設置状況

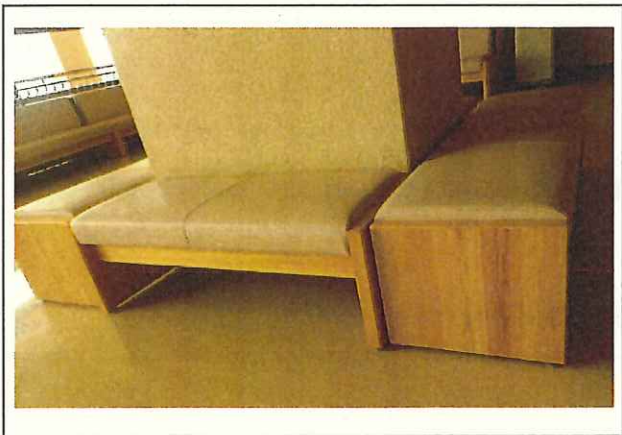


写真5 ロビーベンチ 設置状況

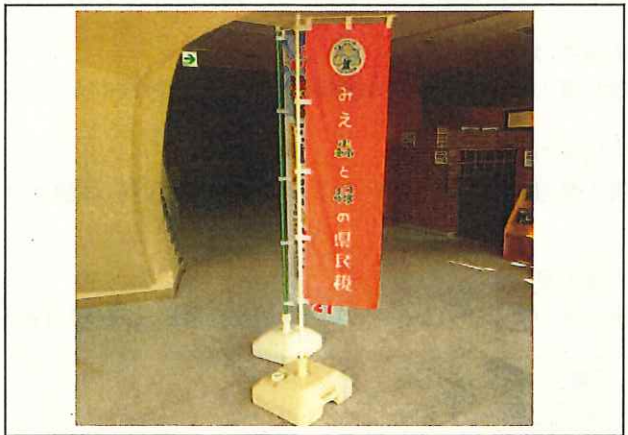


写真6 のぼりにより「みえ森と緑の県民税」を活用した事業であることを周知

対策区分	4. 木の薫る空間づくり		市町名	川越町
番号	区分	事業名		
2	基本・特別	川越町ふれあい広場木質化事業		
事業費	7,700,400 円(うち交付金	893,000 円	うち基金活用	円)

1. 事業の目的	<p>地元農家の方が地産地消をモットーに新鮮野菜などを販売している、ふれあい広場施設を整備する際に内装材に三重県産の木材を利用することにより、自然の木の良さを身近に感じてもらうことで、木材利用に対する理解を深め木材の利用促進を図ることを目的とする。</p>
2. 事業実績概要	<p>【事業内容】 川越町公共建築物等木材利用方針に基づき、三重県産材の木材利用促進を図りふれあい広場の木質化促進する。</p> <p>【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 川越町</p> <p>【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない。</p> <p>【箇所数】 1箇所(川越ふれあい広場)</p> <p>【事業量】 ふれあい広場 48.6㎡ 県産材を利用した内装 21.6㎡</p> <p>【事業実施期間】 平成30年7月30日～平成30年11月2日</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 利用者 平均30人/回/月4回(平成29年度実績)</p>
3. 有効性	<p>【実施箇所の選定理由】 ふれあい広場施設を整備する際に内装材に木材を利用することにより、自然の良さを身近に感じてもらい、木材利用に対する理解を深め木材の利用促進を図る。</p> <p>【実施した効果】 県産の木材を使用することにより温かみや木の肌触りと香りを感じることができ、木材利用に対する理解が深まった。</p> <p>【実施箇所の今後の管理体制】 実施箇所は町が所有する施設であり、今後も引き続き町が管理します。</p> <p>【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 実施箇所にロゴマークのポスターを掲示し税を活用した事業である事を周知します。</p> <p>【実施内容に対する住民等の反応】 内装材に木材を使用したことにより温かみや木の肌触りと香りを感じることができた。</p>

対策区分	4. 木の薫る空間づくり	市町名	川越町
------	--------------	-----	-----

番号	区分	事業名
2	基本・特別	川越町ふれあい広場木質化事業
事業費	7,700,400 円(うち交付金	893,000 円 うち基金活用 円)

4. 効率性	<p>【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 町による工事請負契約</p> <p>【実施方法の選定理由】 町が管理する施設であるため、町が発注しました。</p> <p>【契約方法と落札率または補助率等】 条件一般競争入札（落札率96.97%） 契約書(物品、その他用)の締結</p> <p>【契約相手方の選定理由】 入札額が最低金額の業者</p> <p>【事業費の積算根拠】 工事設計による。</p>
5. 公益性（波及度）	<p>【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 利用者 平均30人/回/月4回(平成29年度実績)</p> <p>【管理責任者（森林所有者）への対応】 個人が所有する森林等の整備ではなく、該当しない。</p> <p>【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 公共施設であるため、転用等が想定されず、該当しない。</p>
6. 周知実績と今後の周知	<p>【実施前の実績】 掲示板等でふれあい広場の利用者に対して事業の周知を行う。</p> <p>【実施中の実績】 工事看板等で税を利用している事業であることを周知する。</p> <p>【実施後の実績】 整備した箇所にロゴマークを掲示し、ふれあい広場に税事業に関する情報を提供する。</p> <p>【今後の見込】 引き続きふれあい広場の利用者へ、ポスターの掲示等により県民税の周知を進めていく。</p>
7. 写真	別紙のとおり
8. その他特記事項	特になし。

対策区分	4. 木の薫る空間づくり
------	--------------

市町名	川越町
-----	-----

事業名	川越町ふれあい広場木質化事業
-----	----------------

7. 写真



写真1
着工前(遠景)



写真2
事業完了(遠景)



写真3
事業完了(県産材を利用した内装の様子)



写真4
事業完了(県産材を利用した内装の様子)



写真5
事業完了(県産材を利用した内装の様子)

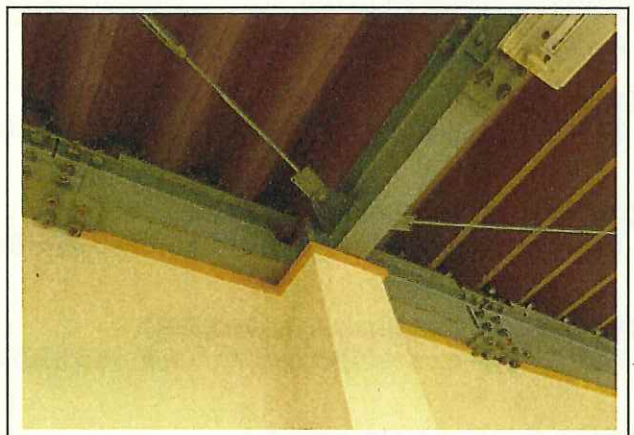


写真6
事業完了(県産材を利用した内装の様子)

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	川越町
番号	区分	事業名	
3	基本	川越町中部保育所園庭芝生化事業	
事業費	1,402,488 円(うち交付金	1,400,000 円	うち基金活用 円)

1. 事業の目的	保育所の園庭の一部を芝生化し、子どもたちが芝生に触れることで自然環境の緑にふれあう空間を提供する。
2. 事業実績概要	<p>【事業内容】 保育所の園庭の一部を芝生化する。</p> <p>【実施主体（補助事業は補助事業実施主体）】 川越町</p> <p>【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない。</p> <p>【箇所数】 1箇所(川越町中部保育所)</p> <p>【事業量】 芝生化面積:約269.45㎡</p> <p>【事業実施期間】 平成31年1月22日～平成31年3月29日</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 204人(園児数63名・保育士15名・保護者126名(平成29年度実績))</p>
3. 有効性	<p>【実施箇所の選定理由】 次世代を担う園児たちや保護者に対し、緑の空間を与えることにより自然にふれあう機会や知識を深めるために平成26年度から継続的に実施しており、中部保育所が5箇所目となる。</p> <p>【実施した効果】 園児が緑を育てる楽しさを感じる機会ができ、身近な自然に触れる体験をできる場を作ることができた。</p> <p>【実施箇所の今後の管理体制】 実施箇所は町が所有する施設であり、今後も引き続き町が管理します。</p> <p>【実施箇所の活用状況または今後の活用計画】 実施箇所にロゴマークを入れ税を活用した事業である看板を設置した。</p> <p>【実施内容に対する住民等の反応】 遊具等の周辺への芝生化の実施により、緑に触れる機会が増え、「ケガ等の危険性減少に繋がる」と保護者から声をいただいています。</p>

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	川越町
------	--------------------	-----	-----

番号	区分	事業名
3	基本	川越町中部保育所園庭芝生化事業
事業費	1,402,488 円(うち交付金	1,400,000 円 うち基金活用 円)

4. 効率性	<p>【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】 町による請負</p> <p>【実施方法の選定理由】 町が管理する施設であるため、町が発注しました。</p> <p>【契約方法と落札率または補助率等】 請書の締結</p> <p>【契約相手方の選定理由】 町の会計規則(地方自治法施行令第167条の2第1項第1号、規則で定める額を超えないもの)に基づき、随意契約とした。</p> <p>【事業費の積算根拠】 見積もりを徴収したところ、予定価格以内であった。</p>
--------	--

5. 公益性（波及度）	<p>【受益者、参加者、利用者の数と把握方法】 204人(園児数63名・保育士15名・保護者126名(平成29年度実績))</p> <p>【管理責任者（森林所有者）への対応】 個人が所有する森林等の整備ではなく、該当しない。</p> <p>【実施箇所の転用、目的外使用の規制等】 公共施設であるため、転用等が想定されず、該当しない。</p>
-------------	--

6. 周知実績と今後の周知	<p>【実施前の実績】 掲示板等で保育園等の利用者に対し事業の周知を行う。</p> <p>【実施中の実績】 工事看板にロゴマークを使用し、税を活用した事業であることを明記し、周知を図る。</p> <p>【実施後の実績】 掲示板及び町の広報誌(町全域6,300世帯に配布)に税を活用した事業である記事を掲載予定。</p> <p>【今後の見込】 導入した木製遊具により、園児に木の良さを体験してもらうとともに、園内だより等で保護者へ税事業の周知等を行う。</p>
---------------	---

7. 写真	別紙のとおり
-------	--------

8. その他特記事項	特になし。
------------	-------

対策区分

5. 地域の身近な水や緑の環境づくり

市町名

川越町

事業名

川越町中部保育所園庭芝生化事業

7. 写真

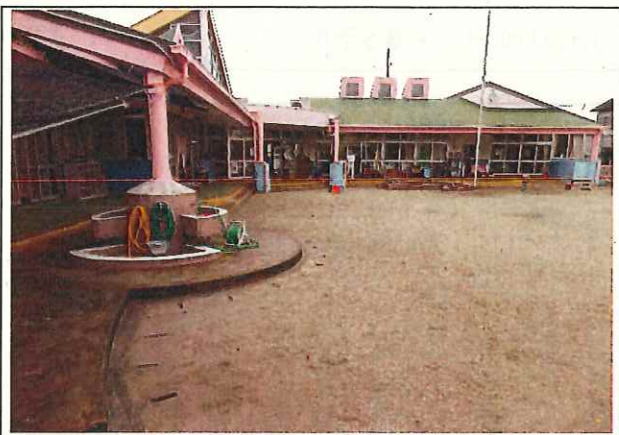


写真1

着工前



写真2

事業完了



写真3

着工前



写真4

事業完了



写真5

事業完了



写真6

事業完了